A-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/hを超えたときの車両機能や状態などについての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオに関しては、別冊の「AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー取扱説明書」をご覧ください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

E

S

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環　境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷37 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置に触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。ただし、後ろ向きに装着するときは、中央後席に装着しないでください。

  やむを得ず助手席に装着するときは前向きに装着し、助手席をもっとも後ろでもっとも高い位置にしてください。
- 子供を助手席に座らせるときは、シートをもっとも後ろの位置にしてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアのチャイルドプルーフロック（▷41 ページ）やリアドアウインドウのセーフティスイッチ（▷41 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやパノラミックラメラールーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチックトランスミッション（オートトロニック）」もあわせてお読みください（▷92ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低い変速比（ギア）に切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D、R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になります。

- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

オーディオの操作

オーディオの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

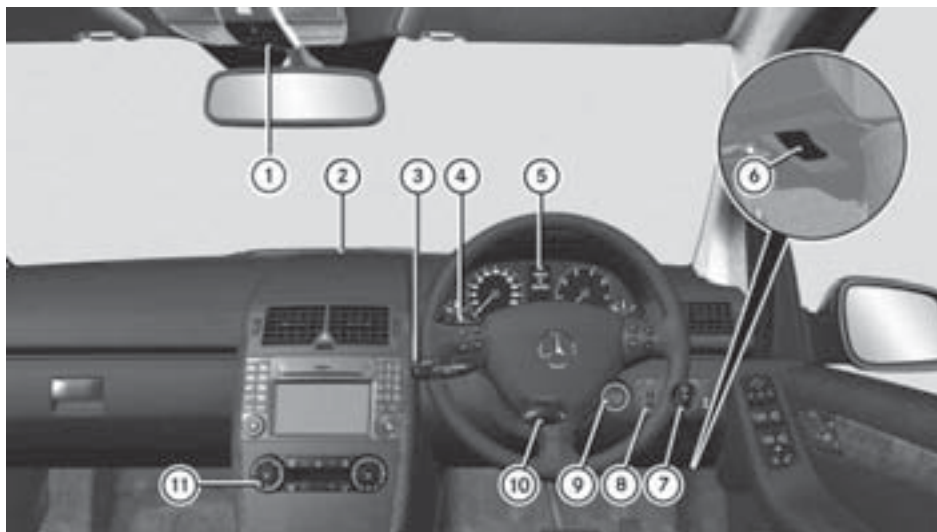
データを使用して、車両の動きをさかのぼって調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

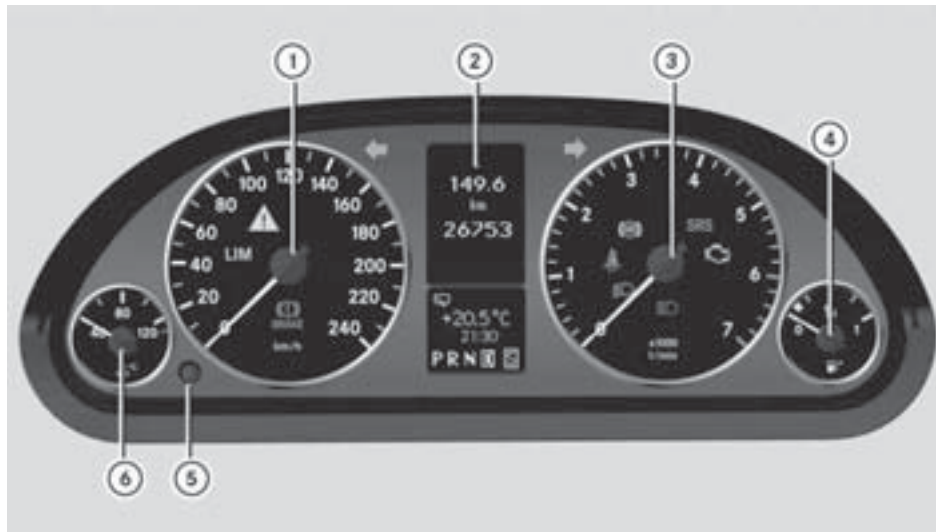
AM / FM ラジオ & CD / DVD プレーヤーでは、ナビゲーション * や電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「AM / FM ラジオ & CD / DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

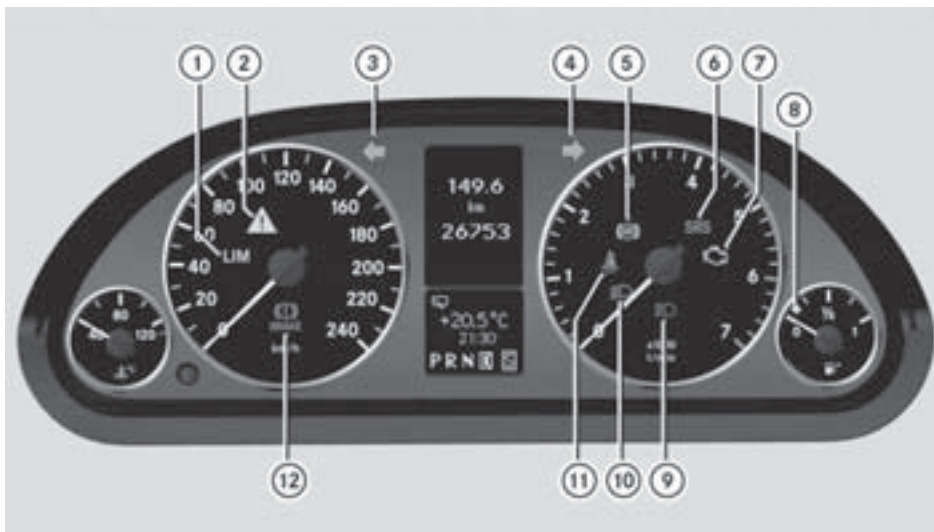
* オプションや仕様により、異なる装備です。

インストルメントパネル

	名称	ページ
①	前席上方の操作部	25
②	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯 *	133
③	コンビネーションレバー (ヘッドランプ / 方向指示 / フロントワイパー / リアワイパー)	75 76 81 82
④	クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	126 129
⑤	メーターパネル	98
⑥	ボンネットロック解除レバー	180
⑦	ランプスイッチ	72
⑧	ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル *	77
⑨	エンジンスイッチ	54
⑩	ステアリングロック解除ハンドル	63
⑪	エアコンディショナーコントロールパネル	136 143

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

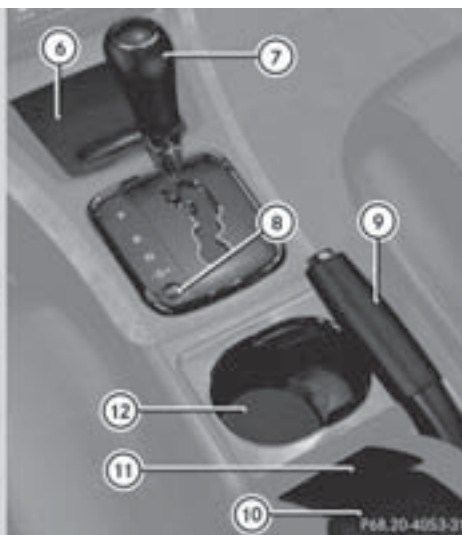
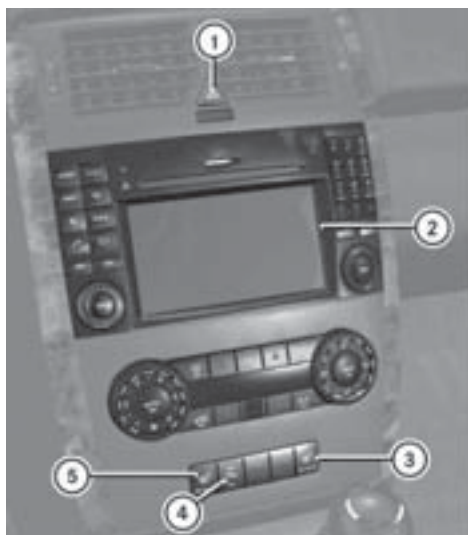
メーターパネル

	名称	ページ
①	スピードメーター	100
②	マルチファンクションディスプレイ	101
③	タコメーター	100
④	燃料計	99
⑤	メーターパネル照度調整ボタン／リセットボタン	99
⑥	エンジン冷却水温度計	99

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	可変スピードリミッター表示灯	130
②	ESP® 表示灯	46
③ ④	方向指示表示灯	76 77
⑤	ABS 警告灯	43
⑥	SRS 警告灯	29
⑦	エンジン警告灯	234
⑧	燃料残量警告灯	99
⑨	ハイビーム表示灯	75
⑩	ヘッドランプ表示灯	73

	名称	ページ
⑪	シートベルト警告灯	69
⑫	ブレーキ警告灯	234

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	101
②	AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー	別冊
③	[+] [−] 設定スイッチ / 音量スイッチ	101
④	[通話開始] [通話終了] 通話開始 / 終了スイッチ（電話）	101
⑤	[▲] [▼] スクロールスイッチ	101
⑥	[◁] [▷] 表示切り替えスイッチ	101

センターコンソール

	名称	ページ
①	非常点滅灯スイッチ	76
②	AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー	別冊
③	シートヒータースイッチ *（運転席）	61
④	パークトロニックオフスイッチ *	134
⑤	シートヒータースイッチ *（助手席）	61

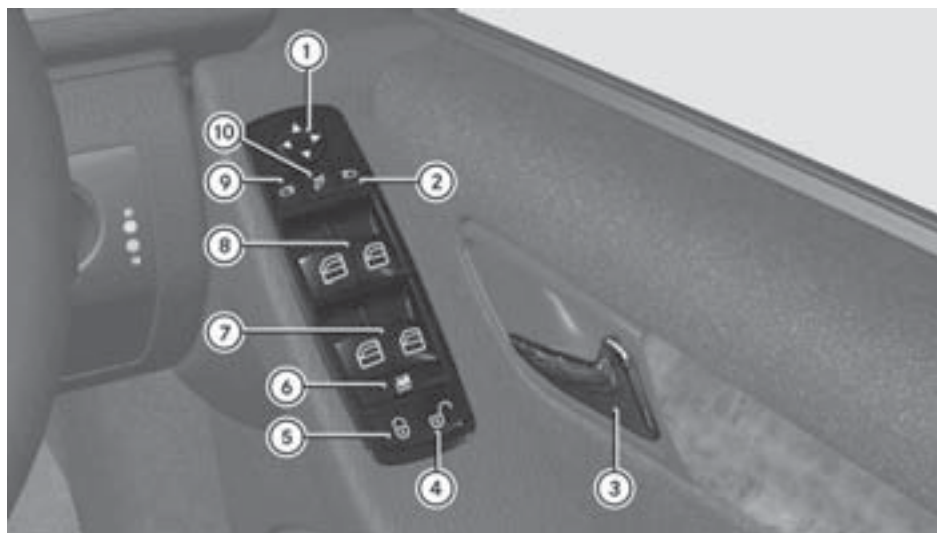
	名称	ページ
⑥	灰皿 ライター	170 171
⑦	セレクターレバー	88 92
⑧	走行モード選択スイッチ	94
⑨	パーキングブレーキレバー	91
⑩	フロントアームレスト	59
⑪	フロントアームレストの小物入れ	157
⑫	カップホルダー	158

* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	リアルームランプスイッチ	79
②	点灯モード選択スイッチ	79
③	パノラミックラメラールーフスイッチ *	154
④	フロント読書灯（右側）スイッチ	79
⑤	ルームミラー	64
⑥	フロント読書灯（左側）スイッチ	79
⑦	フロントルームランプスイッチ	79

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアの操作部

	名称	ページ
①	ドアミラー調整スイッチ	64
②	運転席側ドアミラー選択スイッチ	64
③	ドアレバー	50 51
④	ドアロックスイッチ（解錠）	52
⑤	ドアロックスイッチ（施錠）	52
⑥	リアウインドウのチャイルドプルーフロックスイッチ	41

	名称	ページ
⑦	ドアウインドウスイッチ（リア）	84
⑧	ドアウインドウスイッチ（フロント）	84
⑨	助手席側ドアミラー選択スイッチ	64
⑩	ドアミラー格納 / 展開スイッチ	65

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトやシートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグは、効果を高めるために補い合い連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷56 ～ 58、60 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷67 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください。（▷31 ページ）
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ けがのおそれがあります

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故のときなどに、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS SRS 警告灯

エンジンスイッチを **1** の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ けがのおそれがあります

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- エンジンスイッチを **1** の位置にしたときは数秒後に、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向などに基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

フロントシートベルトと左右のリアシートベルトに装備されています。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- エンジンスイッチが **2** の位置のとき
- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき

リアシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用に関わらず作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の横方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートベルトと左右のリアシートベルトに装備されています。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。

! シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。

! シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。

! シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

i シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

i シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

i ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、車は自動的に解錠されます。

エアバッグ

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。

- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ けがのおそれがあります

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロントシートのバックレスト側面

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

! エアバッグの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

i ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、車は自動的に解錠されます。

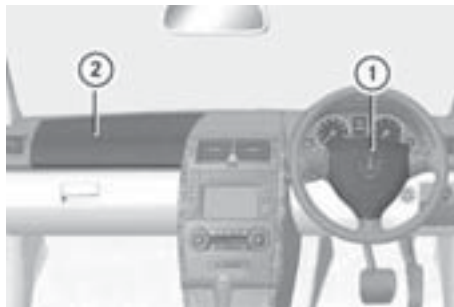
⚠ **火傷やけがのおそれがあります**

- エアバッグの関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
サイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

運転席エアバッグ ①/ 助手席エアバッグ ② は、前方からの強い衝撃を受けると作動し、運転席 / 助手席乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。

サイドバッグ

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> フロントシートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグ ① が作動し、乗員の胸部への衝撃を分散・軽減します。

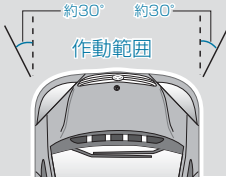
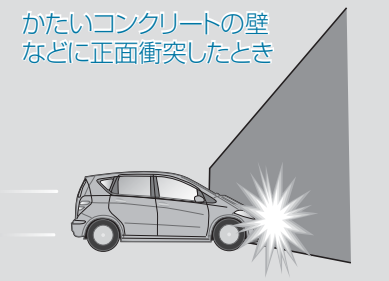
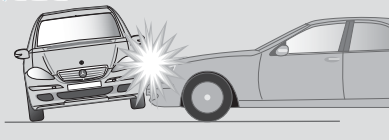
サイドバッグは、シートベルトの着用や運転席 / 助手席エアバッグの作動、シートベルトテンショナーの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

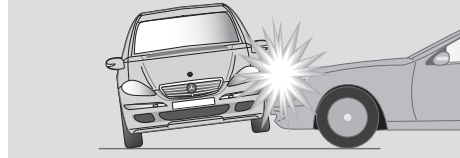
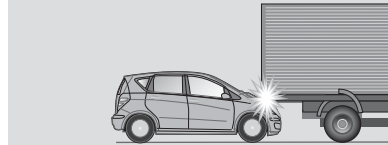
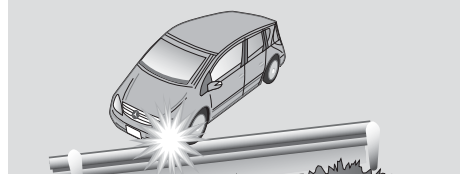
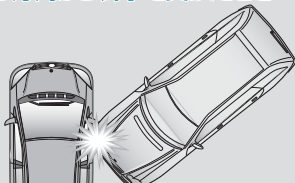
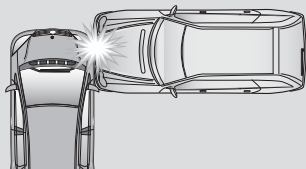
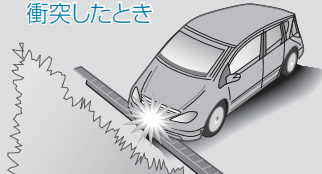
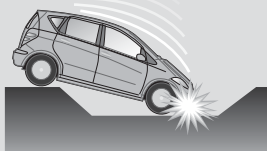
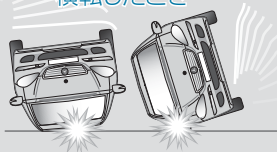
ウインドウバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグ ① が作動し、頭部への衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、助手席乗員の有無、シートベルトの着用、運転席 / 助手席エアバッグの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

アクティブヘッドレスト

アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方に動くことにより、乗員の頭部や頸部をより効果的に支持します。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

⚠ けがのおそれがあります

フロントシートのヘッドレストの支柱にハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。

子供を乗せるとき

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。

シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
- 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
- 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
- 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

重い物やかたい物を積載するときは、確実に固定してください。

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。

- 急ブレーキ
- 急な進路変更
- 事故

荷物を積むときの注意点や荷物の固定について、詳しくは（▷155 ページ）をご覧ください。

チャイルドセーフティシート

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートは、後席に装着してください。
- リアアームレスト装備車は、後席中央に後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。
- やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席をもっとも後ろでもっとも高い位置にしてください。
- 助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、サンバイザーに貼付されています。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 10kg 以下または約 13kg 以下	新生児～9 カ月位または18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～4 歳位
キッド	15 ～ 36kg	3 歳半～12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右の後席に、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置 ① を装備しています。

⚠ けがのおそれがあります

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗せるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを後席のシートベルトで装着してください。

⚠ けがのおそれがあります

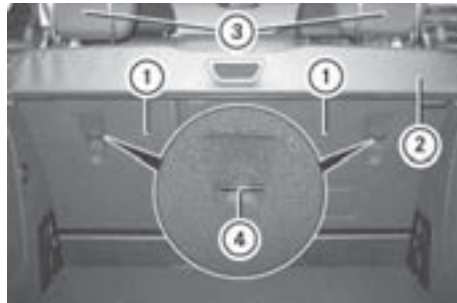
チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着方法を誤ると、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れて子供や他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

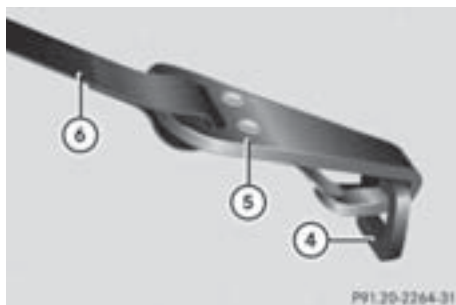
チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い衝撃を受けた場合は、必ず新品に交換してください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、後席中央のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

テザーアンカー

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故のときなどにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

左右の後席バックレストの背面にテザーアンカー ④ を装備しています。

▶ リアヘッドレスト ③ をいっぱいまで上げます。

▶ 後席のバックレスト ① のロックを解除して、前方に少し傾けます。

▶ リアヘッドレスト ③ の 2 本の支柱の間にテザーベルト ⑥ を通します。

▶ テザーフック ⑤ をテザーアンカー ④ にかけます。このとき、テザーベルト ⑥ が後席のバックレスト ① とラゲッジルームカバー ② の間を通るようにします。

▶ テザーベルト ⑥ がねじれていないことを確認します。

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従い、テザーベルトと ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを取り付けます。また、テザーベルト ⑥ が締め付けられていることを確認します。

▶ 後席のバックレスト ① を元の位置に戻して確実にロックします。

バックレストのロックインジケーター（▷163 ページ）が見えていないことを確認します。

⚠ けがのおそれがあります

後席のバックレストを元の位置に戻したときは、確実にロックされていることを確認してください。バックレストのロックインジケーターが見えているときはバックレストがロックされていないため、事故のときなどにラゲッジルームの荷物が前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

▶ 必要であれば、リアヘッドレスト ③ を下げます。

テザーベルト ⑥ の動きが妨げられていないことを確認します。

▶ チャイルドセーフティシートの取扱説明書に従い、テザーベルト ⑥ に ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。

テザーベルトに緩みがないことを確認します。

チャイルドプルーフロック

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

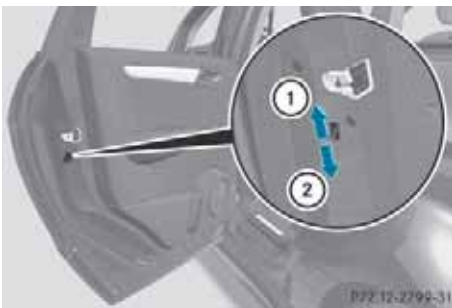
- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

⚠ 事故やけがのおそれがあります

子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

⚠ **けがのおそれがあります**

- チャイルドセーフティシートに子供を乗車させているときも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。事故の原因になったり、運転装置に触れてけがをするおそれがあります。また、車内が高温または低温になった状態では、命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供がリアドアを開くと、事故やけがの原因になります。

リアドアのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ 設定するときは、レバーを設定側 ② に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、ドアが開かないことを確認します。

▶ 解除するときは、レバーを解除側 ① に操作します。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの開閉ができなくなります。

▶ セーフティスイッチ ① を押して、スイッチが押された状態にします。

リアドアのスイッチではリアドアウインドウが操作できなくなります。

▶ 解除するときは、再度セーフティスイッチ ① を押して、スイッチが押されていない状態にします。

ℹ リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックの設定 / 解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック･ブレーキング･システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- ステアコントロール

⚠ **事故のおそれがあります**

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ℹ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ポンピングブレーキは行なわないでください。制動力が減少して制動距離が長くなり、停車しきれずに事故を起こすおそれがあります。ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをスムーズにしっかりと踏み込んでください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷223、224 ページ）をご覧ください。

i ABS に異常があると、ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

(ABS) ABS 警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。

通常のブレーキは作動しますが、ABS、BAS、ESP® は作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ 事故のおそれがあります

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは BAS は作動しません。詳しくは(▷223、224 ページ）をご覧ください。

ℹ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ℹ BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

ℹ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、車輪の空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個別の車輪に独立してブレーキを効かせたり、エンジン出力を制限することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

発進時または走行中に ESP® 表示灯が点滅したときは、ESP® が作動しています。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは （▷223 ～ 225 ページ）をご覧ください。

! ダイナモメーターを使用してパーキングブレーキをテストするときや、車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを **2** の位置にしないでください。ESP® が作動し、接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ℹ エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ESP® 表示灯や ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを **0** の位置に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、故障 / 警告メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

ℹ 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります（走行中に ESP® 表示灯が点滅したままになります）。

ℹ ABS 警告灯 [ABS] が点灯しているときや ABS に故障や異常が発生したときは、ESP® も作動しません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ ESP® 表示灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

> **⚠ 事故のおそれがあります**
>
> ESP® 表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
>
> - 急ハンドル
> - 急ブレーキ
> - 急発進、急加速
> - 急激なエンジンブレーキ

ステアコントロール

ステアコントロールは、タイヤの横滑り時や左右輪で路面状況が異なる路面での急加速およびブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、ステアリングを振動させることで運転者に不安定な状況を伝えるとともにステアリング操作を自動的に補正し、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

> **⚠ 事故のおそれがあります**
>
> - ステアコントロールは車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ステアコントロールが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
> - ステアコントロール作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
> - ESP® に異常があるときは、ステアコントロールも作動しませんが、ステアリングは通常通り操作できます。

! ステアコントロールに異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに ABS または ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ABS 警告灯 (ABS) が点灯します。詳しくは（▷223 ～ 225、233 ページ）をご覧ください。

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ 事故のおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内のドアレバーを引いてドアを開いたり、運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! キーは衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動のおそれがあります。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコン機能に障害が発生するおそれがあります。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! ルーフアンテナを必ず取り付けてください（▷212 ページ）。ルーフアンテナが取り付けられていないと、リモコンの感度が低下し、リモコンが作動しなくなるおそれがあります。

i 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

リモコン機能

① 施錠ボタン
② 解錠ボタン

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷85、86 ページ）

操作時にキーの表示灯が 1 回点滅します。

解錠する

▶ 解錠ボタン ② を押すと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

施錠する

▶ 施錠ボタン ① を押すと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したこと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが確実に施錠されたことを確認してください。

リモコン機能の設定の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠するように設定することができます。

リモコン機能の設定を切り替える

▶ 解錠ボタン ② と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン ② を 1 回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠されます。
- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン ② を押すと、助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠されます。

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 再度、解錠ボタン ② と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

ℹ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作を行なわないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

ℹ キーの電池が消耗すると操作時にキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

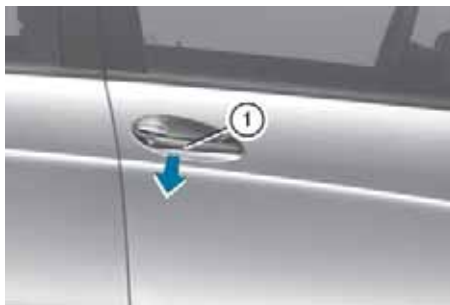
ℹ 車がバッテリーあがりを起こしたときは、キーの電池が正常でもリモコン操作での解錠 / 施錠はできません。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。点灯したランプは、運転席ドアを開いたとき、または約 40 秒後に消灯します。

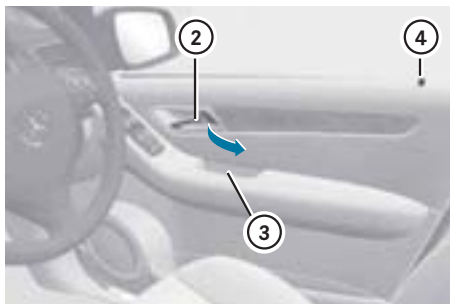
この機能の設定と解除については（▷116 ページ）をご覧ください。

ドア

ドアの開閉

車外から開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

車内から開く

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ④ が上がり、解錠されます。

車内から閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

※ ロケイターライティングは、日本仕様には装備されません。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

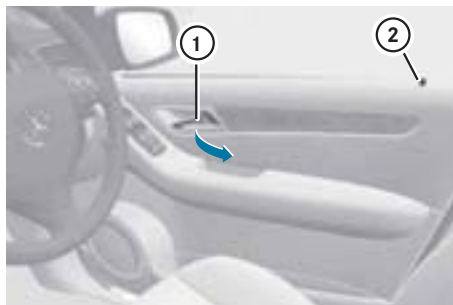
! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ず施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷227ページ）。

ℹ ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。

ℹ 各ドアのドアポケットにボトルホルダーが装備されています。

ドアごとに解錠 / 施錠する

ドアを解錠する

▶ ドアレバー ① を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

ドアを施錠する

▶ ロックノブ ② を押し込みます。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ℹ 助手席ドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ドアロックスイッチ

車内から、スイッチ操作ですべてのドアとテールゲートを解錠 / 施錠することができます。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）② を押します。

施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）① を押します。

⚠ 事故のおそれがあります

子供だけを残して車から離れないでください。ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。

ⓘ リモコン操作で施錠しているときは、ドアロックスイッチで解錠することはできません。

ⓘ ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。

ⓘ 助手席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチで施錠することはできません。

ⓘ 運転席ドアが開いているときにドアロックスイッチ（施錠）① または（解錠）② を押すと、他のドアとテールゲートが施錠 / 解錠します。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（▷119 ページ）をご覧ください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、ダイナモメーター上でテストを行なうときは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

ⓘ 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

テールゲート

中毒のおそれがあります

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

けがのおそれがあります

ラゲッジルームに乗車しないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

テールゲートの開閉

テールゲートを開く

テールゲートは車が解錠されているときのみ開くことができます。

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ テールゲートハンドル ① を引きます。

テールゲートのロックが解除され、テールゲートが少し開きます。

▶ テールゲートを開きます。

テールゲートを閉じる

けがのおそれがあります

テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

▶ 凹部 ② に手をかけてテールゲートを引き下げ、次に外側からテールゲートを軽く押さえます。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

! 強風のときにテールゲートを開くと、風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! テールゲートを開くときは、ルーフアンテナがテールゲートと接触しないようにルーフアンテナの角度を調整してください。ルーフアンテナやテールゲートを損傷するおそれがあります。

! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

! テールゲートが開いているときにリモコン操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

i テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

エンジンスイッチ

エンジンスイッチの位置

	作動内容
0	0：キーを差し込む / 抜く位置
1	1：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
2	2：走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
3	3：エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを 3 の位置までまわして手を放すと、自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

⚠ **火災や事故のおそれがあります**

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを残して車から離れないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 車のバッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

i セレクターレバーが P に入っていないときはエンジンスイッチからキーを抜くことができません。

i エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。

i キーの発信部が覆われていたり汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

i 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがありますが、エンジンスイッチ位置の選択や、エンジンの始動はできません。

タッチスタート

エンジンスイッチを **3** の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

シート

⚠ 事故のおそれがあります

運転席シートは、必ず停車しているときに調整してください。走行中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

シートを調整するときは、身体や物などが挟まれないように注意してください。

シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もお読みください（▷31ページ）。

⚠ けがのおそれがあります

ヘッドレストは、ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。事故などのときに、重大なけがをするおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

! シートやシートヒーター * の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- 長時間、シートに液体が付着したままにしないでください。
- シートカバーが濡れたときは、シートを乾燥させるためにシートヒーター * を使用しないでください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。

  シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーター * の使用中は、カバーやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

手動式シート * の調整

⚠ けがのおそれがあります

- シートの高さを不用意に調整すると、けがをするおそれがあります。
- シートを調整している間は、シート調整レバーの下やシートの可動部分に手を入れないでください。
- 子供が乗車するときは、シート調整レバーの下やシートの可動部分に手を入れないように注意してください。

左側フロントシート

シートの前後位置を調整する

▶ レバー ① を上方に引いたままシートを前後に動かします。

シートクッションの角度を調整する

▶ ダイヤル ② をまわします。

シートの高さを調整する

シートを上げる

▶ レバー ③ を繰り返し上げます。

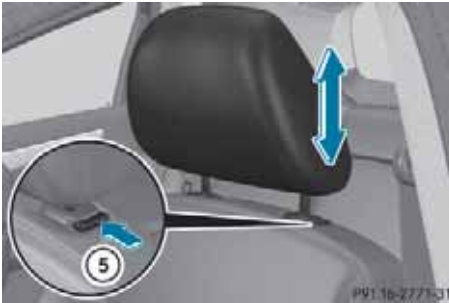
シートを下げる

▶ レバー ③ を繰り返し下げます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

バックレストの角度を調整する

▶ ダイヤル ④ をまわします。

ヘッドレストの高さを調整する

▶ 上げるときはそのまま引き上げます。

▶ 下げるときはロック解除ノブ ⑤ を押しながらヘッドレストを下げます。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの上側を押して / 引いて調整します。

ヘッドレストを取り外す

▶ ロック解除ノブ ⑤ を押しながらヘッドレストを引き抜きます。

ヘッドレストがルーフ内張りに接触するときは、シートの高さを下げ、バックレストを前後いずれかの方向に傾けてください。

ヘッドレストを取り付ける

▶ 切り欠きのある支柱が左側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックします。

⚠ **けがのおそれがあります**

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のときに、重大なけがをするおそれがあります。

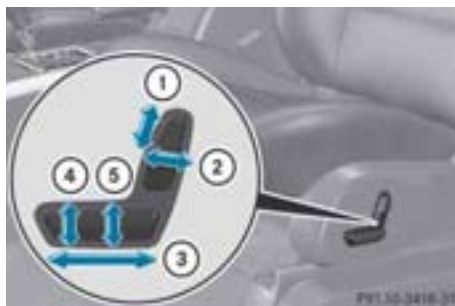
電動式シート * の調整

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **けがのおそれがあります**

- シートの高さを不用意に調整すると、けがをするおそれがあります。特に子供は、シート調整スイッチを不用意に操作してけがをするおそれがあるため、以下のことに注意してください。
- シートを調整している間は、シートの下やシートの可動部分に手を入れないでください。
- 子供が乗車するときは、シートの下やシートの可動部分に手を入れないように注意してください。

左側フロントシート
① ヘッドレストの高さ
② バックレストの角度
③ シートの前後位置
④ シートクッションの角度
⑤ シートの高さ

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに操作できます。

ℹ エンジンスイッチを **0** の位置にするかエンジンスイッチからキーを抜いてから、またはフロントドアを開いてから約 5 分間はシートの調整ができます。

シートを調整する

▶ スイッチを矢印 ① 〜 ⑤ の方向に操作します。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの上側を押して / 引いて調整します。

ヘッドレストを取り外す

▶ スイッチでヘッドレストをいっぱいまで上げてから、ヘッドレストの支柱を持ち、引き上げます。

ヘッドレストがルーフ内張りに接触するときは、シートの高さを下げ、バックレストを前後いずれかの方向に傾けてください。

ヘッドレストを取り付ける

▶ ヘッドレストの前後の向きに注意して、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込み、ロックされるまで押し込みます。

⚠ **けがのおそれがあります**

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のときに、重大なけがをするおそれがあります。

フロントアームレスト

アームレストを前方に移動する

▶ アームレスト ① 全体を前方にスライドさせます。

アームレストを後方に移動する

▶ アームレスト ① 全体を後方にスライドさせます。

⚠ **けがのおそれがあります**

アームレストを移動するときは、身体が挟まれないように注意してください。

ℹ アームレストを前方に移動させると、フロントアームレスト後部の小物入れ（▷157 ページ）が使用できます。

ランバーサポート

バックレストの形状を調整することができます。

ランバーサポートを強くする

▶ レバー ① を下方へ操作します。

ランバーサポートを弱くする

▶ レバー ① を上方へ操作します。

リアアームレスト

リアアームレストを使用する

▶ リアアームレスト ① を矢印の方向に引き出します。

収納するときは押し込みます。

ⓘ リアアームレストにはカップホルダーが装備されています。

! アームレストの上に座ったり、体重をかけないでください。アームレストを損傷するおそれがあります。

! リアアームレストを収納するときは、カップホルダーを収納してください。カップホルダーを損傷するおそれがあります。

リアヘッドレストの調整

ヘッドレストの高さを調整する

▶ 上げるときはそのまま引き上げます。

▶ 下げるときはロック解除ノブ ① を押しながらヘッドレストを下げます。

ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整します。

ヘッドレストの角度を調整する

左右のリアヘッドレストは角度を調整することができます。

▶ ヘッドレストの下側を押して / 引いて調整します。

※ リアアームレストは日本仕様には装備されません。

リアヘッドレストの脱着

⚠ けがのおそれがあります

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のときに、重大なけがをするおそれがあります。

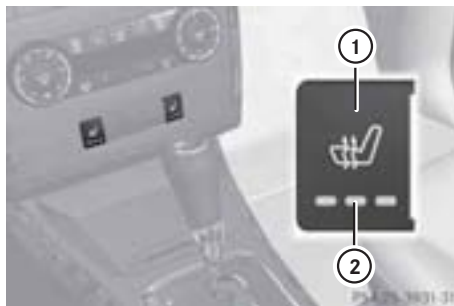
リアヘッドレストを取り外す

▶ バックレストを前方に傾けます（▷163 ページ）。

▶ ロック解除ノブ ① を押しながらヘッドレストを引き抜きます。

リアヘッドレストを取り付ける

▶ 切り欠きのある支柱が左側になるようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックします。

シートヒーター *

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ ① を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯 ② の数が変わり、シートヒーターの作動が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ ① を押して、表示灯 ② を消灯させます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車両の操作

表示灯の点灯数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

⚠ **火傷のおそれがあります**

シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。

異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

! 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

i 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときはシートヒータースイッチの表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

ステアリング

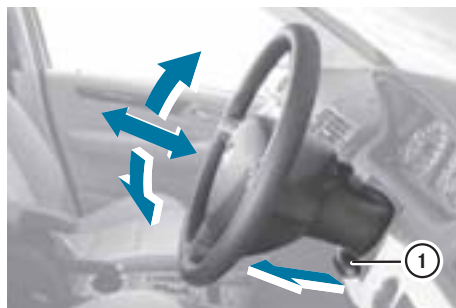
⚠ 事故のおそれがあります

ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。また、ステアリングが確実にロックされていないときは走行しないでください。ステアリングがロックされていない状態で走行すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいまでまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

① ロック解除ハンドル

ステアリング位置を調整する

▶ ステアリング下のロック解除ハンドル ① を手前に引きます。

▶ ステアリングを前後上下に動かして正しい位置に調整します。

▶ ロック解除ハンドル ① を前方に押してロックします。

▶ ステアリングが確実にロックされていることを確認します。

ミラー

⚠ **事故のおそれがあります**

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーやドアミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

角度を調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ルームミラーの手動防眩

ルームミラーを防眩にする

▶ ノブ ① を前後に動かします。

自動防眩機能

周囲が暗くエンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、ルームミラーのセンサー ① が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

⚠ **事故のおそれがあります**

荷物を高く積み上げているときなど、ルームミラーのセンサーが後続車のライトに照射されないときは、自動防眩機能は作動しません。このときは、ライトに眩惑され、周囲の交通状況を把握できずに事故を起こすおそれがあります。ルームミラーの角度を調整して、眩しさを防いでください。

! ルームミラーのガラスが損傷すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、目や皮膚に直接触れないよう注意してください。

※ 自動防眩機能付ルームミラーは、日本仕様には装備されません。

! 万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水を湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

i セレクターレバーが R に入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能が解除されます。

ドアミラー

⚠ **事故のおそれがあります**

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

i ドアミラーにはヒーターが装備されています。以下のときには自動的に温められ、凍結を防ぎます。

- リアデフォッガー（▷140、150ページ）を使用しているとき
- エンジンがかかっていて、外気温度が低いとき

ドアミラーの角度調整

ドアミラーの角度を調整する

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ 調整する側のドアミラー選択スイッチ ① または ② を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

何も操作を行なわないと、表示灯は約 15 秒後に消灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ③ を操作してドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの格納 / 展開

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに操作することができます。

ドアミラーを格納する

▶ 格納 / 展開スイッチ ④ を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、格納 / 展開スイッチ ④ を押します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ エンジンスイッチを **1** の位置にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ ④ を押します。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納することができます。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については (▷120 ページ) をご覧ください。

ℹ ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されません。事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷37 ページ）をご覧ください。
- 子供がシートベルトを着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

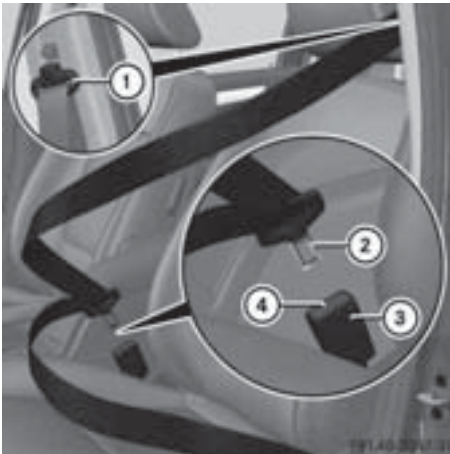
⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートベルトを正しく着用していて、バックレストができるだけ垂直に近い位置になっていることを確認してください。

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトが以下のようなときは、シートベルトの機能が十分に発揮されません。事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトに大きな負荷がかかったとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを使用して、重い荷物などを固定しないでください。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトに大きな負荷がかかったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
- シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。

シートベルトを着用する

▶ フロントシートは、シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート ② の先端をバックル ③ に差し込みます。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引き上げて、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレートを持ち、バックル ③ の解除ボタン ④ を押し、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれて、ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換する必要があります。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンスイッチが **2** の位置のときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

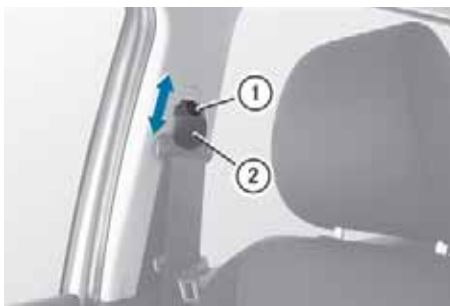
運転席の乗員がシートベルトを着用しないでエンジンスイッチを **2** の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただしシートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ℹ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

シートベルトの高さ調整

フロントシートベルトは、高さを調整できます。

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

高さは 5 段階に調整できます。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、アンカー ② を持ちそのまま押し上げます。

▶ 下げるときはロック解除ボタン ① を押しながら下げます。

調整後は確実にロックしていることを確認してください。

正しい運転姿勢

⚠ けがのおそれがあります

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

正しい運転姿勢になるようにシートを調整してください。

▶ 以下のことに注意して、シート③とヘッドレストを調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- バックレストはできるだけ垂直にして、正しい姿勢で着座する
- シートベルトが正しく着用できる
- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める
- ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられている

- 以下のことに注意して、ステアリング ① を調整します。
  - ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
  - 足を十分に動かせる
  - メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる
- 以下のことに注意して、シートベルト ② を装着します。
  - シートベルトが身体に密着している
  - 肩を通るベルトが肩の中央を通っている
  - 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置を通っている
- 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

ランプ

ランプスイッチ

フロントフォグランプ装備車
① ランプスイッチ
② フロントフォグランプ表示灯 *
③ リアフォグランプ表示灯

位置	作動内容
0	すべてのランプが消灯
AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
(車幅灯)	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯
(ヘッドランプ)	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯
P→	右側パーキングランプが点灯
←P	左側パーキングランプが点灯

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ランプスイッチが [パーキングランプ] の位置で、エンジンスイッチにキーが差し込まれていないときは、運転席ドアを開くと警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾗｲﾄ ｼｮｳﾄｳ " と表示されます。

i 車から離れるときに警告音が鳴ったときは、ランプが消灯していません。ランプスイッチを [0] の位置にしてください。

! バッテリーあがりを防ぐため、車から離れるときは、車幅灯とパーキングランプを消灯してください。

ヘッドランプ

ヘッドランプは手動または自動で点灯 / 消灯することができます。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ ランプスイッチ ① を [ヘッドランプ] の位置に合わせます。

ヘッドランプが点灯し、メーターパネルのヘッドランプ表示灯 [ヘッドランプ] が点灯します。

ヘッドランプを自動で点灯する

▶ ランプスイッチ ① を [AUTO] の位置に合わせます。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを **1** の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯し、メーターパネルのヘッドランプ表示灯 [ヘッドランプ] が点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- ランプスイッチを [AUTO] から [ヘッドランプ] の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。
- 以下のような状況ではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき
  - ◇ 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき

ℹ ヘッドランプが点灯しているときに、エンジンを停止するか、エンジンスイッチを **1** の位置にすると、ヘッドランプは消灯します。

さらにエンジンスイッチを **0** の位置にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

ℹ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が作動しなくなります。

フォグランプ（フロントフォグランプ非装備車）

リアフォグランプを点灯する

▶ エンジンスイッチが **2** の位置でランプスイッチ ① の位置が 〔≣D〕 のときに、ランプスイッチ ① を引きます。

リアフォグランプが点灯し、リアフォグランプ表示灯 ③ が点灯します。

リアフォグランプを消灯する

▶ ランプスイッチ ① を押します。

リアフォグランプが消灯し、リアフォグランプ表示灯 ③ が消灯します。

フォグランプ（フロントフォグランプ装備車）

フロントフォグランプを点灯する

▶ エンジンスイッチが **2** の位置でランプスイッチ ① の位置が 〔⊰○○⊱〕 または 〔≣D〕 のときに、ランプスイッチ ① を 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 ② が点灯します。

フロント / リアフォグランプを点灯する

▶ エンジンスイッチが **2** の位置でランプスイッチ ① の位置が 〔⊰○○⊱〕 または 〔≣D〕 のときに、ランプスイッチ ① を 2 段階引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 ② とリアフォグランプ表示灯 ③ が点灯します。

フロント / リアフォグランプを消灯する

▶ ランプスイッチ ① を 2 段階押します。

フロントフォグランプとリアフォグランプが消灯し、フロントフォグランプ表示灯 ② とリアフォグランプ表示灯 ③ が消灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ランプスイッチが AUTO の位置のときは、フォグランプを点灯することができません。

霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを ≣D の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

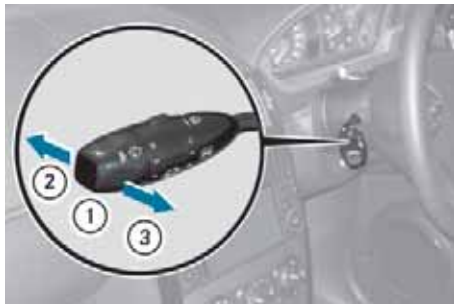
パーキングランプ

パーキングランプは、暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、片側の車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチ ① を P≦→ または ←P≦ に合わせます。

ヘッドランプ上向き / 下向きの切り替え

ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを ② の位置にします。

ヘッドランプが上向きになり、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

パッシング

▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに、コンビネーションスイッチを ③ の方向に引きます。

引いている間ヘッドランプが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≣D が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと ① の位置に戻ります。

車外ランプ消灯遅延機能

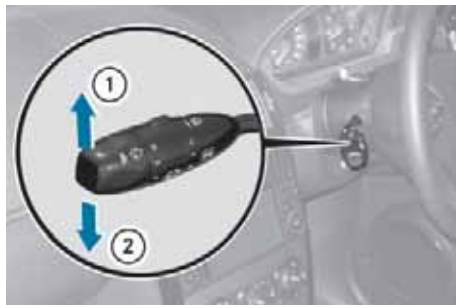
周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（▷117 ページ）をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、エンジンスイッチを **2** の位置にします。

ℹ エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、点灯したランプは消灯します。

方向指示

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ① の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ コンビネーションスイッチを ① または ② の方向に軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

ℹ 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が点滅します。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

ℹ 非常点滅灯は、イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときも点滅させることができます。

※車外ランプ消灯遅延機能は、日本仕様には装備されません。

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

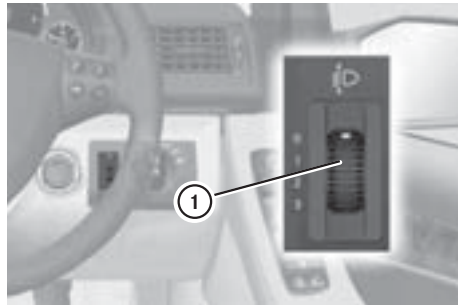
▶ 再度、非常点滅灯スイッチ ① を押すと、非常点滅灯が消灯します。

ℹ 非常点滅灯を使用しているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

ℹ エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ℹ 約 70km/h 以上の走行中に急ブレーキを効かせて停車したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると消灯します。

ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル *

乗員数が増えたり荷物を積載してヘッドランプの照射角度が変わったときに調整します。

エンジンがかかっているときに調整できます。

ヘッドランプ照射角度を調整する

▶ ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル ① をまわして、0 ～ 3 に合わせます。

位置	作動内容
0	1 名乗車時（運転席）または 2 名乗車時（運転席と助手席）。
1 ～ 3	乗員数および荷物の積載量に応じて調整します。

❗ 対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドランプウォッシャー *

エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャーを約 5 回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

i エンジンを停止すると、ヘッドランプウォッシャー作動のためのフロントウインドウウォッシャー作動回数はリセットされます。

コーナリングランプ *

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、コーナリングランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっているとき
- ヘッドランプを点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

走行速度が約 40km/h 以下のときに方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のコーナリングランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、コーナリングランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

走行速度が約 70km/h 以下のときにステアリングを操作すると、操作した側のコーナリングランプが点灯します。

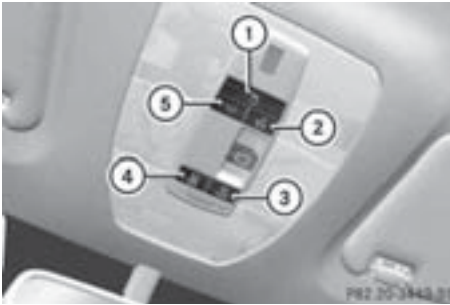
セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した方向と逆側のコーナリングランプが点灯します。

i 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のコーナリングランプが点灯します。

i コーナリングランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のコーナリングランプが点灯することがあります。

i 点灯したコーナリングランプは、約 3 分後に自動的に消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ルームランプ

パノラミックラメラールーフ装備車
① リアルームランプスイッチ
② 点灯モード選択スイッチ
③ フロント読書灯（右側）スイッチ
④ フロント読書灯（左側）スイッチ
⑤ フロントルームランプスイッチ

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ スイッチ ② が押されていない状態にします。

周囲が暗いときに以下の操作をするとルームランプが点灯 / 消灯します。

- フロントドアを開くとフロントルームランプが点灯し、リアドアを開くとリアルームランプが点灯します。
  - ◇ エンジンスイッチが **2** の位置のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

    ドアを開いたままのときは消灯しません。
  - ◇ エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

    ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。
- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。

  ルームランプ消灯遅延機能（▷117 ページ）がオフのときは点灯しません。
- リモコン操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

常時消灯モードにする

▶ スイッチ ② が押された状態にします。

周囲が暗いときに以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する

非常時の自動点灯

ルームランプが自動点灯モードのときは、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ルームランプが自動的に点灯します。また、このときは非常点滅灯も点滅します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ リモコン操作で施錠した後、解錠します。

ルームランプの点灯 / 消灯

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ⑤ を押します。

フロントルームランプが点灯 / 消灯します。

リアルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ① を押します。

リアルームランプが点灯 / 消灯します。

フロント読書灯

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ③④ を押します。

フロント読書灯が点灯 / 消灯します。

ⓘ フロント読書灯を点灯させたままリモコン操作で車を施錠すると、フロント読書灯は消灯します。

乗降用ランプ * / 赤色ランプ *

乗降用ランプ / 赤色ランプはフロントドアの下部にあります。

乗降時に足元を照らし、後続車や歩行者に注意を促します。

ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。

ワイパー

⚠ **事故のおそれがあります**

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取れず、視界を妨げて事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! エンジンを停止するときは、必ずワイパー作動モードのマークを 0（停止）の位置に戻してください。0 以外の位置のままエンジンスイッチを **1** の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

フロントワイパー

① ティップ機能 / ウォッシャーの噴射
② ワイパー作動モードのマーク

ワイパーを作動させる

▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにコンビネーションスイッチをまわして、ワイパー作動モードのマーク ② を I ～ III の位置に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
I	間欠モード
II	低速モード
III	高速モード

! フロントウインドウを拭くときなどは、必ずワイパー作動モードのマークを 0（停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ワイパーブレードを損傷したり、ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。

! 自動洗車機で洗車した後、ワイパーを作動させたときにウインドウに油汚れが付着しているときは、ワックスや洗浄液が付着しています。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液を噴射して油汚れを取り除いてください。

! フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。

i ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

i 停車時およびごく低速での走行時には、ワイパーの作動が自動的に以下のように切り替わります。

- 間欠モードのとき

  作動間隔が長くなります。
- 低速モードのとき

  間欠作動になります。
- 高速モードのとき

  低速作動になります。

走行速度を上げると元の作動に戻ります。

i エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときは、ワイパー作動モードのマークを 0 から I の位置にするとワイパーが 1 回作動します。

ⓘ ワイパー作動モードのマークが I の位置のとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは作動しません。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- セレクターレバーが P または N に入っているときは、フロントドアを閉じてセレクターレバーを D か R に入れたとき
- セレクターレバーが D または R に入っているときは、フロントドアを閉じたとき

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずに、ワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

フロントウインドウウォッシャーを噴射する

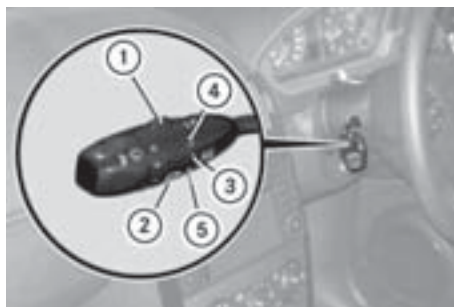
▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向にいっぱいまで押して保持します。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

ⓘ エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャーを約 5 回操作すると、ヘッドランプウォッシャー * が自動的に作動します。

ⓘ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

リアワイパー

① ノブ
② リアワイパー作動モードのマーク
③ リアワイパー作動位置
④⑤ テールゲートウインドウウォッシャー作動位置

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアワイパーを作動させる

▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにノブ ① をまわして、リアワイパー作動モードのマーク ② を ③ の位置に合わせます。

リアワイパーが間欠で作動します。

マルチファンクションディスプレイにリアワイパーインジケーター が表示されます。

ℹ エンジンスイッチが **2** の位置でフロントワイパーが作動しているときにセレクターレバーを **R** に入れると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき

  間欠で作動します。

- フロントワイパーが低速あるいは高速作動のとき

  低速で作動します。

テールゲートウインドウウォッシャーを噴射させる

▶ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにノブ ① をまわして、リアワイパー作動モードのマーク ② を ④ または ⑤ の位置に合わせます。

テールゲートウインドウウォッシャーが噴射され、リアワイパーが数回作動します。

パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

⚠ **けがのおそれがあります**

- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- 子供が車内からドアやドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

  子供を乗せるときは、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。

運転席ドアのスイッチ
① 助手席ドアウインドウスイッチ
② 運転席ドアウインドウスイッチ
③ 左側リアドアウインドウスイッチ
④ 右側リアドアウインドウスイッチ

右側リアドアのスイッチ
⑤ 右側リアドアウインドウスイッチ

ドアウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに、ドアウインドウを開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

ⓘ ドアウインドウは車外からリモコン操作で開閉することができます(▷85、86 ページ)。

ⓘ ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

ⓘ エンジンスイッチを **0** の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉することができます。その間にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

ⓘ 運転席ドアのスイッチで助手席ドアやリアドアのドアウインドウを開閉しているときは、開閉しているドアウインドウのドアのスイッチでドアウインドウを操作することはできません。

挟み込み防止機能

⚠ **けがのおそれがあります**

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。ドアウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

! 挟み込み防止機能には挟み込みを感知しない範囲があります。ドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止します。スイッチから指を放すと、その位置から少し下降します。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。このときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから指を放すと、その位置から少し下降します。

さらに、この状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してから約 3 秒以内に、再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しません。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作により、車の解錠に併せて、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * を開くことができます。

ⓘ 操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ 解錠ボタン（▷49 ページ）を押し続けます。

ドアウインドウが開き、最前列のパノラミックスライディングルーフ * がチルトアップします。

▶ 解錠ボタンから一度指を放し、再度、解錠ボタンを押し続けると、パノラミックスライディングルーフ * が開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コンビニエンスオープニング機能を中断する

▶ 解錠ボタンから指を放します。

作動中のドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * はその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作できません。

コンビニエンスクロージング機能

車から降りた後に、リモコン操作でドアウインドウとパノラミックラメラールーフ * を閉じることができます。

i 操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ 施錠ボタン（▷49 ページ）を押し続けます。

ドアウインドウとパノラミックラメラールーフ * が閉じます。

コンビニエンスクロージング機能を中断する

▶ 施錠ボタンから指を放します。

作動中のドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * はその位置で停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ けがのおそれがあります

リモコン操作でドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * を閉じているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。

挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンから指を放し、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとパノラミックラメラールーフ * を開いてください。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとパノラミックラメラールーフ * が閉じていることを確認してください。

! ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * を閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作できません。

ドアウインドウのリセット

以下のときは、ドアウインドウのリセット作業を行なってください。

- バッテリーの接続が断たれたときやバッテリーがあがったとき
- ドアウインドウが全開しなかったり全閉しないとき
- ドアウインドウが全閉した後、わずかに開くとき

ドアウインドウのリセット作業を行なう

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ リセットするドアウインドウのスイッチを引いて全閉します。

▶ そのままの状態で約 1 秒間保持します。

それでもドアウインドウがわずかに開くときは

▶ ただちにドアウインドウスイッチを引いて、ドアウインドウを完全に閉じます。

▶ そのままの状態で約 1 秒間保持します。

ドアウインドウのスイッチから指を放したときにドアウインドウが開かなければ、ドアウインドウのリセットが完了しています。

ドアウインドウがわずかに開くときは、上記の作業を再度行なってください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

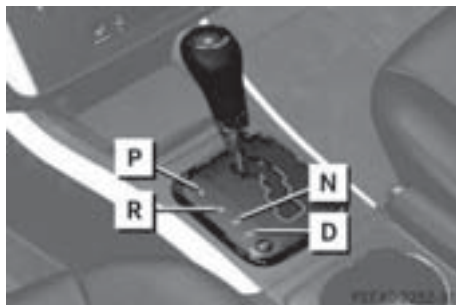
⚠ 事故のおそれがあります

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 中毒のおそれがあります

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

シフト位置

シフト位置	作動内容
P	**パーキング位置** 駐車およびエンジン始動／停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 シフト位置が P のときにのみ、キーを抜くことができます。シフト位置が P のときは、セレクターレバーがロックされます。
R	**リバース位置** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラル位置** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフト位置を N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブ位置** 路面状況やアクセルペダルの踏み加減、走行モードや走行速度などに応じて、自動的に最適な変速比（ギア）が無段階に設定されます。

エンジンを始動する

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに 3 の位置までまわして手を放します。

エンジンが始動します。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

発進

! セレクターレバーを R に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、車輪を空転させないように注意してください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

i 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックで施錠されているときも、車内のドアレバーを引いてドアを開くことができます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷119 ページ）をご覧ください。

i エンジンスイッチが **2** の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを P から動かすことはできません。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを D または R に入れます。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

⚠ **事故のおそれがあります**

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

また、坂道で発進するときは、ヒルスタートアシストも作動します。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシストの作動

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートは解除され、車が動き出すおそれがあります。

ℹ ヒルスタートアシストの機能は解除できません。

ℹ ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- セレクターレバーが N に入っているとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

駐車

⚠ **火災のおそれがあります**

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * を閉じて、車を施錠してください。

確実に駐車するために、以下のことを確認してください。

- パーキングブレーキが確実に効いていること
- セレクターレバーが P に入っていて、エンジンスイッチからキーが抜かれていること
- 坂道で駐車するときは、前輪が歩道方向に向いていること

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パーキングブレーキ

⚠ 火災のおそれがあります

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

パーキングブレーキを解除する

▶ パーキングブレーキレバー ① を少し引き上げ、ノブ ② をいっぱいまで押し込んでからレバーを下げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が消灯します。

パーキングブレーキを効かせる

▶ パーキングブレーキレバー ① を確実に引き上げます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が点灯します。

❗ パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

ℹ パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

エンジンの停止

⚠ 事故のおそれがあります

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実に引き、セレクターレバーを P に入れます。

ℹ セレクターレバーが P 以外に入っているときもエンジンを停止できますが、必ずパーキングブレーキを効かせて、セレクターレバーを P に入れてください。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

オートマチックトランスミッション（オートトロニック）

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

停車中は、必ずパーキングブレーキを効かせてください。

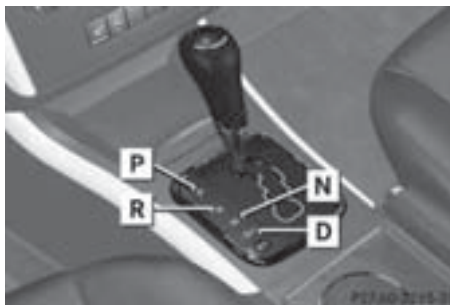
子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

ⓘ エンジンを停止したときは、エンジンとトランスミッションの接続が断たれます。エンジンを停止したときは、セレクターレバーを P に入れて、パーキングブレーキを効かせてください。

オートマチックトランスミッションは、運転スタイルや走行状態に合わせて自動的に変速比（ギア）を設定します。

運転スタイルや走行状態が変わったときは、それに合わせて変速制御を行ないます。

シフト位置の選択

▶ セレクターレバーを動かして、シフト位置を選択します。

! シフト位置を選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んでください。

! セレクターレバーを P に入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

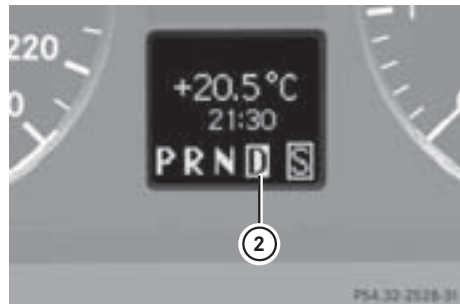
ⓘ エンジンスイッチが **2** の位置で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、セレクターレバーを P から動かすことができます。

シフト位置

シフト位置	作動内容
P	**パーキング位置** 駐車およびエンジン始動／停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 シフト位置が P のときにのみ、キーを抜くことができます。シフト位置が P のときは、セレクターレバーがロックされます。
R	**リバース位置** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラル位置** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフト位置を N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブ位置** 路面状況やアクセルペダルの踏み加減、走行モードや走行速度などに応じて、自動的に最適な変速比（ギア）が無段階に設定されます。

⚠ 事故のおそれがあります

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こすおそれがあります。また、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

シフト位置表示

② シフト位置表示
（D に入っている状態）

エンジンスイッチを 2 の位置にすると、マルチファンクションディスプレイ下部に、シフト位置表示 ② が表示されます。

選択されているシフト位置は、反転して表示されます。

走行モード

① 走行モード表示

路面の状況や運転に合わせてオートマチックトランスミッションの走行モードを切り替えることができます。

選択された走行モードはマルチファンクションディスプレイの走行モード表示 ① に表示されます。

② 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ ② を押します。

C モード→ S モード→ C モードと切り替わります。

走行モード	
C モード	快適性と経済性を重視した走行に適しています。
S モード	スポーティな走行に適しています。

走行モードが C モードのときは、以下のようになります。

- 快適性を重視したエンジン制御になります。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- シフトアップが早めに行なわれるため、低いエンジン回転で走行でき、駆動輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードのときは、以下のようになります。

- スポーツ性を重視したエンジン制御になります。
- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、燃料をより多く消費します。

マニュアルシフト

7 速マニュアルトランスミッションとして使用することができます。

⚠ **事故のおそれがあります**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。ギアをシフトするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

マニュアルシフトを選択すると、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示 ① に "M" が表示されます。

また、選択された変速比（ギア）が変速比（ギア）表示 ② に反転して表示されます。

マニュアルシフトを選択する

▶ セレクターレバーが D に入っているときにセレクターレバーを ③ 側に操作します。

そのときの走行速度やエンジン回転数に応じて、自動的に変速比（ギア）が選択されます。

または

▶ セレクターレバーを ④ 側に操作します。

そのときの変速比（ギア）のままで、マニュアルシフトになります。

シフトアップする

▶ セレクターレバーを ④ 側に操作します。

1 段上の変速比（ギア）にシフトアップします。

シフトダウンする

▶ セレクターレバーを ③ 側に操作します。

1 段下の変速比（ギア）にシフトダウンします。

または

▶ セレクターレバーを ③ 側に操作して保持します。

加速や減速に最も適した変速比（ギア）にシフトダウンします。

! 運転者がシフトアップ / ダウン操作をしなくても、走行速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトアップ / ダウンすることがあります。

! 運転者がシフトアップ / ダウン操作をしても、選択した変速比（ギア）が適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

i 停車すると、変速比（ギア）は 1 速になります。

オートマチックシフトに戻す

▶ セレクターレバーを ④ 側に操作して保持するか、素早く 2 度操作します。

マニュアルシフトを選択する前の走行モードに戻ります。

または

▶ 走行モード選択スイッチ（▷94 ページ）を押します。

i マニュアルシフトを選択した状態でセレクターレバーを D 以外の位置にするかエンジンを停止すると、マニュアルシフトは解除され、オートマチックシフトになります。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、自動的に最適な変速比（ギア）が無段階に設定されます。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

自動的に低い変速比（ギア）に切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

通常走行

通常はセレクターレバーを D に入れて走行します。路面状況やアクセルペダルの踏み加減、走行モードや走行速度などに応じて、自動的に最適な変速比（ギア）が無段階に設定されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ℹ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ℹ オートマチックトランスミッションは、運転者の運転の仕方に合わせて、自動的に変速のタイミングを制御します。運転者や運転スタイル、運転状況が変わったときは、変速タイミングもそれに合わせて変化します。

下り坂での走行

下り坂を D で走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎることがあります。

▶ 坂の勾配などに応じてマニュアルシフトで低い変速比（ギア）を選択します。

エンジンブレーキの効きが強くなります。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低い変速比（ギア）のときほど効きが強くなります。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

滑りやすい路面での走行

走行モード（▷94 ページ）を C モードに切り替え、急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。

⚠ **事故のおそれがあります**

滑りやすい路面では、低い変速比（ギア）を選択することによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

! エンジンの許容回転数を超えるおそれがある場合は、シフトダウンすることはできません。このときは、ブレーキペダルを踏んで減速してから再度操作し、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

狭い場所で転回するとき

▶ ブレーキペダルを踏みながら、走行速度を調整します。

▶ 後方など周囲の安全を確認し、ゆっくりと転回します。

停車する

▶ 一時的に停車するときは、セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷21、22 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

マルチファンクションディスプレイの表示

マルチファンクションディスプレイは以下のときに表示されます。

- エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたとき

  0 の位置にしてから約 30 秒後に表示が消えます。

- パーキングランプ以外の車外ランプが点灯したとき

  車外ランプが消灯してから約 30 秒後に表示が消えます。

また、以下のときに表示されて約 30 秒後に表示が消えます。

- 運転席ドアを開いたとき
- 開いている運転席ドアを閉じたとき

メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

① メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

メーターパネル照度調整ボタン

メーターパネルが点灯しているときに、メーターパネルの照度を調整できます。

周囲が暗いときは、マルチファンクションディスプレイの照度も連動して調整されます。

▶ メーターパネル照度調整ボタン①を時計回りまたは反時計回りにまわします。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定などをリセットするときに使用します。

エンジン冷却水温度計

メーターパネルの左側にあります。エンジン冷却水の温度を表示します。

指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が 120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されない限り、故障ではありません。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 54 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 6 リットルです。

i 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

時計

マルチファンクションディスプレイで時刻の設定ができます（▷113 ページ）。

HDD ナビゲーション装備車は、時計をオーディオの時刻に連動させることができます。

オーディオの時刻の設定については、別冊「AM/FM ラジオ &CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

スピードメーター

車の走行速度を km/h で表示します。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

環　境

必要以上にエンジン回転数を上げて走行しないでください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

外気温度表示

外気温度を表示します。

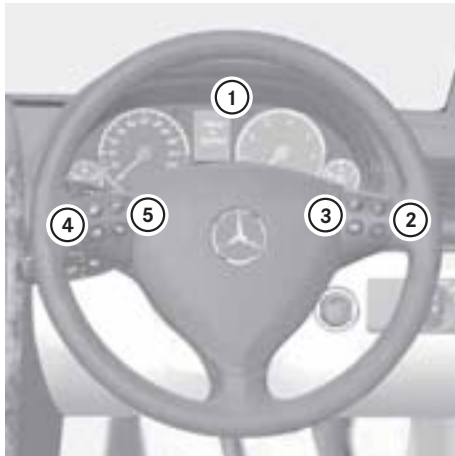
外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示･設定するシステムです。

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

⚠ 事故のおそれがあります

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

⚠ 事故のおそれがあります

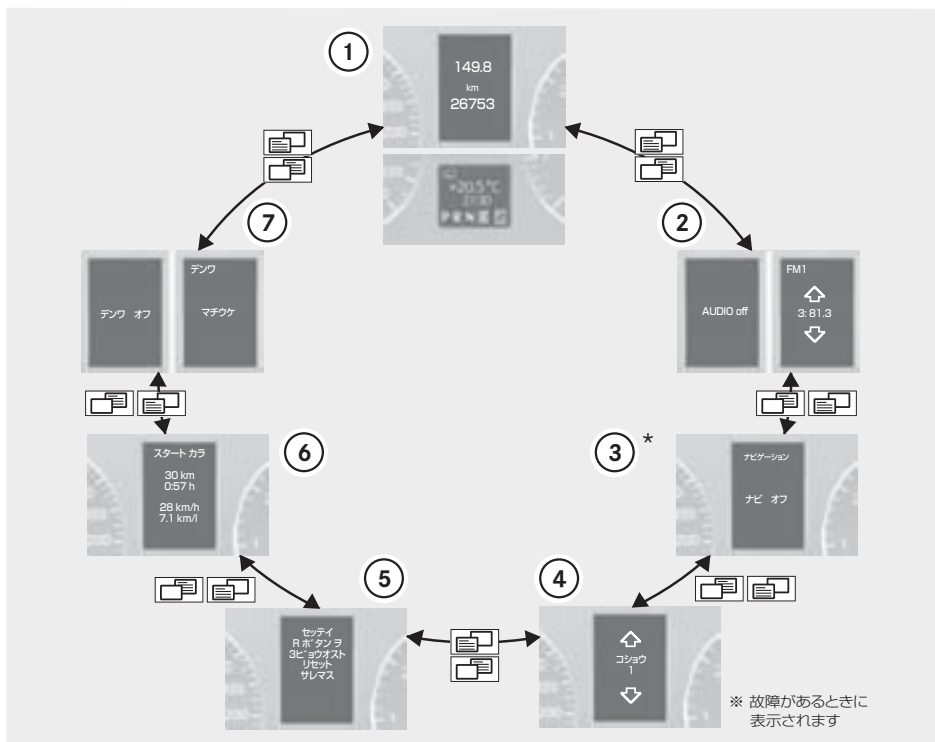
走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	[+] [−] • 各種設定の設定グループ選択画面でのグループの選択 • 設定項目画面での数値や設定の変更、機能のオン / オフの選択 • 各メイン画面やオーディオ画面表示中の音量の調節
③	[電話切断ボタン] 電話の保留 / 切断 [電話発信ボタン] 電話の発信 / 受信 発信履歴の表示
④	[画面選択ボタン] [画面選択ボタン] メイン画面の選択
⑤	[△] [▽] • 選択したメイン画面内での画面の切り替え • オーディオ画面でのトラックの選曲、ラジオ局 / テレビ局 * の選局、DVD ビデオのチャプターの選択 • 電話画面での電話帳や発信履歴のスクロール

ⓘ ステアリングスイッチでの操作については、別冊「AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」もご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

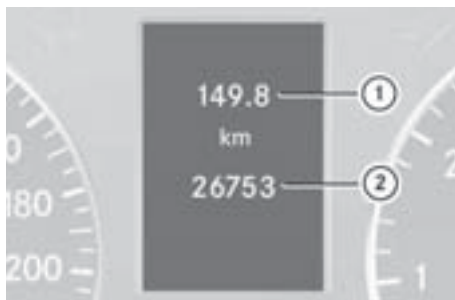
メイン画面一覧

①	車両情報	103
②	オーディオ	105
③	ナビ *	107
④	故障表示	108
⑤	各種設定	109
⑥	トリップコンピューター	120
⑦	電話	123

※ ナビ画面は、販売店オプションの HDD ナビゲーションシステム装着車に表示されます。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

車両情報

「車両情報」には以下の画面があります。

- 車両情報メイン画面（トリップメーター、オドメーター）
- 車両情報サブ画面（リアワイパーインジケーター、外気温度 / 走行速度表示、時刻表示、シフト位置 / 変速比(ギア)表示、走行モード表示）
- タイヤ空気圧警告システム画面 (▷194 ページ)
- 走行速度 / 外気温度表示画面
- メンテナンスインジケーター画面 (▷206 ページ)

車両情報メイン画面（トリップメーター、オドメーター）

① トリップメーター
② オドメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

トリップメーター ①

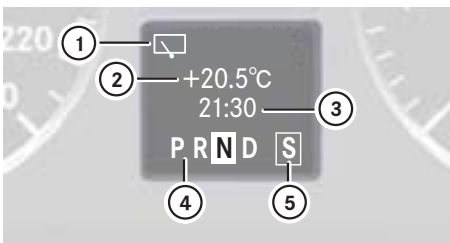
リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする(0.0 に戻す)

▶ リセットボタン(▷99 ページ)を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

オドメーター ②

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

車両情報サブ画面

① リアワイパーインジケーター
② 外気温度 / 走行速度表示
③ 時刻表示
④ シフト位置 / 変速比（ギア）表示
⑤ 走行モード表示

リアワイパーインジケーター

リアワイパーが作動しているときに表示されます（▷82 ページ)。

外気温度 / 走行速度表示

外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メーター " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷112 ページ）で行ないます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

時刻表示

時刻を表示します。

HDD ナビゲーションシステム装備車は、オーディオの時刻に連動させることができます（▷113 ページ）。

オーディオの時刻の設定については、別冊「AM/FM ラジオ &CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

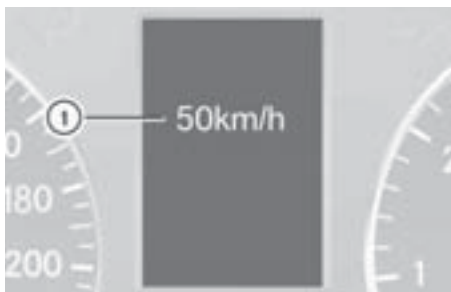
シフト位置 / 変速比（ギア）表示

オートマチックトランスミッションのシフト位置を表示します（▷93 ページ）。

また、マニュアルシフトを選択したときの変速比（ギア）を表示します（▷95 ページ）。

走行モード表示

オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します（▷94 ページ）。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度表示
② 外気温度表示

走行速度または外気温度を表示します。

各種設定の " メーター " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷112 ページ）で " ガイキオン " を選択すると、この画面は走行速度表示になります。

" 車両情報サブ画面の表示設定画面 " で " ソクド " を選択すると、この画面は外気温度表示になります。

走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

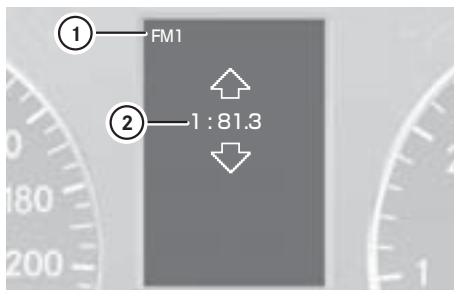
❗ 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

ℹ 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

ℹ マルチファンクションディスプレイの走行速度の表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷111 ページ）。

オーディオ

AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤーを使用しているときに、オーディオ、テレビ *、DVD ビデオの各機能を操作できます。

ラジオ局を選択する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2"
② プリセット番号 / 周波数

ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [□] または [□] を押して、オーディオ画面を表示させます。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ [⇧] または [⇩] を押します。

次または前のプリセット番号の放送局に移動します。

ラジオ局を自動選局する

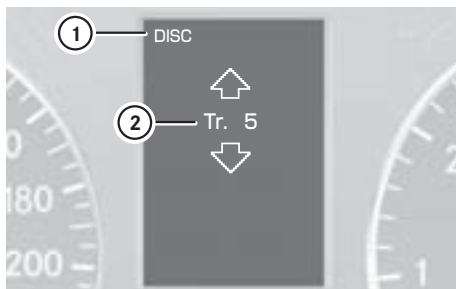
▶ [⇧] または [⇩] を押して保持します。

受信周波数が移動して、次に受信できる放送局（周波数）で停止します。

ℹ 詳細については、別冊「AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

音楽を選曲する

① 音楽ソース表示（"DISC"/"M.CARD"/"HDD"/"MEDIA"/"AUX"）
② トラック番号

AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤーで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター *、メディアインターフェース *、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ [ ] または [ ] を押して、オーディオ画面を表示させます。

トラックを選曲する

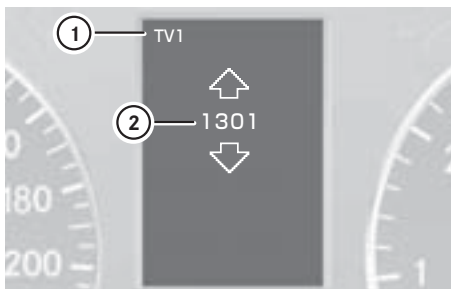
ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター *、メディアインターフェース * のいずれかを再生しているときは選曲を行なうことができます。

▶ [△] または [▽] を押します。

次または前のトラックが選曲されます。

ℹ 詳細については、別冊「AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

ℹ ミュージックレジスターは、販売店オプションの HDD ナビゲーションシステムを装着することにより使用できます。詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

テレビ局を選局する *

① "TV1" または "TV2"
② プリセット番号 / チャンネル番号

テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ ] または [ ] を押して、オーディオ画面を表示させます。

テレビ局をプリセット選局する

▶ [△] または [▽] を押します。

次または前のプリセット番号のテレビ局に移動します。

テレビ局を自動選局する

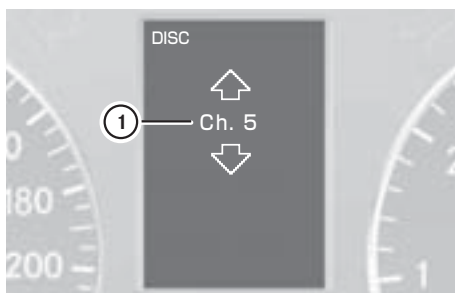
▶ [△] または [▽] を押して保持します。

受信チャンネルが移動して、次に受信できるチャンネルで停止します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

詳細については、別冊「AM/FM ラジオ＆ CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

テレビは、販売店オプションの地上デジタル放送用テレビチューナーを装着することにより使用できます。詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

DVD ビデオのチャプターを選択する

① チャプター番号

DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオ画面を表示させせます。

チャプターを選択する

▶ [△] または [▽] を押します。

次または前のチャプターが選択されます。

詳細については、別冊「AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

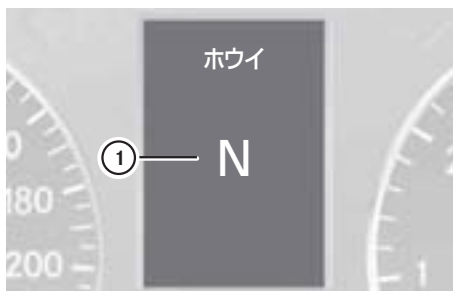
ナビ *

HDD ナビゲーションシステム装備車は、マルチファンクションディスプレイにナビ画面を表示できます。

ナビ画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ナビ画面を表示させせます。

▶ AM/FM ラジオ＆ CD/DVD プレーヤーの電源をオンにします。

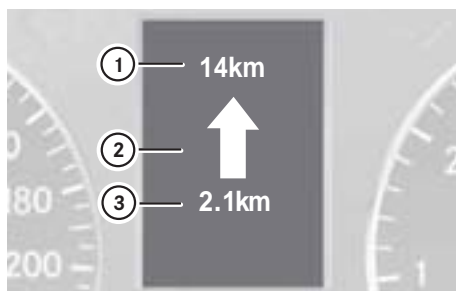
ルート案内を行なっていないとき

① 進行方向の方位表示

ルート案内を行なっていないときは、マルチファンクションディスプレイに進行方向の方位 ① が表示されます。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

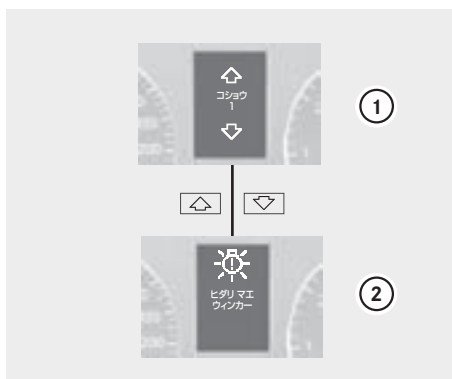
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ルート案内を行なっているとき

① 目的地までの距離
② 交差点（分岐点）での進行方向
③ 交差点（分岐点）までの距離

ルート案内を行なっているときは、マルチファンクションディスプレイに、目的地までの距離 ① や交差点（分岐点）での進行方向 ②、交差点（分岐点）までの距離 ③ などが表示されます。

ℹ 詳細については、別冊「AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

ℹ ナビは、販売店オプションの HDD ナビゲーションシステムを装着することにより使用できます。詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

故障表示

故障表示画面

①	故障件数画面 （この例では、1 件故障があります）
②	故障 / 警告メッセージ画面の例

故障や異常が発生したとき、車の状況をメッセージで表示します。

ℹ 故障や異常がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージ画面が自動的に表示されます。

ステアリングの [⊟] [⊟] や [△] [▽]、またはリセットボタンを押すと、故障 / 警告メッセージが消えます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障 / 警告メッセージを手動で確認する

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに表示できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、故障件数画面 ① を表示させせます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ [△] または [▽] を押して、故障 / 警告メッセージ画面 ② を順番に表示させせます。すべて表示されると、故障件数画面 ① に戻ります。

故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを **0** の位置にすると、故障 / 警告メッセージの表示が消えます。

ただし、故障や異常の状況が変わらない場合は、次にエンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

! 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

! 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷223 ページ～）をご覧ください。

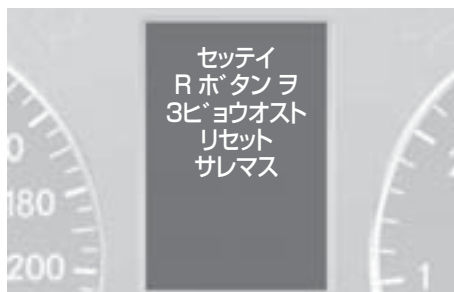
各種設定

「各種設定」には以下の画面があります。

- 各種設定メイン画面
- 設定グループ選択画面
- 各種設定項目の初期化画面
- 各種設定項目の初期化完了画面

! 設定の変更は必ず停車中に操作してください。

i 安全のため、走行中は設定を変更できない項目があります。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます。

車両の操作

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に [△] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、設定グループを選択します。

設定項目画面を表示する

▶ 選択したグループ名を確認して、[△] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

▶ [△] または [▽] を押して、設定項目画面を選択します。

設定項目画面の数値や設定を変更する 機能のオン / オフを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、設定項目の数値や設定を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

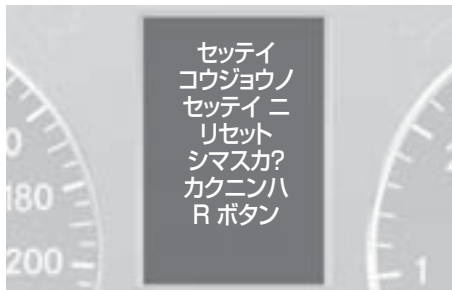
選択した設定が記憶されます。

各種設定項目の初期化

各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

▶ リセットボタン（▷99 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

初期化画面

初期化画面が表示されます。

▶ 初期化画面の表示中（約 5 秒以内）に、リセットボタンを押します。

初期化完了画面

初期化が実行され、初期化完了画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ 初期化画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。

ⓘ 各種設定項目を初期化すると設定グループ選択画面が表示されます。

メーター

「メーター」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- 速度・距離単位設定画面
- ディスプレイ言語設定画面
- 車両情報サブ画面の表示設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ ] または [ ] を押して、各種設定メイン画面を表示させせます (▷109 ページ)。

▶ [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させせます (▷110 ページ)。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" メーター " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [⌂] を押します。

メーターの最初の設定項目画面が表示されます。

速度・距離単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離などの表示単位の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示が km/h、km になります。
マイル	表示が mph、マイル、mi になります。

! 1mph は約 1.6km/h です。表示単位がマイルになっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず表示単位を km にしてください。

ⓘ マイルに設定するとトリップメーターやトリップコンピューターなどもマイル表示になります。

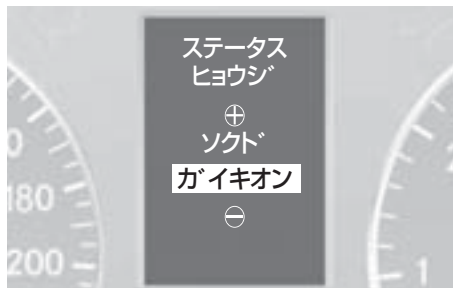
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ［＋］または［－］を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ニホンゴ	日本語表示になります。

車両情報サブ画面の表示設定画面

車両情報サブ画面に表示する項目の設定ができます。

▶ ［＋］または［－］を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ソクド	車両情報サブ画面の表示が走行速度になります。
ガイキオン	車両情報サブ画面の表示が外気温度になります。

ⓘ 車両情報サブ画面の表示を切り替えると、走行速度／外気温度表示画面（▷106 ページ）の表示も切り替わります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ジコク / ヒヅケ

「ジコク / ヒヅケ」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- 時刻の設定方法選択画面 *
- 時刻の設定画面（時）
- 時刻の設定画面（分）
- 日付の設定画面（日）
- 日付の設定画面（月）
- 日付の設定画面（年）

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [□] または [□] を押して、各種設定メイン画面を表示させます (▷111 ページ)。

▶ [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させます (▷112 ページ)。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" ジコク / ヒヅケ " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [⌂] を押します。

ジコク / ヒヅケの最初の設定項目画面が表示されます。

時刻の設定方法選択画面 *

車両情報サブ画面に表示される時刻をオーディオの時刻に連動させることができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車両情報サブ画面に表示される時刻がオーディオの時刻に連動します。
オフ	車両情報サブ画面に表示される時刻などを手動で設定します。

ℹ オンを選択した場合、時刻の設定画面（時）～（年）は表示されません。

ℹ 各種設定項目を初期化しても、時刻は工場出荷時の設定になりません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

時刻の設定画面（時）

車両情報サブ画面の時刻表示の「時」を設定します。

▶ [＋] または [－] を押して、反転部分の数字を修正します。

時刻の設定画面（分）

車両情報サブ画面の時刻表示の「分」を設定します。

▶ [＋] または [－] を押して、反転部分の数字を修正します。

日付の設定画面（日）

日付の「日」を設定します。

▶ [＋] または [－] を押して、反転部分の数字を修正します。

日付の設定画面（月）

日付の「月」を設定します。

▶ [＋] または [－] を押して、反転部分の数字を修正します。

日付の設定画面（年）

日付の「年」を設定します。

▶ [+] または [−] を押して、反転部分の数字を修正します。

ライト

「ライト」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- ヘッドランプ点灯モード設定画面
- ロケイターライティング設定画面
- 車外ランプ消灯遅延機能設定画面
- ルームランプ消灯遅延機能設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、各種設定メイン画面を表示させます （▷109 ページ）。

▶ [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させます （▷110 ページ）。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" ライト " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [⌂] を押します。

ライトの最初の設定項目画面が表示されます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

表示	設定内容
ツネニオン	常時点灯モードです。 ランプスイッチを 0 か AUTO の位置にしているときに、エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。
マニュアル	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。

ⓘ 常時点灯モードは、走行中の昼間点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

ⓘ 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

ⓘ 走行しているときは、常時点灯モードから手動点灯モードにすることはできません。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ + または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
オフ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（▷50 ページ）をご覧ください。

※ ロケイターライティングは、日本仕様には装備されません。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ［＋］または［－］を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷76 ページ）をご覧ください。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ［＋］または［－］を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷79 ページ）をご覧ください。

車両の操作

※ 車外ランプ消灯遅延機能は、日本仕様には装備されません。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

シャリョウ

「シャリョウ」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面
- 車速感応ドアロック設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷109 ページ）。

▶ [ボタン] を押して、設定グループ選択画面を表示させます（▷110 ページ）。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" シャリョウ " を選択します。

▶ [ボタン] を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面が表示されます。

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

▶ [+] または [−] を押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷128 ページ）で設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度となります。

車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷52 ページ）をご覧ください。

コンフォート

「コンフォート」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- 施錠時のドアミラー格納設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、各種設定メイン画面を表示させせます（▷109 ページ）。

▶ ［△］を押して、設定グループ選択画面を表示させます（▷110 ページ）。

設定グループを選択する

▶ ＋ または － を押して、" コンフォート " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ ［△］を押します。

コンフォートの設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両の操作

施錠時のドアミラー格納設定画面

リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	リモコン操作での施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	リモコン操作での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（▷66 ページ）をご覧ください。

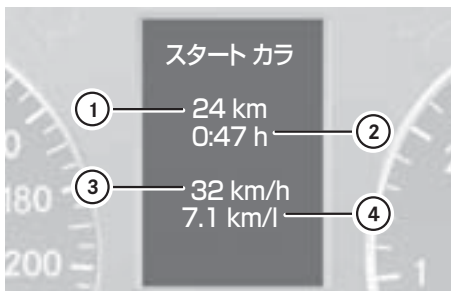
トリップコンピューター

「トリップコンピューター」には以下の画面があります。

- エンジン始動時からの情報表示画面
- リセット時からの情報表示画面
- 走行可能距離画面
- 瞬間燃費表示画面

※ 瞬間燃費表示画面は、日本仕様では表示されない場合があります。

ℹ トリップコンピューターでは、エンジンスイッチを **0** の位置にするかエンジンスイッチからキーを抜いた後、次にエンジンスイッチを **1** の位置にしたときや、他のメイン画面に切り替えてから再度トリップコンピューターにしたときは、前回表示していた画面が表示されます。

エンジン始動時からの情報表示画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

ℹ エンジンスイッチを **0** の位置にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。約 4 時間以内にエンジンスイッチを **1** か **2** の位置にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km/ マイル走行後に自動的にリセットされます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジン始動時からの情報表示画面を表示させる

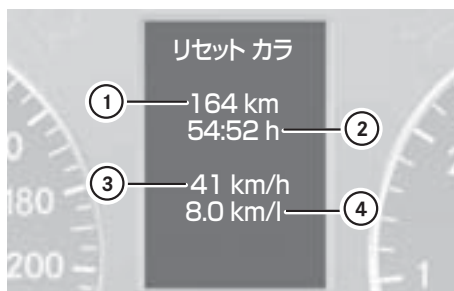
▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、トリップコンピューターのいずれかの画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、エンジン始動時からの情報表示画面を表示させます。

エンジン始動時からの情報表示画面を手動でリセットする

エンジン始動時からの情報表示画面は手動でもリセットできます。

▶ エンジン始動時からの情報表示画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷99ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

リセット時からの情報表示画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、トリップコンピューターのいずれかの画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、リセット時からの情報表示画面を表示させます。

リセット時からの情報表示画面をリセットする

▶ リセット時からの情報表示画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷99ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ⓘ リセット後は、9,999時間経過後、または99,999km/99,999マイル走行後に自動的にリセットされます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

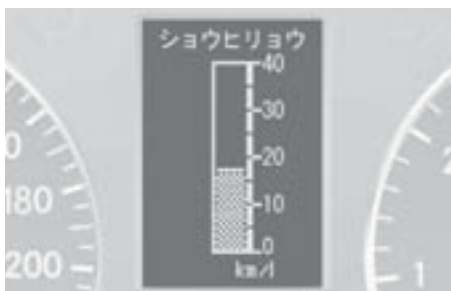
▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、トリップコンピューターのいずれかの画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、走行可能距離画面を表示させます。

! 走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

i 燃料残量が少ないときは、走行可能距離の代わりに [表示] が表示されます。最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

瞬間燃費表示画面

そのときの瞬間燃費を km/l で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

瞬間燃費表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、トリップコンピューターのいずれかの画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、瞬間燃費表示画面を表示させます。

※ 瞬間燃費表示画面は、日本仕様では表示されない場合があります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤーの電話機能を操作できます。

⚠ 事故のおそれがあります

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話をかけないでください。

また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

電話画面を表示させる

▶ [ ] または [ ] を押して、電話画面を表示させます。

ⓘ 電話機能の Bluetooth® 設定がオンのときは "Bluetooth セツゾクマチ "、オフのときは "Bluetooth オフ " と表示されます。

着信した電話を受ける

▶ 着信呼び出し中にステアリングの通話開始スイッチ [ ] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ ステアリングの通話終了スイッチ [ ] を押します。

ⓘ 上記の操作は電話画面を表示していないときも行なうことができます。

電話帳から電話を発信する

電話機能の電話帳に登録してある電話番号から電話を発信できます。

ⓘ 電話機能の電話帳には、電話帳データを直接入力したり、携帯電話や PC カードからデータをダウンロードできます。

▶ [ ] または [ ] を押して、電話画面を表示させます。

▶ [ ] または [ ] を押して、電話帳を呼び出します。

▶ [ ] または [ ] を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

ⓘ [ ] または [ ] を押し続けると、はじめの 7 件目までは 1 件づつ表示されます。

[ ] または [ ] をさらに押し続けると、8 件目からは五十音順またはアルファベット順の先頭のデータが表示されます。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ [ ] を押します。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ 複数の電話番号が登録されているときは、さらに [▲] または [▼] を押して電話番号を選択し、ステアリングの通話開始スイッチ [📞] を押します。

ⓘ 詳細については、別冊「AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

発信履歴から電話を発信する

▶ [□] または [□] を押して、電話画面を表示させます。

▶ マルチファンクションディスプレイに " マチウケ " と表示されているときに、ステアリングの通話開始スイッチ [📞] を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ [▲] または [▼] を押して、発信先を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ [📞] を押します。

走行装備

走行装備には、以下のものがあります。

- クルーズコントロール

  設定速度を自動的に維持して走行できます。

- 可変スピードリミッター

  設定速度を超えないように走行できます。

- パークトロニック

  車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおよその距離を知らせます。

ABS、BAS、アダプティブブレーキランプ、ESP®、ステアコントロールについては、走行安全装備（▷42 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行することができます。

クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

設定できる速度は約 30km/h 以上です。

ⓘ 状況により、クルーズコントロールを設定していても走行速度が約 30km/h以下になることがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

クルーズコントロールを使用しているときは、運転者は常に道路状況に注意を払ってください。

⚠ 事故のおそれがあります

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の走行速度を維持できない道路･交通状況の場合（交通量が多い場合やカーブが連続している場合）。事故を起こすおそれがあります。
- 路面が滑りやすい場合。ブレーキや加速により駆動輪がグリップを失い、車がスリップするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪などで視界が確保できない場合。

! クルーズコントロールの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷231 ページ）をご覧ください。

! 急な上り坂では、速度を維持するために低い変速比（ギア）になることがありますが、設定した速度を維持できないことがあります。

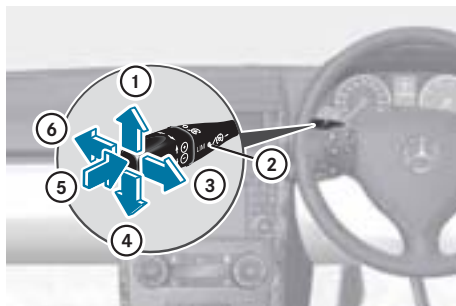
このようなときは、アクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、マニュアルシフトで低い変速比（ギア）を選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロールを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールは、可変スピードリミッター（▷128 ページ）と同じレバーで操作します。

約 30km/h 以上で走行しているときに、設定することができます。

▶ レバーの表示灯 ② が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に操作して、表示灯を消灯させます。

▶ 設定したい速度で走行します。

▶ レバーを ① か ④ の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

記憶されている前回の設定速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

⚠ **事故のおそれがあります**

記憶されている前回の設定速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

ℹ 上り坂などを走行するときは、設定した速度を維持できないことがありますが、路面が平坦になると、設定した速度に戻ります。

ℹ 約 30km/h 以下の速度で走行しているときや、速度が記憶されていない状態でレバーを ③ の方向に操作したときは、クルーズコントロールを設定することはできません。

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に操作して保持します。

▶ 希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ℹ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作して保持します。

▶ 希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ℹ レバーを ① か ④ の方向にごく短時間操作すると、1km/h 単位で速度の設定ができます。

ℹ レバーを④の方向に操作して設定速度を下げているときに、自動的に低い変速比（ギア）になることがあります。

クルーズコントロールを解除する

▶ レバーを⑥の方向に操作します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に操作します。

このときはレバーの表示灯 ② が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

ℹ 以下のときは、クルーズコントロールが自動的に解除されます。

- セレクターレバーを N に入れたとき
- ESP® が作動したとき

⚠ **事故のおそれがあります**

クルーズコントロールはセレクターレバーを N に入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度は 30km/h から 230km/h の間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
※ 設定できる速度は予告なく変更されることがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 可変スピードリミッターの設定速度と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷231 ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂や重い荷物を積んでいるときなどは、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、マニュアルシフトで低い変速比（ギア）を選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

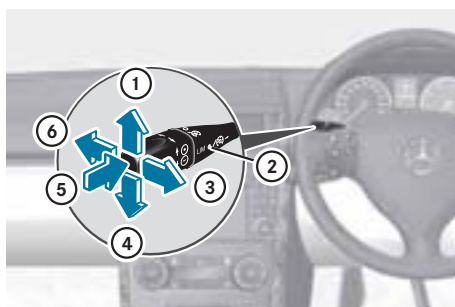
走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ℹ ウィンタータイヤ装着時など、タイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定できるウィンタータイヤスピードリミッターが装備されています。詳しくは（▷118 ページ）をご覧ください。

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッターの設定速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

ℹ 車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

ℹ 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄ ｦ ｺｴﾏｼﾀ" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターを設定する

① 現在の走行速度に設定する /30km/h に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 設定速度を上げる
④ 現在の走行速度に設定する /30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤ 可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターは、クルーズコントロール（▷124 ページ）と同じレバーで操作できます。

▶ レバーの表示灯 ② が点灯していることを確認します。

消灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に操作して、表示灯を点灯させます。

▶ レバーを ① の方向に操作します。

- 停車中および走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度の 1km/h の端数が切り上がり、10km/h 単位で設定されます。

または

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

- 停車中および走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度の 1km/h の端数が切り下がり、10km/h 単位で設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に引きます。

記憶されている前回の設定速度に設定されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の安全、特に後方の車などに注意しながら操作してください。

記憶されている前回の設定速度が走行速度より低いときは、前回の設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

ℹ アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは、可変スピードリミッターを設定することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

⑦ 設定速度

マルチファンクションディスプレイに " ﾘﾐｯﾄ " と設定速度 ⑦ が数秒間表示されます。

⑧ 可変スピードリミッター表示灯

また、メーターパネルに可変スピードリミッター表示灯 ⑧ が表示されます。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

設定速度が 1km/h 単位で上がります。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で下がります。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に操作します。

このときはレバーの表示灯 ② が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
> 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。

ⓘ 以下のときは、可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  ただし、走行速度が設定速度より20km/h 以上低い速度のときは、キックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき

パークトロニック *

フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
> パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
> 車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。けがをするおそれがあります。

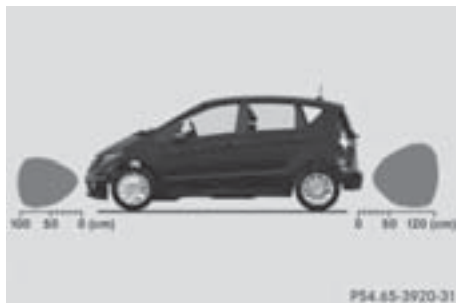
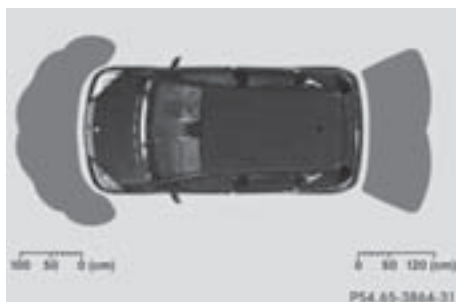
パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

リア
② センサー

! センサーに汚れや氷、泥などが付着すると、パークトロニックが正常に作動しなくなることがあります。センサーに損傷を与えないように、定期的に清掃してください（▷212 ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

センサーの感知範囲

横方向からの感知範囲

上方向からの感知範囲

フロントバンパーのセンサー

センター部	約 100cm ～ 20cm
コーナー部	約 80cm ～ 20cm

リアバンパーのセンサー

センター部	約 120cm ～ 20cm
コーナー部	約 80cm ～ 20cm

! バンパーから約 20cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

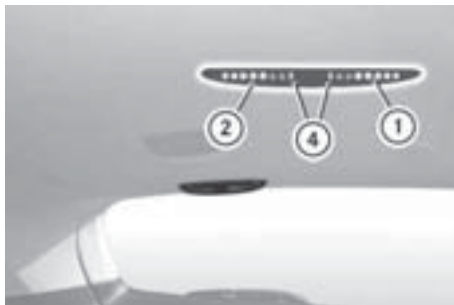
! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると､超音波が乱され､パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 平坦でない路面では、パークトロニックは正常に作動しません。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
④ リア作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯はルーフ後方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i エンジンスイッチを **2** の位置にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

エンジンスイッチが **2** の位置でパーキングブレーキが解除されているとき、シフト位置に応じて以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯 ③ が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯 ③④ が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

i パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音も鳴ります。

i パークトロニックは、速度が約 18km/h 以下のときに作動します。速度が約 18km/h 以上になると機能が解除されます。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲（▷132 ページ）に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

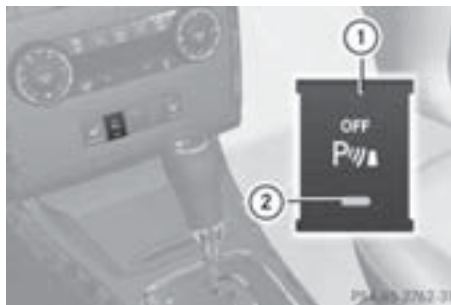
障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて赤色インジケーターが 1 個点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックを停止することができます。

パークトロニックを停止する

▶ エンジンスイッチが **2** の位置のときに、パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときはパークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i パークトロニックオフスイッチでパークトロニックを停止しても、次にエンジンスイッチを **2** の位置にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

⚠ けがのおそれがあります

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! ボンネットとフロントウインドウの間の吸気口が氷や雪、葉などで覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

i 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前にコンビニエンスオープニング機能（▷85 ページ）などで換気をしてください。

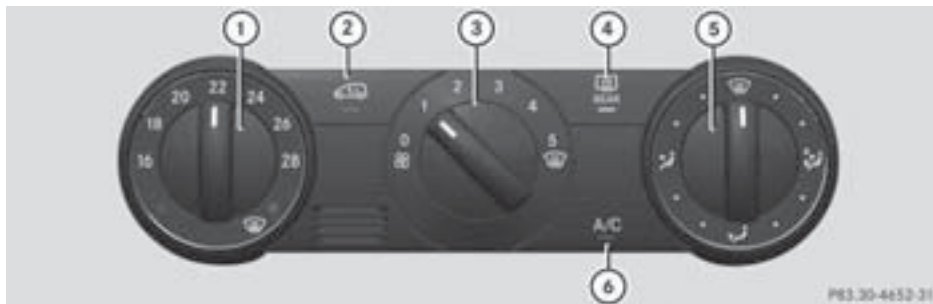
i 除湿された水分は車体下方に排水されます。水分が排水されても、故障ではありません。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

i グローブボックス内に送風することができます（▷139、147 ページ）。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

エアコンディショナーの使いかた

コントロールパネル

	名称
①	送風温度調整ダイヤル
②	内気循環スイッチ
③	送風量調整ダイヤル
④	リアデフォッガースイッチ
⑤	送風口選択ダイヤル
⑥	AC スイッチ

通常の使いかた

エアコンディショナーを作動させる

▶ 送風量調整ダイヤル ③ をまわして、"0" 以外の位置にします。

エアコンディショナーを停止する

▶ 送風量調整ダイヤル ③ をまわして、"0" の位置にします。

ℹ ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

ℹ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ ⑥ を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ 再度、AC スイッチ ⑥ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなり、事故のおそれがあります。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

ℹ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

ℹ AC スイッチを押したときに AC スイッチの表示灯が 3 回点滅したり、表示灯が点灯しないときは、エアコンディショナーが故障しているため、除湿 / 冷房された空気は送風されません。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

送風温度を調整する

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整ダイヤル ① を時計回りにまわします。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル ① を反時計回りにまわします。

ℹ 一度に大幅に送風温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

ℹ ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * が開いていると、設定温度を維持することができません。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

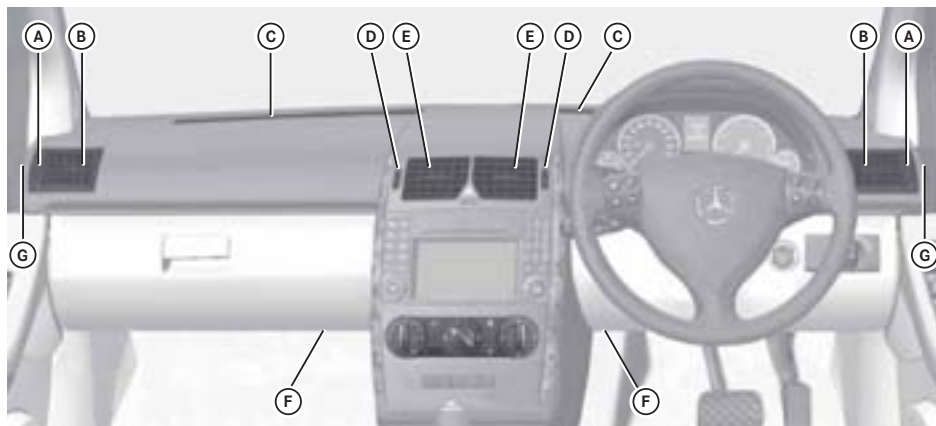
* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風口を選択する

▶ 送風口選択ダイヤル⑤をまわして、好みの送風口マークに合わせます。

ℹ 送風口選択ダイヤルを送風口マークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。

ℹ フロントシートの下にリアの足元送風口があります。

ℹ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風口マーク	主に送風される送風口
[icon]	サイド送風口Ⓑ、中央送風口Ⓔ
[icon]	足元送風口Ⓕ、リア足元送風口、サイド送風口Ⓑ 中央送風口Ⓔ
[icon]	フロントウインドウ送風口Ⓒ、中央送風口Ⓔ サイド送風口Ⓑ、ドアウインドウ送風口Ⓖ 足元送風口Ⓕ、リア足元送風口
[icon]	フロントウインドウ送風口Ⓒ、中央送風口Ⓔ サイド送風口Ⓑ、ドアウインドウ送風口Ⓖ

送風口の開閉

サイド送風口Ⓑと中央送風口Ⓔを開閉することができます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶ、Ⓓを上方にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶ、Ⓓを下方にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒶ、Ⓓを停止するまで下方にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口の開閉ダイヤルを停止するまで下方にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓑと中央送風口Ⓔは風向きを調整することができます。

風向きを調整する

▶ 送風口のノブを上下左右に動かします。

ℹ 換気効率を良くするため、各送風口のノブは中央の位置にすることをお勧めします。

グローブボックス送風口

Ⓗ 送風位置
Ⓘ 送風停止位置
Ⓙ 送風ダイヤル

グローブボックス内へ送風する

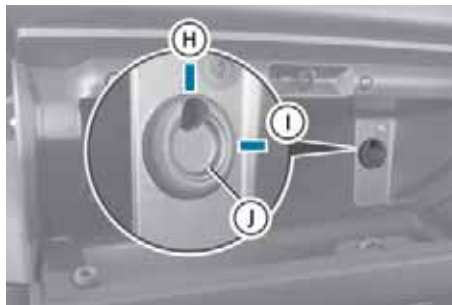
▶ 送風ダイヤルⒿをⒽの位置にまわします。

グローブボックス内への送風を停止する

▶ 送風ダイヤルⒿをⒾの位置にまわします。

! エアコンディショナーの設定温度を上げるときは、グローブボックス内の送風口を閉じてください。

外気温度が高いときは、エアコンディショナーの AC モードを設定して、グローブボックス内へ送風してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。

ℹ グローブボックス内への送風量は、エアコンディショナーの送風量などにより変化します。

ℹ エアコンディショナーの送風温度の調整や送風口の選択にかかわらず、グローブボックス内には暖気は送風されません。

送風量を調整する

送風量を上げる

▶ 送風量調整ダイヤル ③ を時計回りにまわします。

送風量を下げる

▶ 送風量調整ダイヤル ③ を反時計回りにまわします。

デフロスター

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

ℹ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

デフロスターを設定する

▶ AC モードに設定されていることを確認します。

▶ 外気導入モードになっていることを確認します。

▶ 送風温度調整ダイヤル ① と送風量調整ダイヤル ③、送風口選択ダイヤル ⑤ を [デフロスター] に合わせます。

デフロスターを解除する

▶ 送風温度調整ダイヤル ① と送風量調整ダイヤル ③、送風口選択ダイヤル ⑤ を好みの位置に戻します。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ フロントワイパーを作動させます。

▶ 送風口選択ダイヤル ⑤ を [送風口] または [送風口] に合わせます。

ℹ 上記の設定は、フロントウインドウの曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> リアウインドウに雪や氷が付いているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

▶ エンジンスイッチが **2** の位置になっていることを確認します。

▶ リアデフォッガースイッチ ④ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ ④ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、数分後に自動的に停止します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

i 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

i 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

i バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を始めます。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウとパノラミックラメラールーフ * を開閉することができます。

⚠ **事故のおそれがあります**

外気温度が低く、ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * を閉じているときは、内気循環モードへの設定は短期間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ ② を約 2 秒以上押し続けると、押している間だけ、開いているドアウインドウとパノラミックラメラールーフ * が閉じます。

内気循環モードに設定されているときも、一定時間が経過すると外気導入をはじめます。

外気温度が約 7℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 7℃以上のとき	約 30 分後

* オプションや仕様により、異なる装備です。

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 再度、内気循環スイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ ② を約 2 秒以上押し続けると、押している間だけ、ドアウインドウが開き、前回開いていた位置になります。また、最前列のパノラミックスライディングルーフ * がチルトアップします。

⚠ けがのおそれがあります

内気循環スイッチでドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。また、ドアウインドウの周辺に物を置いていたり、身体を寄りかけていないことを確認してください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれてけがをしたり、物が引き込まれるおそれがあります。

ドアウインドウに身体が挟まれたり、引き込まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチを操作して、ドアウインドウを開いてください。

パノラミックスライディングルーフ * に身体が挟まれたり、引き込まれそうになったときは、パノラミックスライディングルーフのスイッチを操作して、パノラミックスライディングルーフを開いてください。

ⓘ 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

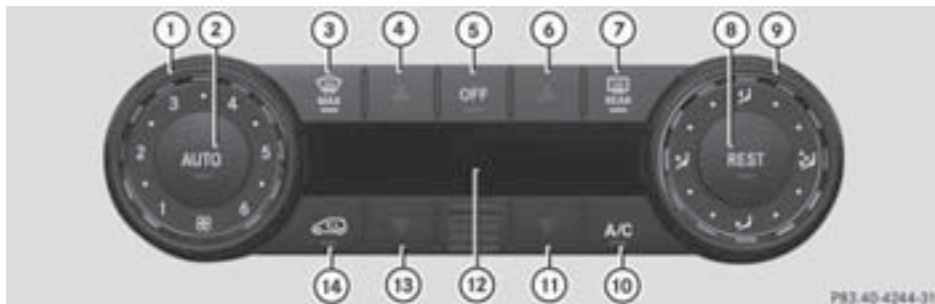
ⓘ 内気循環モードのときに AC モードを解除すると、外気導入モードになります。

ⓘ エアコンディショナーを作動させたときは、外気導入モードになります。

ⓘ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を別のスイッチで操作した場合、開いたドアウインドウを、内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エアコンディショナーの使いかた（左右独立調整式エアコンディショナー装備車）

コントロールパネル

	名称
①	送風量調整ダイヤル
②	AUTO スイッチ
③	デフロスタースイッチ
④	送風温度調整スイッチ(左側 / 高)
⑤	オフスイッチ
⑥	送風温度調整スイッチ（右側 / 高）
⑦	リアデフォッガースイッチ
⑧	余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ

	名称
⑨	送風口選択ダイヤル
⑩	AC スイッチ
⑪	送風温度調整スイッチ（右側 / 低）
⑫	ディスプレイ
⑬	送風温度調整スイッチ（左側 / 低）
⑭	内気循環スイッチ

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯します。

送風量と送風口の選択が自動的に調整されます。

▶ 送風温度調整スイッチ ④⑥⑪⑬ で好みの温度を設定します。

または

▶ オフスイッチ ⑤ を押します。

オフスイッチの表示灯が消灯し、エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ただし、内気循環モードに設定されていたときは、外気導入モードに設定されます。

ⓘ エアコンディショナーが停止しているときに送風量調整ダイヤルや送風温度調整スイッチ、送風口選択ダイヤルなどを操作してもエアコンディショナーは作動します。

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ ⑤ を押します。

オフスイッチの表示灯が点灯します。

ⓘ ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

ⓘ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ ⑩ を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ 再度、AC スイッチ ⑩ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

ⓘ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ AC スイッチを押したときに AC スイッチの表示灯が 3 回点滅したり、表示灯が点灯しないときは、エアコンディショナーが故障しているため、除湿 / 冷房された空気は送風されません。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

AUTO モードの解除

▶ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、AUTO スイッチ ② を押します。

AUTO スイッチ ② の表示灯が消灯し、送風量インジケーターと送風口インジケーターが点灯します。

送風量の調整と送風口の選択を手動で行なうことができます。

ⓘ 送風量調整ダイヤルや送風口選択ダイヤル、デフロスタースイッチを操作したときも AUTO モードは解除されます。

送風温度を調整する

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ ④ または ⑥ を押します。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整スイッチ ⑪ または ⑬ を押します。

ⓘ 一度に大幅に送風温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

ⓘ ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * が開いていると、設定温度を維持することができません。

ⓘ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

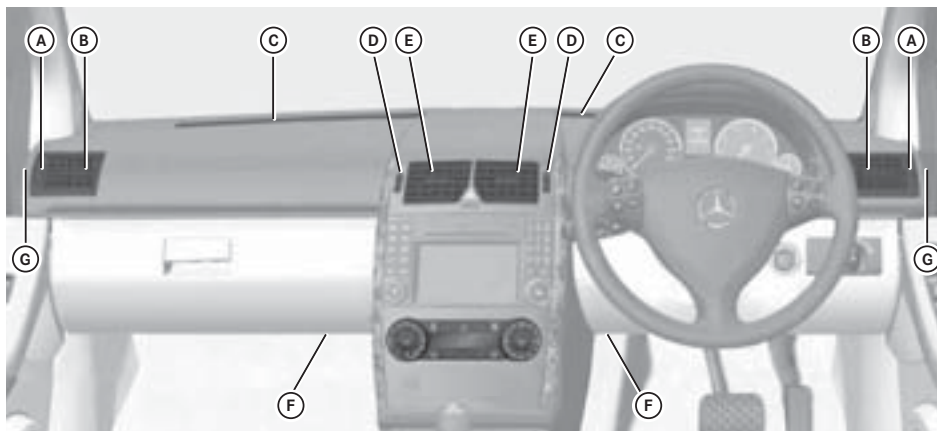
* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風口を選択する

▶ 送風口選択ダイヤル ⑨ をまわして、送風口選択ダイヤルの送風口インジケーターを好みの送風口マークに合わせます。

ℹ 送風口インジケーターを送風口マークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。

ℹ フロントシートの下にリア足元送風口があります。リア送風口については、（▷148 ページ）をご覧ください。

ℹ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風口マーク	主に送風される送風口
[icon]	サイド送風口Ⓑ、中央送風口Ⓔ、リア送風口
[icon]	フロントウインドウ送風口Ⓒ、サイド送風口Ⓑ ドアウインドウ送風口Ⓖ、リア送風口
[icon]	フロントウインドウ送風口Ⓒ、サイド送風口Ⓑ 中央送風口Ⓔ、足元送風口Ⓕ、ドアウインドウ送風口Ⓖ リア足元送風口、リア送風口
[icon]	足元送風口Ⓕ、サイド送風口Ⓑ、リア足元送風口 リア送風口

送風口の開閉

サイド送風口Ⓑと中央送風口Ⓔを開閉することができます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶ、Ⓓを上方にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒶ、Ⓓを下方にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒶ、Ⓓを停止するまで下方にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓑと中央送風口Ⓔは風向きを調整することができます。

風向きを調整する

▶ 送風口のノブを上下左右に動かします。

ℹ 換気効率を良くするため、各送風口のノブは中央の位置にすることをお勧めします。

グローブボックス送風口

Ⓗ 送風位置
Ⓘ 送風停止位置
Ⓙ 送風ダイヤル

グローブボックス内へ送風する

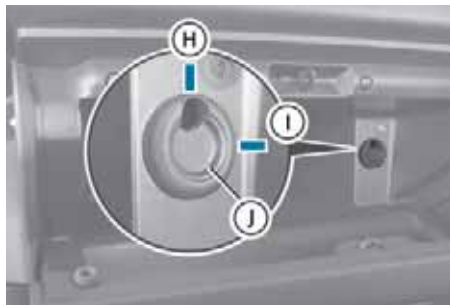
▶ 送風ダイヤルⒿをⒽの位置にまわします。

グローブボックス内への送風を停止する

▶ 送風ダイヤルⒿをⒾの位置にまわします。

❗ エアコンディショナーの設定温度を上げるときは、グローブボックス内の送風口を閉じてください。

外気温度が高いときは、エアコンディショナーの AC モードを設定して、グローブボックス内へ送風してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。

ℹ グローブボックス内への送風量は、エアコンディショナーの送風量などにより変化します。

ℹ エアコンディショナーの送風温度の調整や送風口の選択にかかわらず、グローブボックス内には暖気は送風されません。

リア送風口

Ⓚ 送風口開閉ダイヤル
Ⓛ ノブ
Ⓜ リア送風口

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⓀを左側にまわします。

徐々に送風口Ⓜが開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⓀを右側にまわします。

徐々に送風口Ⓜが閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⓀを停止するまで右側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで右側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

ℹ 送風温度はフロントの設定温度に応じて自動的に調整されます。

風向きを調整する

▶ 送風口のノブⓁを上下左右に動かします。

送風量を調整する

送風量を手動で調整することができます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整ダイヤル ① を時計回りにまわします。

送風量を下げる

▶ 送風量調整ダイヤル ① を反時計回りにまわします。

ℹ 送風量調整ダイヤルを操作すると、リアの送風口からの送風量も増減します。

デフロスター

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターを設定する

▶ デフロスタースイッチ ③ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- AC モードに設定されます。
- 送風量が上がります。
- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

ⓘ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ⓘ デフロスターを設定しているときは、送風口の選択などの操作はできません。

デフロスターを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ ③ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

デフロスターモードに設定する前の内容でエアコンディショナーが作動します。

ただし、デフロスターモードに設定する前に AC モードを解除していたときは AC モードに、内気循環モードにしていたときは外気導入モードになります。

または

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

デフロスタースイッチ ③ の表示灯が消灯し、エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

ⓘ 送風温度調整スイッチや送風量調整ダイヤルを操作したときも、デフロスターは解除されます。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ フロントワイパーを作動させます。

▶ 送風口選択ダイヤル ⑨ を [icon] または [icon] に合わせます。

ⓘ 上記の設定は、フロントウインドウの曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> リアウインドウに雪や氷が付いているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。

リアデフォッガーを使用する

▶ エンジンスイッチが **2** の位置になっていることを確認します。

▶ リアデフォッガースイッチ ⑦ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ ⑦ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、数分後に自動的に停止します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

ℹ 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

ℹ 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

ℹ バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を始めます。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

エンジンスイッチが **0** か **1** の位置のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

送風温度は、エンジンを停止する前に送風温度調整スイッチ ④⑥⑪⑬ で調整します。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- エンジンスイッチを **2** の位置にしたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- 冷却水温度が低いとき

ℹ 送風量は弱の設定で一定に保たれます。送風口は自動的に選択されます。

ℹ 外気温度が高いときは、送風量が中の設定で換気され、暖気の送風は行なわれないことがあります。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウとパノラミックラメラールーフ * を開閉することができます。

⚠ 事故のおそれがあります

外気温度が低く、ドアウインドウやパノラミックラメラールーフ * を閉じているときは、内気循環モードへの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ ⑭ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ ⑭ を約 2 秒以上押し続けると、押している間だけ、開いているドアウインドウとパノラミックラメラールーフ * が閉じます。

内気循環モードに設定されているときも、一定時間を経過すると外気導入をはじめます。

外気温度が約 7℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 7℃以上のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 再度、内気循環スイッチ ⑭ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ ⑭ を約 2 秒以上押し続けると、押している間だけ、ドアウインドウが開き、前回開いていた位置になります。また、最前列のパノラミックラメラールーフ * がチルトアップします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ けがのおそれがあります

内気循環スイッチでドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。また、ドアウインドウの周辺に物を置いていたり、身体を寄りかけていないことを確認してください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれてけがをしたり、物が引き込まれるおそれがあります。

ドアウインドウに身体が挟まれたり、引き込まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチを操作して、ドアウインドウを開いてください。

パノラミックスライディングルーフ * に身体が挟まれたり、引き込まれそうになったときは、パノラミックスライディングルーフのスイッチを操作して、パノラミックスライディングルーフを開いてください。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

ℹ 内気循環モードのときに AC モードを解除すると、外気導入モードになります。

ℹ エアコンディショナーを作動させたときは、外気導入モードになります。

ℹ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を別のスイッチで操作した場合、開いたドアウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を、内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パノラミックラメラールーフ *

⚠ けがのおそれがあります

- パノラミックラメラールーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにパノラミックラメラールーフスイッチを操作して、パノラミックラメラールーフを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。パノラミックラメラールーフを操作してけがをするおそれがあります。
- パノラミックラメラールーフは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにパノラミックラメラールーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! ルーフ上に雪や氷、水などがあるときは取り除いてください。パノラミックラメラールーフを開くとき、車内に雪や氷、水などが入るおそれがあります。また、パノラミックラメラールーフを損傷するおそれがあります

! パノラミックラメラールーフの開口部から、物を出し入れしないでください。パノラミックラメラールーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 走行中はパノラミックラメラールーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! パノラミックラメラールーフやルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。パノラミックラメラールーフやルーフを損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にパノラミックラメラールーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車するときは、ドアウインドウとパノラミックラメラールーフが完全に閉じていることを確認してください。

i パノラミックラメラールーフは車外からリモコン操作で開閉することができます（▷85、86 ページ）。

i パノラミックラメラールーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、パノラミックラメラールーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i パノラミックラメラールーフを開閉できないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

① 開く
② 閉じる

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに操作できます。

最前列のパノラミックラメラールーフをチルトアップ / チルトダウンする

最前列のパノラミックラメラールーフをチルトアップする

▶ スイッチを ① の方向に操作します。

操作している間だけ、最前列のパノラミックラメラールーフがチルトアップします。

最前列のパノラミックラメラールーフをチルトダウンする

▶ スイッチを ② の方向に操作します。

操作している間だけ、最前列のパノラミックラメラールーフがチルトダウンします。

パノラミックラメラールーフを開閉する

パノラミックラメラールーフを開く

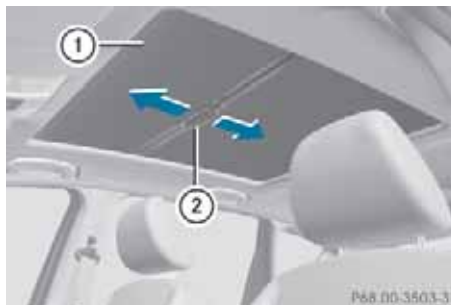
▶ 最前列のパノラミックラメラールーフが完全にチルトアップした状態で、スイッチを ① の方向に操作します。

操作している間だけパノラミックラメラールーフが開きます。

パノラミックラメラールーフを閉じる

▶ スイッチを ② の方向に操作します。

操作している間だけパノラミックラメラールーフが閉じます。

サンシェード

パノラミックラメラールーフの開閉状態にかかわらず、手動で開閉することができます。

サンシェードを開閉する

▶ グリップ ② を持って、矢印の方向にサンシェード ① を開閉します。

荷物の積みかた / 小物入れ

荷物を積むときの注意点

⚠ **けがのおそれがあります**

以降に記載されている方法に従って荷物を積んでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

また、「荷物の固定」もご覧ください（▷165 ページ）。

荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする危険性は高まります。

⚠ **中毒のおそれがあります**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物の積みかたは車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物の重量が、制限重量（▷278 ページ）を超えないようにしてください。
- ラゲッジルームには極端に重い荷物を積載しないでください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルームのできるだけ前方で低い位置）に確実に固定してください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。
- 荷物はラゲッジルームに積み、リアバックレストまたは前方に倒したリアシートクッションに接するようにしてください。
- ラゲッジフロアボード下の収納スペースには、最大約 25kg までの荷物を収納できます。
- 荷物はできるだけ乗車していないシートの後方に積んでください。
- 荷物は、十分な強度があり、磨耗に強い固定用具で固定してください。鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

ℹ 荷物固定用のアクセサリーは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

❗ ラゲッジフロアボードの上に荷物を積むときは、荷物の重量が平均的にかかるようにしてください。

ラゲッジルームには最大約 100kg までの荷物を収納できます。

ラゲッジフロアボードに部分的な荷重をかけると、ラゲッジフロアボードを損傷するおそれがあります。必要であれば、荷物の下に丈夫な板などを敷いてください。

小物入れ

⚠ **けがのおそれがあります**

収納物を収納したときは、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 小物入れには貴重品を保管しないでください。

グローブボックス

グローブボックスを開く

▶ ハンドル ① を引きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー ② を押してロックします。

ℹ エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

ℹ グローブボックス内には、外部入力用端子またはメディアインターフェース接続用端子が装備されています。

詳しくは、別冊「AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤー 取扱説明書」をご覧ください。

ℹ グローブボックス内に送風することができます。詳しくは(▷139、147 ページ)をご覧ください。

フロントアームレストの小物入れ

小物入れを開く

▶ カバー ① を軽く押します。

カバー ① が前方にスライドします。

フロントシート下の小物入れ *

助手席シート下の小物入れ

小物入れを使用する

▶ 小物入れ ③ を、上方に少し持ち上げてから、矢印の方向に引き出します。

ℹ フロントシート下の小物入れは販売店オプションです。詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 重量が 2.5kg 以上の物は収納しないでください。

ℹ フロントシート下の小物入れには CD ケースを収納することができます。ストッパー ① により、CD ケース ② を固定することができます。

フロントアームレスト後部の小物入れ

小物入れを使用する

▶ フロントアームレスト ① 全体を前方にスライドさせます。

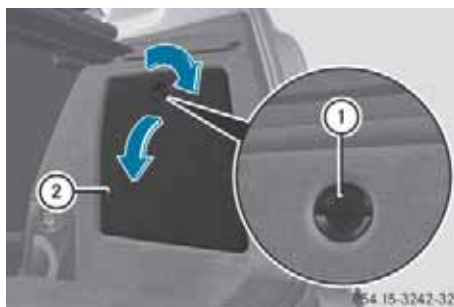
⚠ **けがのおそれがあります**

フロントアームレストをスライドさせるときは、身体が挟まれないように注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ラゲッジルームの小物入れ

⚠ **けがのおそれがあります**

ラゲッジルームの小物入れには、重量が約 1.5kg の物は収納しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故などのときにカバーが開いて収納物が投げ出され、乗員がけがをするおそれがあります。

ラゲッジルームの右側には小物入れがあります。

小物入れを開く

▶ ノブ ① を時計回りにまわし、ロックを解除します。

▶ 小物入れのカバー ② を開きます。

小物入れを閉じる

▶ 小物入れのカバー ② を閉じます。

▶ ノブ ① を反時計回りにまわし、ロックします。

ℹ ラゲッジルーム左側の小物入れには救急セットや車載工具、停止表示板などが収納されています。

⚠ **けがのおそれがあります**

救急セットや車載工具、停止表示板などラゲッジルーム左側の小物入れに収納されている収納物は、正しい位置に確実に収納してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにカバーが開いて収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

カップホルダー

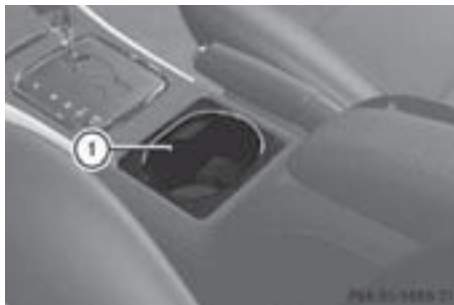
⚠ **けがや火傷のおそれがあります**

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が投げ出されて、乗員がけがや火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

ℹ 各ドアのドアポケットにボトルホルダーが装備されています。

センターコンソールのカップホルダー

① カップホルダー

リアアームレストのカップホルダー

カップホルダーを使用する

▶ リアアームレストを引き出します。

▶ カップホルダー ① を押します。

カップホルダー ① が前方に出ます。

カップホルダーを収納する

▶ カップホルダー ① を押し込んでロックします。

! リアアームレストを引き出しているときは、アームレストに座ったり、よりかからないでください。アームレストを損傷するおそれがあります。

! リアアームレストを収納するときは、カップホルダーを収納してください。カップホルダーを損傷するおそれがあります。

収納ネット

⚠ **けがのおそれがあります**

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。事故のときなどに収納ネットが十分に収納物を固定できないおそれがあります。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

助手席足元の収納ネット

助手席の足元に新聞や雑誌などを収納できる収納ネット ① があります。

※ リアアームレストのカップホルダーは、日本仕様には装備されません。

! 助手席シートの前後位置を調整するときは、収納物とシートが接触しないように注意してください。収納物やシートを損傷するおそれがあります。

フロントシート背面の収納ネット

フロントシートの背面には収納ネット②があります。

スルーローディング

⚠ けがのおそれがあります

スルーローディングを開いて物を収納するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

リアシートバックレスト背面にあるカバーを開いて、長い荷物などを収納することができます。また、アームレストの汚れや損傷を防ぐために、アームレストを取り外すことができます。

スルーローディングを開く

▶ リアアームレスト①を引き出します。

▶ リアシートバックレスト背面のカバー②のノブ③を矢印の方向にスライドします。

▶ カバー②を手前に開き、リアシートバックレスト背面の磁石に固定します。

スルーローディングを閉じる

▶ カバー②を閉じてロックさせます。

▶ 必要に応じて、リアアームレスト①を収納します。

※ スルーローディングは、日本仕様には装備されません。

リアアームレストを取り外す

▶ リアアームレスト①を引き出します。

▶ リリースハンドル②を引き上げます。

リリースハンドル②のロックインジケーターが見える状態になります。

▶ リリースハンドル②を引き上げたまま、アームレストを前方にスライドして取り外します。

! アームレストを取り外した状態で、リリースハンドルを押し込まないでください。リリースハンドルを損傷するおそれがあります。

リアアームレストを取り付ける

▶ ロックされるまで、アームレストを元の位置に押し込みます。

リリースハンドル①が下がります。

リリースハンドルのロックインジケーターが見えない状態になっていることを確認します。

ロックインジケーターが見える状態のときは、アームレストは確実にロックされていません。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 走行するときは、リアアームレストを確実に取り付けてください。急ブレーキや急な進路変更時、事故のときなどにリアアームレストが投げ出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- アームレストを取り外しているときは、後席中央には乗車しないでください。

! アームレストを収納するときは、アームレストが確実にロックしていることを確認してください。アームレストを損傷するおそれがあります。

リアシートの折りたたみ

リアシートの左右いずれか一方、または両方を折りたたむことができます。

⚠ けがのおそれがあります

リアシートを折りたたむときや元に戻すときは、身体などを挟まないように注意してください。

! シートの損傷を防ぐため、リアシートのバックレストを前方に倒したり、元に戻す前に以下のことを確認してください。

- リアシートのヘッドレストが最も低い位置になっていること
- フロントシートができるだけ前方の位置になり、フロントシートのバックレストが前方に倒れていること
- リアシートのシートクッションが前方に引き起こされているか、取り外されていること

! リアシートを折りたたんだ状態でフロントシートを後方に動かしたり、フロントシートのバックレストを後方に倒すときは、リアシートに当たらないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

リアシートを折りたたむ

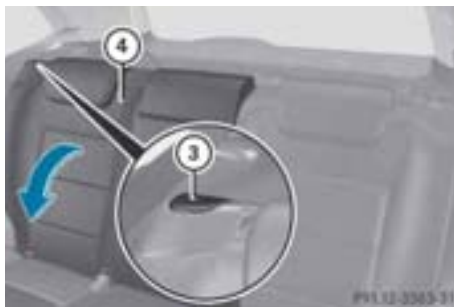
▶ フロントシートを前方に動かします。

▶ リアシートのヘッドレストを最も低い位置にします。

右側リアシートを折りたたむ操作

▶ シートベルトのプレートの先端を固定部 ① に差し込みます。

右側リアシートを折りたたむ操作

▶ シートクッション ② を前方に引き起こします。

右側リアシートを折りたたむ操作

▶ バックレスト上部にあるリリースレバー ③ を引きます。

バックレストのロックが解除されます。

▶ バックレスト ④ を前方に倒します。

▶ フロントシートを調整します。

リアシートを元に戻す

▶ シートベルトのプレートの先端を固定部に差し込みます（▷162 ページ）。

右側リアシートを元に戻す操作

▶ バックレスト ④ を元の位置に戻し、確実にロックします。

▶ ロックインジケーター ⑤ が見えない状態になっていることを確認します。

⚠ **けがのおそれがあります**

バックレストが確実にロックされていることを確認してください。ロックインジケーター ⑤ が見えている状態のときはバックレストがロックされていません。ロックインジケーターが見えていない状態になるようにバックレストを確実にロックしてください。事故のときなどにラゲッジルームから物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! リアシートを元に戻すときは、シートベルトを挟み込まないように注意してください。

▶ シートクッション ② を後方に倒し、元の位置に戻します。

▶ 必要であれば、リアシートのヘッドレストを調整します。

▶ フロントシートを調整します。

リアシートクッションを取り外す

リアシートクッションの左右いずれか一方、または両方を取り外すことができます。

右側リアシートのシートクッションを取り外す操作

▶ シートベルトのプレートの先端を固定部 ① に差し込みます。

右側リアシートのシートクッションを取り外す操作

▶ シートクッション ② を前方に引き起こします。

右側リアシートのシートクッションを取り外す操作

▶ レバー ③ を引いてシートクッション ② を上方に取り外します。

リアシートクッションを取り付ける

右側リアシートのシートクッションを取り付ける操作

▶ シートクッション取り付け部 ④ の先端が上方を向いていることを確認します。

▶ シートクッション取り付け部 ④ の先端をシートクッションに差し込み、確実にロックさせます。

ⓘ シートクッションの裏面に、シートクッション取り付け部 ④ を差し込む位置を示す矢印が記載されています。

▶ シートクッションを後方に倒し、元の位置に戻します。

! 走行する前に、シートクッションが元の位置に戻っていることを確認してください。

! シートクッションを取り外したときは、シートクッション取り付け部の先端に注意してください。けがをするおそれがあります。

! シートクッションを取り外した状態でリアシートのバックレストを倒すときは、シートクッション取り付け部の先端が上を向いていることを確認してください。バックレストを損傷するおそれがあります。

荷物の固定

荷物固定用リング

⚠ **けがのおそれがあります**

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。「荷物を積むときの注意点」もご覧ください（▷155 ページ）。

ラゲッジルームに荷物固定用リング ① があります。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 荷物を積むときは、運転の邪魔になったり、運転者の視界の妨げにならないようにしてください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

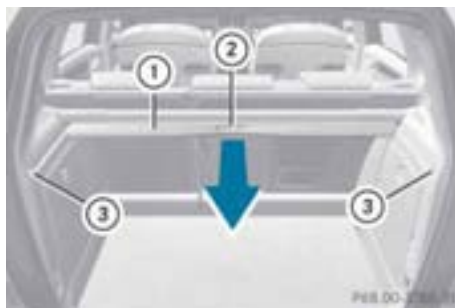
- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物の移動を防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 荷物固定用のストラップなどを、リアシートバックレスト背面のテザーアンカー（▷39 ページ）にかけないでください。

荷物固定用のアクセサリーは、Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ラゲッジルームカバー

⚠ **けがのおそれがあります**

ラゲッジルームカバーは、荷物の飛び出しを防ぐものではありません。ラゲッジルームカバーを使用しているときも、ラゲッジルームの荷物は確実に固定してください。またラゲッジルームカバーが確実に取り付けられていることを確認してください。荷物が確実に固定されていないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジルームに荷物を積むときは、荷物の高さが左右ウインドウの下端よりも高くならないようにしてください。また、ラゲッジルームカバーの上には重いものを載せないでください。

ラゲッジルームカバーを使用する

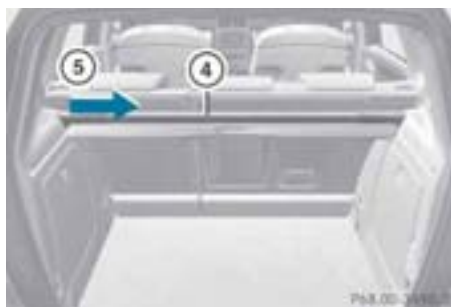
▶ ハンドル ② を持ってラゲッジルームカバー ① を引き出します。

▶ ラゲッジルームカバー ① の両端を左右のフック ③ にかけます。

ラゲッジルームカバーを収納する

▶ ハンドル ② を持ってラゲッジルームカバー ① を少し引き、左右のフック ③ から外します。

▶ ラゲッジルームカバー ① をゆっくりと巻き取らせます。

ラゲッジルームカバー収納リールを取り外す

▶ ラゲッジルームカバーを収納します。

▶ 左側リアシートのバックレストのロックを解除して、前方に傾けます (▷163 ページ)。

▶ ラゲッジルームカバー収納リール ④ の左端部を矢印 ⑤ の方向に押しながら、収納リールの左端部を左側の凹部から取り外します。

▶ 収納リールの右端部を右側の凹部から外して、ラゲッジルームカバー収納リール ④ を取り外します。

▶ 左側リアシートのバックレストを元の位置に戻します。

ラゲッジルームカバー収納リールを取り付ける

▶ ラゲッジルームカバー収納リール ④ の右端部を、右側の凹部に差し込みます。

▶ ラゲッジルームカバー収納リール ④ の左端部を矢印 ⑤ の方向に押しながら、収納リールの左端部を左側の凹部に差し込みます。

バッグホルダー

ラゲッジルームの左側にバッグホルダー ① があります。

バッグホルダーを使用する

▶ バッグホルダー ① を軽く押します。

バッグホルダーがポップアップします。

バッグホルダーを収納する

▶ バッグホルダーを押し込みます。

⚠ **けがのおそれがあります**

バッグホルダーには軽い荷物のみを掛けてください。重い物やとがった物、壊れやすい物を掛けないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

! バッグホルダーには、約 5kg 以上の荷物を掛けないでください。また、荷物固定のためには使用しないでください。

ラゲッジフロアボード下の収納スペース

ラゲッジフロアボード下の収納スペースには、約 25kg までの物を収納できます。

⚠ **けがのおそれがあります**

ラゲッジフロアボード下の収納スペースに物を収納するときは、ラゲッジフロアボードを閉じてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジフロアボードが閉じなくなるような大きさの物をラゲッジフロアボードの下に収納しないでください。収納物やラゲッジフロアボードを損傷するおそれがあります。

ラゲッジフロアボードを開く

▶ バッグホルダーが押し込まれていることを確認します。

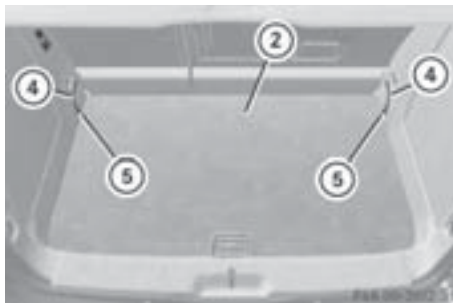
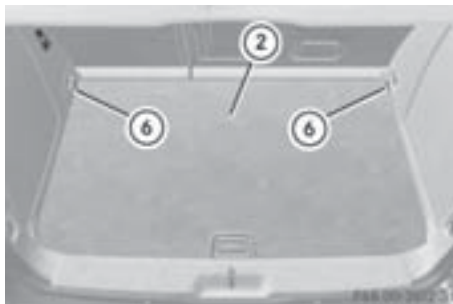
▶ ハンドル ① を起こし、ラゲッジフロアボード ② をラゲッジルームカバー、またはリアシートのバックレストに触れる位置まで引き上げます。

▶ バッグホルダー ③ を軽く押します。

バッグホルダー ③ がポップアップします。

▶ ラゲッジフロアボード ② をバッグホルダー ③ に立てかけます。

ラゲッジフロアボードの高さを変える

ラゲッジフロアボード ② の高さは、2 段階に調整できます。

低い位置の状態

高い位置の状態

▶ ラゲッジフロアボード ② を約半分ほど開きます。

▶ レール ④ に沿ってラゲッジフロアボードを下段位置 ⑤ または上段位置 ⑥ に移動します。

! テールゲートを閉じるときは、ラゲッジフロアボードが ⑤ か ⑥ の位置になっていることを確認してください。

ⓘ ラゲッジフロアボードが高い位置にあるときにラゲッジフロアボードを開くときは、ラゲッジフロアボードの上に積載物がないことを確認してください。積載物の重量でラゲッジフロアボードが低い位置に下がることがあります。

ラゲッジフロアボードを閉じる

▶ ラゲッジフロアボード ② を引き上げながら、バッグホルダー ③ を押し込みます。

▶ ラゲッジフロアボードを下方に押し込みます。

ルーフラック

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

- ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。誤った取り付け方によってルーフラックが脱落すると、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。
- ルーフの最大積載量（約 50kg）を超えないよう注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

ルーフラックを取り付けているときは、パノラミックスライディングルーフ * を閉じてください。乗員がけがをするおそれがあります。

! ルーフラックを取り付けるときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- パノラミックスライディングルーフ * を開いたときに接触しないこと
- テールゲートを開いたときに接触しないこと
- ルーフアンテナに接触しないこと

ⓘ ルーフラックは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 推奨品以外のルーフラックを取り付けると車を損傷するおそれがあります。

▶ カバー ① を矢印の方向に開きます。

▶ 内部のマウント部にルーフラックを取り付けます。

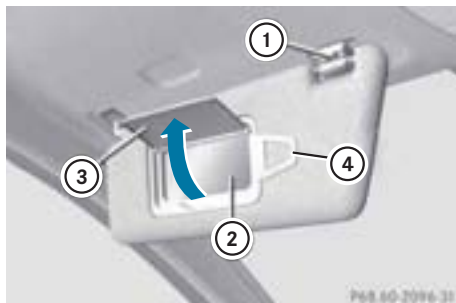
ルーフラックの取り付け方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内装備

サンバイザー

⚠ 事故のおそれがあります

走行中はバニティミラーカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

① フック
② バニティーミラー
③ バニティーミラーカバー
④ カードホルダー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック ① から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバーを閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

i バニティミラーの横にはカードホルダー ④ があります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザーを下げます。

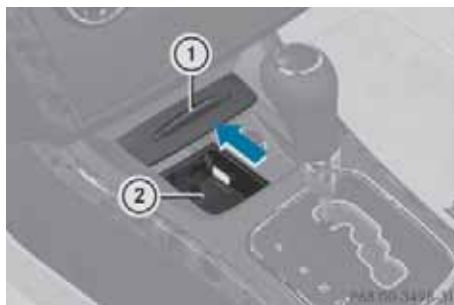
▶ バニティミラーカバー ③ を上方に開きます。

灰皿

! 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

! 使用後は確実にカバーを閉じてください。

フロントの灰皿

灰皿を開く

▶ カバー ① を前方にスライドさせます。

灰皿を閉じる

▶ カバー ① を後方にスライドさせます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿 ② を少し前方にスライドさせ、引き上げます。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ② を確実に押し込みます。

▶ 灰皿 ② を後方にスライドさせます。

ⓘ 車幅灯が点灯すると、フロントの灰皿内部の照明が点灯します。

ⓘ 灰皿 ② を前方にスライドさせるとカップホルダーになります。

ⓘ 灰皿をカップホルダーとして使用しているときに、セレクターレバーを P に入れたときは、カップホルダーの容器と接触することがあります。

! カップホルダーとして使用するときは（▷158 ページ）の注意を守ってください。

リアの灰皿

リアの灰皿は、センターコンソールの後端にあります。

灰皿を開く

▶ カバー ① の上部を手前に引きます。

灰皿を閉じる

▶ カバー ① を押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ カバー ① を開き、灰皿を引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を確実に押し込みます。

ライター

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ カバー ① を前方にスライドさせて開きます。

▶ ライター ② を押し込みます。

熱せられると、ライター ② は元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

⚠ **火傷や火災のおそれがあります**

- ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。
- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。火傷や火災のおそれがあります。

! ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。

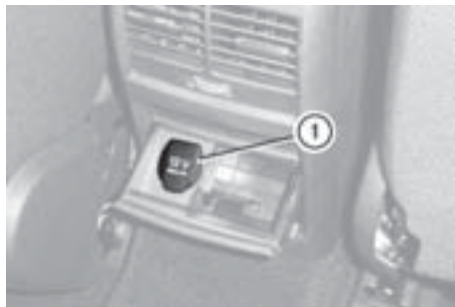
! 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

! ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを **0** の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

ℹ 車幅灯が点灯すると、ライターソケット内部の照明が点灯します。

12V 電源ソケット

エンジンスイッチが **1** か **2** の位置のときに使用できます。

12V 電源ソケットを使用する

▶ リアの灰皿のカバーを開きます。

▶ ソケットカバー ① を開き、電気製品の電源コネクターを確実に差し込みます。

! 必ず DC12V、最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になります。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ けがのおそれがあります

SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

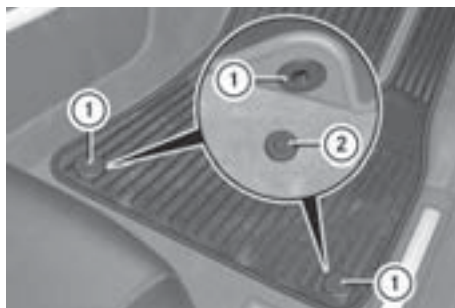
- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなどをかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないようにしてください。

運転席のフロアマット *

⚠ けがのおそれがあります

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- 運転席のフロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

フロアマットを取り付ける

▶ シートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

フロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

慣らし運転

⚠ 事故のおそれがあります

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、走行距離が目安として数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- マニュアルシフト位置 3 2 1 は、山道などを低速で走行するときにだけ使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ℹ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ℹ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低い変速比（ギア）に切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低い変速比（ギア）のときほど効きが強くなります。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ 火災や爆発のおそれがあります

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

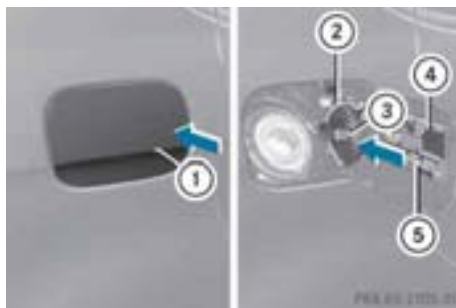
⚠ 爆発のおそれがあります

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 健康を害するおそれがあります

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネルには燃料給油口の位置を示す [⛽▸] が表示されています。

① 燃料給油フラップ
② ホルダー
③ キャップ
④ タイヤ空気圧ラベル
⑤ 使用燃料表示

給油口を開いて給油する

- ▶ エンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 燃料給油フラップ①の矢印の部分を押します。
- ▶ キャップ③を反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜きます。
- ▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして外します。
- ▶ 外したキャップ③を燃料給油フラップの裏側にあるホルダー②に置きます。
- ▶ 給油を開始します。

  給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

給油口を閉じる

- ▶ キャップを燃料給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

  キャップがロックする音が聞こえます。
- ▶ 燃料給油フラップ ① を閉じます。

ℹ 燃料給油フラップが解錠されないときは、手動で解錠して開くことができます（▷245 ページ）。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル ④ が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷191 ページ）をご覧ください。

ℹ リモコン操作で車両を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。燃料給油フラップのロックピンにより燃料給油フラップを閉じることができなくなります。

! 燃料をこぼさないように注意してください。

燃料が車の塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 軽油を燃料として使用したり、無鉛プレミアムガソリンに混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。

- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

エンジンルーム

ボンネット

⚠ 事故のおそれがあります

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ 火傷のおそれがあります

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 火傷のおそれがあります

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

⚠ けがのおそれがあります

イグニッションシステムには高電圧が発生しています。そのため、以下のときはイグニッションシステムの構成部品（イグニッションコイル、イグニッションケーブル、プラグコードや診断ソケット）には手を触れないでください。感電したり、致命的なけがをするおそれがあります。

- エンジンがかかっているとき
- エンジン始動時
- エンジンスイッチが **2** の位置のとき

⚠ けがのおそれがあります

エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

⚠ けがのおそれがあります

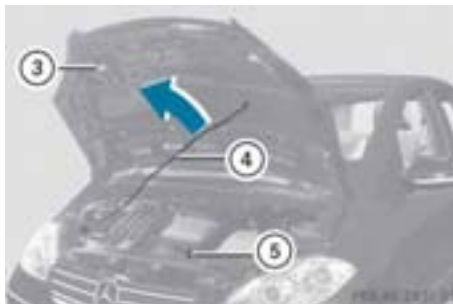
ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜き、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください（▷81ページ）。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

▶ エンジンスイッチからキーを抜いて、ワイパーが停止の位置になっていることを確認します。

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

▶ ボンネット前部のロック解除ノブ②を矢印の方向に引きながらボンネットを開きます。

▶ アーム④をフック⑤から外し、ボンネットの凹部③に確実にかけます。

! アーム ④ はエンジンルームの熱で熱くなっていることがあります。触れるときは、手袋などを着用してください。

ボンネットを閉じる

⚠ けがのおそれがあります

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

▶ ボンネットを少し上げながら、アーム ④ を凹部 ③ から外し、フック ⑤ に固定します。

▶ ボンネットを下げ、グリル上部から約 20cm ～ 30cm の位置で手を放して閉じます。

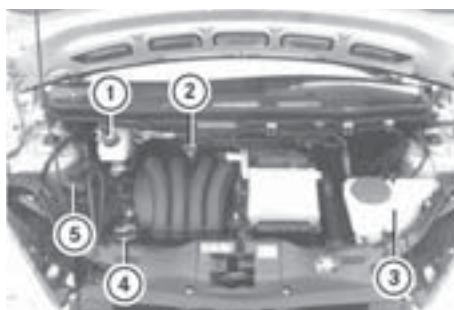
▶ ボンネットが確実に閉じていることを確認します。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

⚠ 事故のおそれがあります

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じないでください。ボンネットが変形するおそれがあります。

エンジンルーム

①	ブレーキ液 リザーブタンク	186
②	エンジンオイル レベルゲージ	183
③	ウォッシャー液 リザーブタンク	188
④	エンジンオイル フィラーキャップ	183
⑤	冷却水リザーブタンク	184

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検をするときは以下の事項を厳守してください。

⚠ けがのおそれがあります

- イグニッションシステムおよびバイキセノンヘッドランプ * のバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。

日常の取り扱い

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- エンジンスイッチからキーを抜いても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換・廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

⚠ 火傷やけがのおそれがあります

- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所で行なってください。

! 適切な工具を使用してください。

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、バッテリー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、ただちに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

V ベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。

エンジンオイル

エンジンオイル量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

▶ エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限 ② と下限 ③ の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量だけ補給します。

ℹ エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は約1.2リットルです。

ℹ 慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイルを補給する

環　境

エンジンオイルを補給するときは、エンジンオイルをこぼさないように注意してください。環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ① を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして取り付けます。

⚠ 火災や火傷のおそれがあります

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されない場合があります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。入れすぎたエンジンオイルは抜き取ってください。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

冷却水

冷却水の量を点検する

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計で冷却水の温度が冷えていることを確認します。

⚠ **火傷のおそれがあります**

水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がバー ③ の上面に達していれば適量です。

ℹ 水温が高いときは、液面は約 1.5cm 高くなります。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

⚠ **火傷のおそれがあります**

不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして取り付けます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷228 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときは、以下のいずれかの症状があらわれます。

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が出ている

⚠ 火災のおそれがあります

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた冷却水が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ 火傷のおそれがあります

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンファンが停止しているときや冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足していたら補給します（▷185 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

ブレーキ液の量を点検する

▶ ブレーキ液リザーブタンク ① のレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面がレベルインジケーター上限（MAX）② とレベルインジケーター下限（MIN）③ の間にあれば正常です。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、(▷229 ページ) をご覧ください。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 事故のおそれがあります

- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり(▷229 ページ)、ブレーキ警告灯(▷201 ページ)が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。
- 安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 火傷のおそれがあります

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、レベルインジケーターの上限を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンや排気管などに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ℹ **ベーパーロック**：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー * 液のリザーブタンクは兼用です。

⚠ 火災のおそれがあります

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（▷276 ページ）。

ウォッシャー液を補給する

▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ ① を開きます。

▶ ウォッシャー液を補給します。

▶ キャップ ① を取り付けます。

ℹ ウォッシャー液には夏用と冬用の 2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量センサーを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷229 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷191 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、車両操縦性やロードノイズ、燃料消費などに悪影響をおよぼすおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールと車体などが接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 前後同サイズのタイヤ / ホイールが指定されている車種で、2 本だけ新品のタイヤを装着する場合は前輪に装着してください。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

! ひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。

! ブレーキシステムやホイールを改造しないでください。また、ホイールスペーサーやブレーキダストシールドを装着することはできません。事故や故障の原因になります。

! タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照)を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

必要に応じて、ステアリングを左右いっぱいに切り、前輪の内側側面の状態も点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷しているときは、振動や騒音が発生したり、ステアリングが不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。

- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤを清掃するとき

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

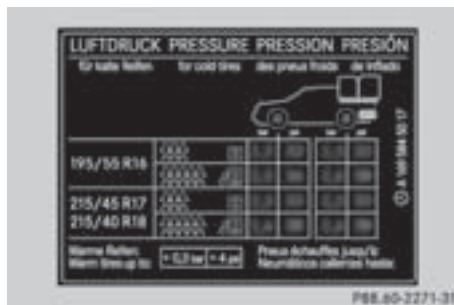
タイヤの保管について

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤの清掃について

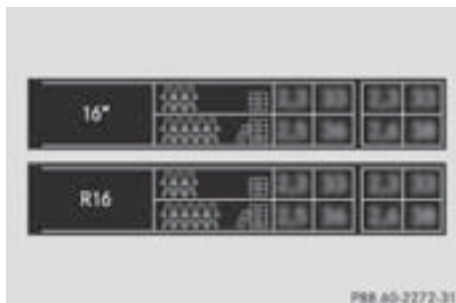
⚠ **事故のおそれがあります**

高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあり、事故の原因になります。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷177ページ）。

装着されているタイヤのサイズや乗車人数、荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒ kg/cm²）」と「psi」で示しています。

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤサイズの代わりに、"**16"**" や "**R16**" などのホイール外径で表示されていることもあります。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

ホイール外径 ① はタイヤのサイドウォールのタイヤサイズ表示に記載されています。

⚠ 事故のおそれがあります

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。それらを装着すると、バルブが常に開いた状態になるため、空気圧低下の原因になります。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

ℹ "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

ℹ 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

ℹ 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

ℹ 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

タイヤ空気圧警告システム

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- 応急用スペアタイヤを装着しているとき
- ルーフや車内に重い荷物を積んで走行しているとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

⚠ 事故のおそれがあります

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷191 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認します。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

タイヤ空気圧システムを再起動する

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

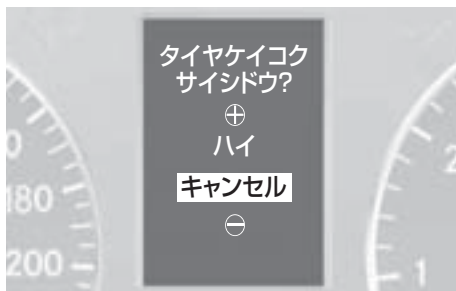
▶ [⊟] または [⊟] を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷103 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

" ﾀｲﾔｸｳｷ ｱﾂｹｲｺｸ ｻﾄﾞｳ ﾒﾆｭｰ : R ﾎﾞﾀﾝ " と表示されます。

ℹ エンジンスイッチが **2** 以外の位置のときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔｸｳｷ ｱﾂｹｲｺｸ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝﾃﾞ ｼﾖｳｶﾉｳ " と表示されます。

▶ リセットボタン（▷99 ページ）を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

マルチファンクションディスプレイに"ﾀｲﾔｹｲｺｸ ｻｲｼﾄﾞｳ?"と表示されます。

▶ ＋ を押して、"ﾊｲ"を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに"ﾀｲﾔｸｳｷ ｱﾂｹｲｺｸ ｻｲｼﾄﾞｳ"と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

再起動を中断する

▶ "ﾀｲﾔｹｲｺｸ ｻｲｼﾄﾞｳ?"と表示されているときに − を押します。

または

▶ "ﾀｲﾔｹｲｺｸ ｻｲｼﾄﾞｳ?"と表示されてから、約 15 秒間何も操作しないと、再起動は中断されます。

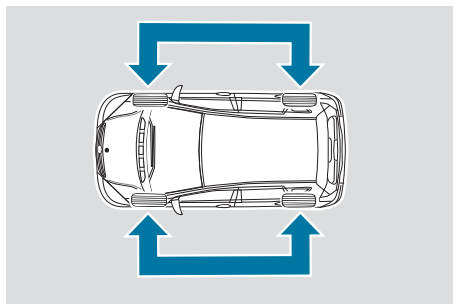
タイヤローテーション

⚠ **事故のおそれがあります**

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。

ホイールボルトの締め付けトルクは 13kg-m(130Nm) です。タイヤローテーションを行なった後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ℹ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。この結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤを入れ替えた後に空気圧を調整してください。

ℹ 指定空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

ℹ タイヤローテーションを行なったあとは、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷194 ページ）。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリー液の量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウ、パノラミックスライディングルーフ*などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

> ⚠ **中毒のおそれがあります**
>
> マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れて、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP® などの効果が発揮されます。

装着するウインタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください（▷280 ページ）。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> - ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、ただちに新品と交換してください。
> - ウィンタータイヤの装着時に応急用スペアタイヤを装着すると、車両操縦性や走行安定性、制動性能が大きく低下するので注意してください。
>
>   スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面ではクルーズコントロールを使用しないでください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは必ず左右の前輪に装着してください。
- スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの着脱は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

! 17 インチホイール装着車にスノーチェーンを装着するときは、純正スノーチェーンのみを装着し、緊急脱出用としてタイヤを直進にした状態でのみ使用してください。ステアリングをまわした状態で使用すると、車体と接触して損傷するおそれがあります。

! スチールホイール装着車にスノーチェーンを装着するときは、ホイールカバーを取り外してください。ホイールカバーを損傷するおそれがあります。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- 必ずウィンタータイヤまたはスノーチェーンを装着してください。
- 走行モードを C モードに切り替えてください (▷94 ページ)。
- クルーズコントロールを使用しないでください (▷124 ページ)。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

⚠ **事故のおそれがあります**

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずマニュアルシフトで低い変速比（ギア）を選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

⚠ **火災のおそれがあります**

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、走行距離が目安として数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

! ブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中、急な下り坂を走行したり、重い荷物を積んでいるときは、設定速度が維持できないことがあります。このようなときは、低い変速比（ギア）を選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、しばらく走行を続けてください。走行風によりブレーキディスクを早く冷やすことができます。

ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを **2** の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯したときは、ブレーキ液の量が不足しています。安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷229 ページ）をご覧ください。

タイヤのグリップについて

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジン内部の抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低い変速比（ギア）のときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキは効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

障害物を乗り越えるとき

障害物を乗り越えたり、未舗装路などの不整地を走行すると、ボディ下部やホイール、タイヤなどに強い衝撃を受けるおそれがあります。車の損傷によっては、事故を起こすおそれがあります。障害物を乗り越えるときは低速で走行してください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約 25cm です。

  波が立たないような速度で走行してください。また、周囲の車両が立てる波にも注意してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

- 車が水没した場合は、水が引いたあとでもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が侵入するおそれがあります。
- 自動洗車機を利用するときは、ルーフアンテナやアダプターを取り外してください (▷212 ページ)。
- 天井高の低い駐車場などを利用するときはルーフアンテナを後方に倒してください。

車の周囲が雪で覆われているとき

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールは使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。または AC モードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。

- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検整備時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときに、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を指定の時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、エンジンスイッチを **2** の位置にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタンを押します。

i メンテナンスインジケーターが表示される時期は一定ではなく、車種や仕様、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。

手動表示

メンテナンスインジケーター画面は手動でも表示できます。

▶ エンジンスイッチを **1** か **2** の位置にします。

▶ [⊟] または [⊟] を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。# には A から H までのアルファベットが入ります。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XXXX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｦ ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XXXX km ｦ ｺｴﾃｲﾏｽ "

また、警告音が鳴ります。

i " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲は該当しません。

i " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ＋ " " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ＋ " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " ＋ " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

i ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のように対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

i バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **中毒や火災のおそれがあります**

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災が発生するおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災が発生するおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

自動洗車機の使用

⚠ **事故のおそれがあります**

自動洗車機で洗車したあとは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキディスクやブレーキパッドが乾くまでは、十分注意して走行してください。

! 自走式の洗車機で洗車するときは、セレクターレバーを N に入れてください。車両を損傷するおそれがあります。

! 自動洗車機で洗車する前に、以下のことを確認してください。

- ドアウインドウとパノラミックラメラールーフ * が完全に閉じていること
- 余熱ヒーター・ベンチレーション * が停止していること
- ワイパーが停止していること

車両を損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄を行なう自動洗車機は、使用しないでください。ドアやパノラミックスライディングルーフ * などから水漏れを起こすおそれがあります。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 塗装面を磨かないでください。また、塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ウインドウの清掃

⚠ **事故のおそれがあります**

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。葉や花、花粉などがたまって排水を妨げることがあります。これにより、腐食による損傷や、電気装備の損傷につながることがあります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ **けがのおそれがあります**

ワイパーブレードを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

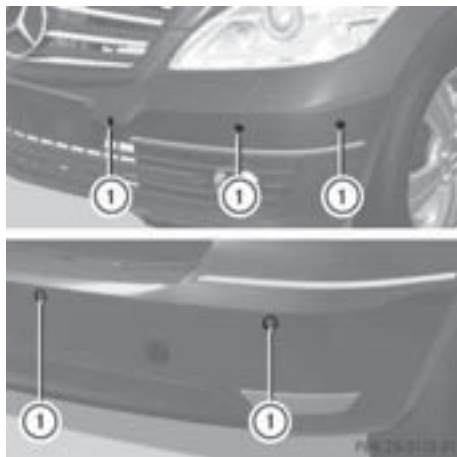
▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ランプ類の手入れ

ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドランプウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

パークトロニックセンサー * の手入れ

パークトロニックセンサー ① を清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マフラーの手入れ

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

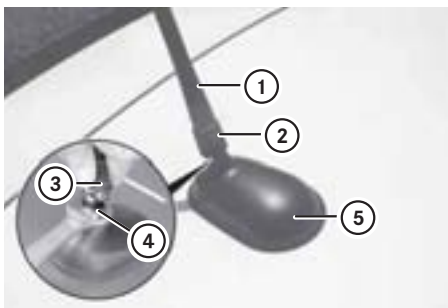
定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ルーフアンテナの取り扱い

自動洗車機を利用するときなどはルーフアンテナを取り外してください。

ルーフアンテナの取り外し

① ルーフアンテナ
② アダプター
③ ブーツ
④ 固定用ナット
⑤ ベース

ルーフアンテナを取り外す

▶ ルーフアンテナ ① を反時計回りにまわし、アダプター ② から取り外します。

▶ ブーツ ③ を取り外します。

! 天井高の低い駐車場などを利用するときは、ルーフアンテナを後方に倒してください。

! ルーフアンテナを取り外したときは、ブーツ ③ も必ず取り外してください。自動洗車機の水圧やブラシなどでブーツが外れるおそれがあります。

! テールゲートを開くときは、ルーフアンテナを起こしてください。テールゲートとルーフアンテナが接触し、塗装面を損傷するおそれがあります。

アダプターの取り外し / 取り付け

自動洗車機によっては、アダプターが洗車機のブラシなどに巻き込まれ、車体を損傷するおそれがあります。アダプターも取り外してください。

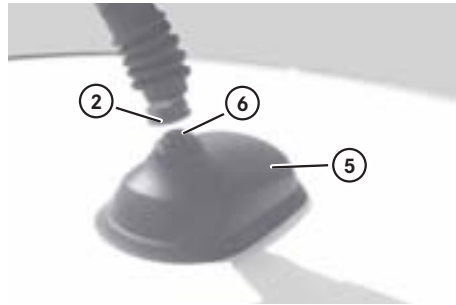
アダプターを取り外す

▶ ブーツ ③ をめくります。

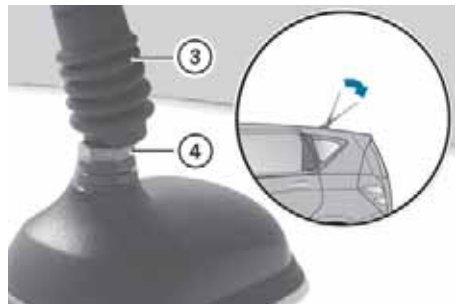
▶ 13mm のスパナを用意します。

▶ 固定用ナット ④ を反時計回りにまわして、ゆるめます。

▶ アダプター ② を反時計回りにまわし、ベース ⑤ から取り外します。

アダプターを取り付ける

② アダプター
⑤ ベース
⑥ 取り付け穴

▶ ベース ⑤ の取り付け穴 ⑥ に、アダプター ② を差し込み、時計回りにまわします。

このとき、アダプターが固定されるまでまわし切らないようにします。

③ ブーツ
④ 固定用ナット

▶ ブーツ ③ をめくります。

▶ ルーフアンテナが車の後方に倒れる位置（図円内参照）にアダプターを保持しながら、13mm のスパナで固定用ナット ④ を時計回りに締め付けて、固定します。

▶ ルーフアンテナが車の後方に倒れることを確認します。

! ルーフアンテナは、必ず後方に倒れる位置で固定してください。障害物などに接触するとルーフアンテナを損傷するおそれがあります。

! 固定用ナットは確実に締め付けてください。走行中にルーフアンテナが脱落するおそれがあります。

! ルーフアンテナを必ず取り付けてください。ルーフアンテナが取り付けられていないと、リモコンの感度が低下し、リモコンが作動しなくなることがあります。

車内

⚠ **けがのおそれがあります**

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。

- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ディスプレイの清掃

▶ AM/FM ラジオ &CD/DVD プレーヤーの電源をオフにします。

ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

▶ 水で薄めた中性洗剤を含ませた不織布で拭き取ります。

! ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力でディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

プラスチックトリムの清掃

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シートの清掃

! 天然皮革や人工皮革、アルカンタラ ® を使用した部分には、不織布を使用しないでください。頻繁に使用すると、これらの部分を損傷するおそれがあります。

! レザーシートは、軽く湿らせた布で表面を拭き、次に乾いた布で拭き取ります。革が濡れないように注意してください。

ℹ シートを定期的に手入れすることにより、見栄えや快適性を維持することができます。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ **火災や爆発のおそれがあります**

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車し、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

i セレクターレバーを P から動かせないときは、パーキングロックを手動で解除できます。詳しくは（▷244 ページ）をご覧ください。

非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに装備しています。

ℹ 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

ℹ 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

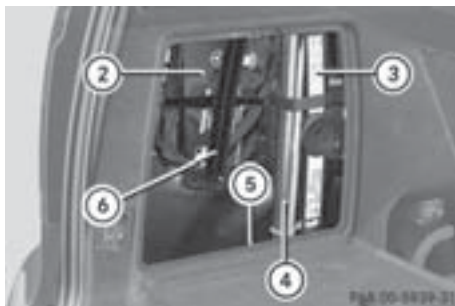
車載工具 / 輪止め / ジャッキ

① ノブ

ラゲッジルーム左側の小物入れには、車載工具 / 輪止め / 停止表示版 / ジャッキ / 救急セットが収納されています。

ラゲッジルーム左側の小物入れを開く

▶ ノブ ① を反時計回りにまわします。

▶ カバーを開きます。

② 救急セット
③ ジャッキ
④ 停止表示板
⑤ 車載工具 / 輪止め
⑥ ホルダー

車載工具

▶ 車載工具の入った袋を取り出します。

ホイールレンチ、ジャッキハンドル、ジャッキ用アダプタ、けん引フック、手袋が収納されています。

ℹ ジャッキを使用するときは " パンクしたとき "（▷252 ページ）に記載されている安全に関する内容を必ずお読みください。

救急セット

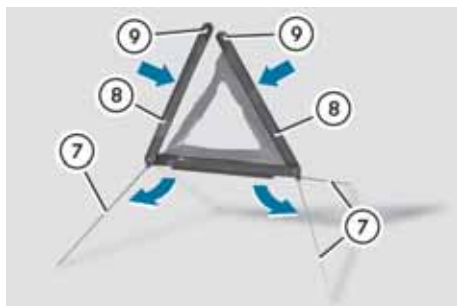
救急セットを取り外す

▶ ホルダー ⑥ を外します。

▶ 救急セット ② を取り出します。

ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

※ 救急セットの車載位置が異なる場合があります。

停止表示板

停止表示板を取り外す

▶ ベルクロテープを外し、停止表示板 ④ を取り出します。

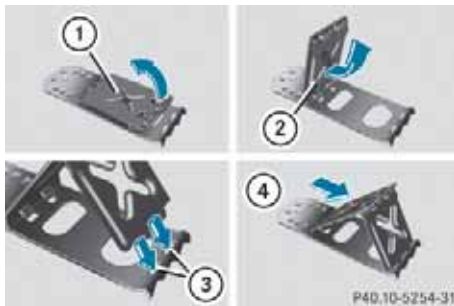
停止表示板を使用する

▶ 左右のスタンド⑦を拡げて地面に立てます。

▶ 反射板⑧を引き出し、頂点⑨をかみ合わせてロックします。

※ 停止表示板の形状が異なる場合があります。

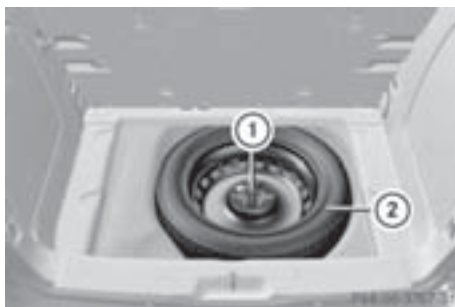
輪止め

輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防ぐ補助として使用します。

▶ プレートを上方に引き上げます。

▶ 下側のプレート ② を引き出します。

▶ ベースプレートの開口部 ③ に、下側のプレート ② の凸部を差し込みます。

❗ 輪止めを使用するときは、タイヤが図 ④ の矢印の位置にあたるようにします。

応急用スペアタイヤ

応急用スペアタイヤを取り出す

- ▶ ラゲッジフロアボードを開いて、バッグホルダーに立てかけます (▷168 ページ)。
- ▶ スクリュー ① を反時計回りにまわして外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤ ② を取り出します。

! 応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

故障 / 警告メッセージ

⚠ **事故のおそれがあります**

表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ 事故のおそれがあります

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずエンジンスイッチを **2** の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの ⊟ または ⊟ スイッチを押して、故障件数画面を選択します。

故障や異常がある場合は、マルチファンクションディスプレイに " コショウ 2" のように故障や異常の件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障件数画面は表示されません。

▶ ステアリングの △ または ▽ を押して、故障 / 警告メッセージ画面を順番に表示させます。

すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの ⊟ ⊟ や △ ▽ スイッチまたはリセットボタン（▷99 ページ）を押します。

故障 / 警告メッセージの表示が消えます。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABS ABS, ESP ｼﾖｳ ﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 一時的に ABS と ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）が作動しない状態になっている。システムの自己診断が完了していない可能性がある。 以下のシステムも作動しない状態になっている。 • BAS（ブレーキアシスト） • ステアコントロール • ヒルスタートアシスト • タイヤ空気圧警告システム ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ わずかにステアリングを操作しながら、約 20km/h 以上の速度で、短い距離を注意して走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は待機状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABS ABS, ESP ｼﾖｳ ﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、一時的に ABS と ESP® が作動しない状態になっている。バッテリーが充電されていない可能性がある。 以下のシステムも作動しない状態になっている。 • BAS • ステアコントロール • ヒルスタートアシスト • タイヤ空気圧警告システム ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ABS ABS, ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS と ESP® が作動しない状態になっている。 以下のシステムも作動しない状態になっている。 • BAS • ステアコントロール • ヒルスタートアシスト • タイヤ空気圧警告システム ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ESP ｼｮｳ ﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 一時的に ESP® が作動しない状態になっている。システムの自己診断が完了していない可能性がある。 以下のシステムも作動しない状態になっている。 • BAS • ステアコントロール • ヒルスタートアシスト • タイヤ空気圧警告システム ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ わずかにステアリングを操作しながら、約 20km/h 以上の速度で、短い距離を注意して走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は待機状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	電圧低下のため、ESP® が作動しない状態になっている。バッテリーが充電されていない可能性がある。 以下のシステムも作動しない状態になっている。 • BAS • ステアコントロール • ヒルスタートアシスト • タイヤ空気圧警告システム ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP® が作動しない状態になっている。 以下のシステムも作動しない状態になっている。 • BAS • ステアコントロール • ヒルスタートアシスト • タイヤ空気圧警告システム ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾄﾗﾝｽ ﾐｯｼｮﾝ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面に F が表示される。 オートマチックトランスミッションの作動が制限されている。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動してください。 ▶ 前進する場合はセレクターレバーを D に入れてください。 後退する場合はセレクターレバーを R に入れてください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
ｽﾀｰﾄﾊｷﾞｬｲﾁ N ﾆ ｼﾌﾄ	セレクターレバーが P か N に入っていない状態でエンジンを始動しようとした。 ▶ セレクターレバーを P か N に入れてください。
ｹﾝｶﾞｲ	車が携帯電話の電波が届かない場所にある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに " ﾏﾁｳｹ " と表示されるまで待ってください。
ﾀｲﾔｴｱｱﾂ ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムが、タイヤからの急激な空気漏れを検知した。 ▶ 交通状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。必要であればタイヤを交換してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ タイヤ空気圧が適正になったら、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷194 ページ）。
ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｿﾉｱﾄﾃﾞ ｻｲｷﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれたあとに、再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷194 ページ）。
ﾀｲﾔｴｱ ｱﾂ ｹﾝﾁ ﾓﾆﾀｰ ｻﾄﾞｳ ｼﾃｲﾏｾﾝ	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
SRS SRS ｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
Bluetooth ｾﾂｿﾞｸﾏﾁ	AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤーに、Bluetooth® 対応携帯電話が接続されていない。 ▶ AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤーに、Bluetooth® 対応携帯電話を接続してください。
ﾃﾞﾝｿﾞ ｵﾌ	AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤーの電源がオフになっている。 ▶ AM/FM ラジオ & CD/DVD プレーヤーの電源をオンにしてください。

イラストメッセージ

⚠ **事故やけがおそれがあります**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ テールゲートを閉じてください。
	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを閉じてください。
	いくつかの電気システムがマルチファンクションディスプレイに情報を表示できない状態になっている。以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター • クルーズコントロール / 可変スピードリミッター表示 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 レイキャクスイ ホジュウ マニュアル サンショウ	冷却水量が不足している。 ▶ 補給時の注意事項を参照しながら、冷却水を補給してください（▷189 ページ）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。
	ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けて、点検を受けてください。 ▶ その場合は、山道での走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンに大きな負荷をかけることは避けてください。
 レイキャクスイ テイシャ シテ エンジン テイシ！	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 雪などで、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき：** ! 走行しないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メッセージが消えるまでエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	以下の原因により、バッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの異常 • Ｖベルトの損傷 • 電気システムの故障 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください ▶ Ｖ ベルトを点検してください。 **Ｖベルトが切れているとき：** ! 走行しないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **Ｖベルトが損傷していないとき：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	バッテリーの電圧が低すぎる。 ▶ エンジンを始動してください。 ▶ 必要のない電気装備は停止してください。
	バッテリーの電圧が高すぎる。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でオルタネーターの点検を受けてください。
 ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクに十分な量のブレーキ液がない。さらに、メーターパネルに赤色の (!) が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ	パーキングブレーキを解除しないで走行している。警告音も鳴った。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 ﾊﾟﾜｽﾃ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** パワーステアリングが機能しない。ステアリング操作に非常に大きな力が必要になる。 ステアコントロールの機能も解除されている。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 **安全にステアリング操作ができるとき：** ▶ 注意しながらメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **安全にステアリング操作ができないとき：** ▶ 走行を続けないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
 ﾋﾀﾞﾘ ﾏｴ ｳｨﾝｶｰ 1)	フロント左側の方向指示灯が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーに異常がある。 ▶ ヘッドランプの点灯モードを手動点灯モードにしてください（▷115 ページ）。 ▶ ランプスイッチで、ヘッドランプを点灯 / 消灯してください（▷72 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ﾗｲﾄ ｼｮｳﾄｳ	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。警告音も鳴った ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
 ｵｲﾙ ﾌﾟﾚｯｼｬ ﾃｲｼｬｼﾃ ｴﾝｼﾞﾝﾃｲｼ！	エンジンの油圧が非常に低下している。エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください（▷183 ページ）。
 ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が非常に不足している。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください（▷183 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、エンジンからオイルが漏れていないか点検してください。

1）車種や仕様により、車外ランプいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キー ガ チガ イマス	エンジンスイッチに不適切なキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
キー ヲ コウカン	キーを交換しなければならない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
スピ ードリミッタ コショウ	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ソウコウカノウ	**マルチファンクションディスプレイに走行可能距離画面を表示しているとき** 燃料の残量がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
ネンリョウ リザ ーブ	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
ウォッシャエキ ホキュウ シテクダ サイ！	ヘッドランプウォッシャー装備車： リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷188 ページ）。

トラブルの原因と対応

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
シートヒータースイッチ * の表示灯が点滅している。 シートヒーターが自動的に停止する。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーの AC スイッチ A/C を押しても、表示灯が点灯しなかったり、3 回点滅する。 AC スイッチ A/C を押しても、除湿 / 冷房されない。	故障のため、除湿 / 冷房機能が解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。 リアデフォッガーが短時間で停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ シートヒーター * やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS の機能が解除されている。 同時に ESP®、BAS、ステアコントロール、ヒルスタートアシスト、タイヤ空気圧警告システムなどの機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、電子制御システムは作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加で表示される故障 / 警告メッセージに注意してください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットに異常がある場合は、ナビゲーションシステム *、オートトロニックなどが機能しない可能性がある。
 エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS の機能が解除されている。 そのため、ESP®、BAS、ステアコントロール、ヒルスタートアシスト、タイヤ空気圧警告システムなどの機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、ABS は作動できる状態になります。 警告灯が点灯したままのとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、バッテリーとオルタネーターの点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯が点灯する。 さらに、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示される。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP® が作動しない状態になっている。 以下のシステムも作動しない状態になっている。 • BAS • ABS • ステアコントロール • ヒルスタートアシスト • タイヤ空気圧警告システム ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加で表示される故障 / 警告メッセージに注意してください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
⚠ 走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているため、ESP® またはトラクションコントロールが作動している。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 道路と天候の状態に合わせて運転してください。
SRS エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置に異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) BRAKE 走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
(!) BRAKE エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクに十分な量のブレーキ液がない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加で表示される故障 / 警告メッセージ（▷229 ページ）に注意してください。 ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
 エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、安全な場所に収納してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的に警告音も鳴った。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告音

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷221 ページ）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
エンジンスイッチを **2** の位置にすると、警告音が約 6 秒間鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
車両から燃料が漏れている。	⚠ **爆発や火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに異常がある。 ▶ ただちにエンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを再始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
車両から燃料が漏れている。	⚠ **爆発や火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ リモコン操作またはエマージェンシーキーで解錠してください。 ▶ テールゲートを開いてください。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷245 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。 ▶ 燃料給油フラップを手動で開いてください（▷245 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを **3** の位置にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムが故障している。 • 燃料供給システムが故障している。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを **3** の位置にするとスターターモーターの音がする。燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを **3** の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低下している。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷261 ページ）。 他車のバッテリーを電源としてもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷により、スターターモーターが過熱している。 ▶ スターターモーターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作をしてください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジンコントロールユニットの作動部分に異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 燃焼していない燃料が触媒に入り、触媒を損傷するおそれがあります。
冷却水温度が約 120℃を超えている。 マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全な場所に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は、補給時の注意事項を参照しながら、冷却水を補給してください（▷185 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ その場合は、山道での走行や発進と停止を繰り返す走行などエンジンに大きな負荷をかけることは避けてください。

オートトロニック

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 マニュアルシフトが機能しない。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 以下の方法で走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 ▶ エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。 ▶ 約 10 秒以上待ってからエンジンを再始動してください。 ▶ 前進する場合はセレクターレバーを D に入れてください。 後退する場合はセレクターレバーを R に入れてください。 ▶ ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック *

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴った。 約 20 秒後にパークトロニックが停止して、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、停止している。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス･ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックが停止した。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷212 ページ）。 ▶ 再度、エンジンスイッチを **2** の位置にしてください。
	外部の電波や超音波が干渉している可能性がある。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷133 ページ）。

万一のとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドランプ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 湿度や気温などの天候および走行時間に応じて、ヘッドランプ内側の曇りが取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が浸入している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪などがワイパーの作動を妨げている。ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	⚠ **事故のおそれがあります** ワイパーが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（▷81、82 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアウインドウが全閉しない。	ドアウインドウとドアフレームの間に障害になる物が挟まっている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	ドア内部のガイドレールなどに障害になる物があり、ドアウインドウの上昇を妨げている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	原因が分からない場合。 ▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを引いてください（▷84 ページ）。

ドアミラー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷66 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押してください。 ドアミラーがはまり、通常通りドアミラーを調整できるようになります。

キー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	ルーフアンテナが取り付けられていない。 ▶ ルーフアンテナを取り付けてください（▷213 ページ）。
	キーの電池が消耗している。 ▶ 再度リモコン機能で解錠 / 施錠操作を行なってください。キーの先端を運転席ドアハンドルに向けて、至近距離から解錠ボタンまたは施錠ボタンを押してください。 解錠 / 施錠できないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷246 ページ）。 ▶ 非常時の解錠 / 施錠（▷243 ページ）をご覧ください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーが故障している。 ▶ 非常時の解錠 / 施錠（▷243 ページ）をご覧ください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチが **3** の位置までまわらない。	ステアリングロックが効いている。 ▶ ステアリングを軽く左右にまわしながら、エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 4 週間以上におよぶとき。	バッテリーが完全にあがると、バッテリーを損傷するおそれがある。 ▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。 ℹ バッテリーの点検はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

キーに収納されています。

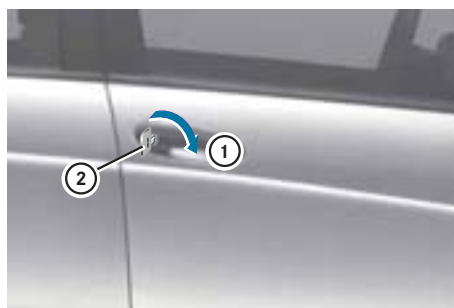
リモコンが作動しないときに、運転席ドアを解錠することができます。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を矢印の方向に抜きます。

▶ 収納するときは元の位置に差し込みます。

エマージェンシーキーでの運転席ドアの解錠

リモコン操作で車を解錠できないときは、以下の方法で運転席ドアを解錠してください。

▶ エマージェンシーキー ② を運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ② を ① の方向（時計回り）にまわします。

▶ ドアハンドルをいっぱいまで引きます。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜き取ります。

▶ 再度ドアハンドルを引き、運転席ドアを開きます。

ℹ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

ℹ 助手席ドアのドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

燃料給油フラップを解錠する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

非常時の車の施錠

リモコン操作で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

▶ 助手席ドアと助手席側リアドア、テールゲートを閉じます。

▶ 運転席ドアと運転席側リアドアを開きます。

▶ 運転席ドアのドアロックスイッチ（施錠）（▷52 ページ）を押します。

助手席ドアと左右リアドアのロックノブが下がります。

▶ ロックノブが下がっていないときは、助手席ドアと左右リアドアのロックノブを押し込みます。

▶ 車を降り、運転席ドアを閉じます。

▶ 開いている運転席側リアドアから腕を伸ばして、運転席ドアのロックノブを押し込みます。

ℹ キーが車内になく、携帯していることを確認してください。

▶ 運転席側リアドアを閉じます。

▶ すべてのドアとテールゲートが閉じていることを確認してください。

! ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、テールゲートが施錠されていないことがあります。このときは、車を完全に施錠することができません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

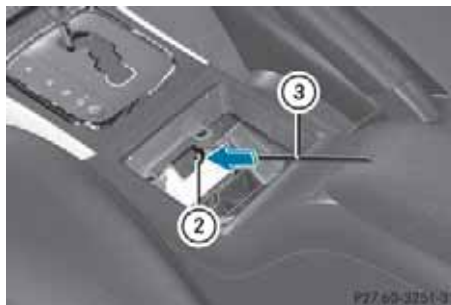
パーキングロックの解除

セレクターレバーを P から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。

この作業はできるだけメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

! セレクターレバーを動かすことができたときでも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ カップホルダー ① を上方に取り外します。

▶ ドライバーなど ③ でロック解除ボタン ② を押しながら、セレクターレバーを P から動かします。

⚠ **火傷のおそれがあります**

ロック解除ボタン ② は非常に高温になることがあるため、指などで直接触れないでください。火傷をするおそれがあります。

燃料給油フラップの解錠

リモコン操作で燃料給油フラップを解錠できないときは、以下の方法で解錠してください。

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルーム右側の小物入れのノブ ① を時計回りにまわしてロックを解除し、カバーを開きます。

▶ 小物入れ内側のトレイ ② の上部を持ち、手前に開きます。

▶ 内部にあるロックユニット ③ を時計回りに約 60° まわしてから後方に引いて、ロックユニットを取り外します。

燃料給油フラップのロックが解除されます。

▶ 燃料給油フラップを開きます。

作業を行なった後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にロックモーターの点検と取り付けを依頼してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

ラゲッジルーム右側のカバーの内部には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。けがをしないように注意してください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能距離が短くなったり、ボタンを押しても作動しない場合は、電池の消耗が考えられます。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

⚠ **中毒のおそれがあります**

電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。

もし電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環　境

バッテリーには有害物質が含まれています。環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

キーの電池を点検する

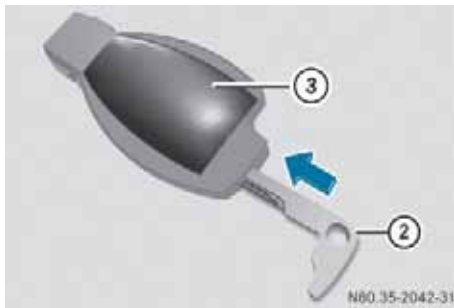
▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

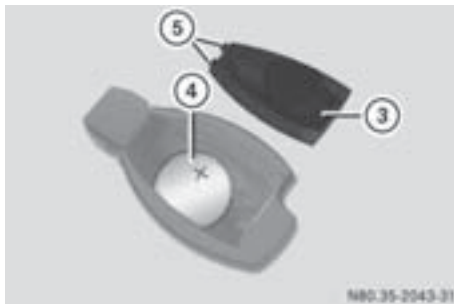
キーの表示灯 ① が一回点滅すれば電池は正常です。

ℹ 車両の近くでキーの電池の点検を行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ℹ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手の上に乗せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（＋）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

▶ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認します。

▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

⚠ けがのおそれがあります

- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用して、直接手で電球に触れないようにしてください。

  電球は高温になるため、火傷をするおそれがあります。また、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。電球に触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球が熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。電球には圧力のかかったガスが封入されているため、破裂するおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが **2** の位置のときは、バイキセノンヘッドランプ * のバルブソケットや配線に手を触れないでください。

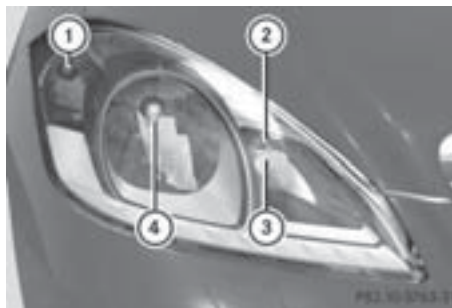
  高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- バイキセノンヘッドランプ * のバルブ交換は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。その他の電球の交換についても、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

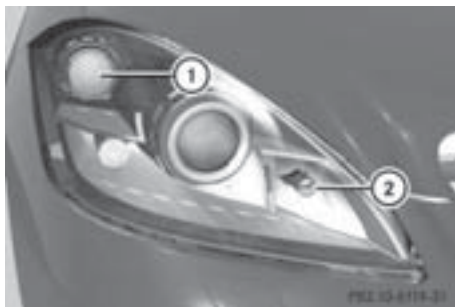
! 電球の交換を行なうときは、車両に装着されている電球の規格を確認してください。

ℹ マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷230 ページ）をご覧ください。

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

ハロゲンヘッドランプ装着車

ランプ		ワット数（規格）
①	フロント方向指示灯	21W（黄色）
②	ヘッドランプ（上向き）	55W（H7）
③	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W
④	ヘッドランプ（下向き）	55W（H7）

* オプションや仕様により、異なる装備です。

バイキセノンヘッドランプ装着車

ランプ		ワット数（規格）
①	フロント方向指示灯	21W（黄色）
②	コーナリングランプ	55W（H7）

テールランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	テールランプ／ブレーキランプ	21W
②	バックランプ	21W
③	リア方向指示灯	21W（黄色）
④	テールランプ／リアパーキングランプ／リアフォグランプ（右側のみ）	21W

ライセンスランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	ライセンスランプ	5W

ワイパーブレードの交換

フロントワイパー

⚠ **事故のおそれがあります**

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取れず、視界を妨げて事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

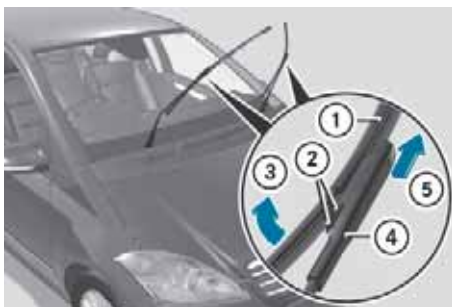
! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームが取り付けられていない状態で、ワイパーアームを元の位置に戻さないでください。

! ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ワイパーアームがフロントウインドウに当たり、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

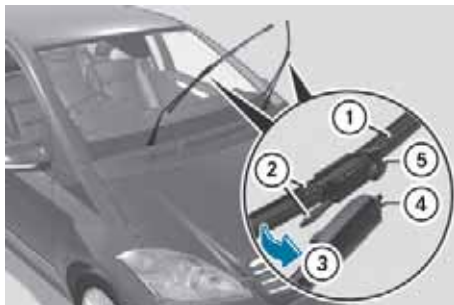
! ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ワイパーアーム ④ を起こします。

▶ クリップ ② を両側から押し込んでロックを外し、ワイパーブレード ① を ③ の方向にまわします。

▶ ワイパーブレード ① を ⑤ の方向に取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレード ① の取り付け部 ⑤ をワイパーアーム ③ の先端 ④ に合せます。

▶ クリップ ② がロックされるまで、ワイパーブレード ① を矢印の方向に押し込みます。

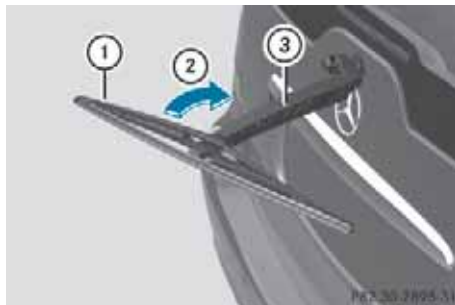
▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

リアワイパー

⚠ **けがのおそれがあります**

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ワイパーアーム ③ を起こします。

▶ ワイパーブレード ① を矢印 ② の方向にまわして、ワイパーアームのロックを外します。

▶ ワイパーブレード ① を取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレード ① を、ワイパーアーム ③ に押し込んでロックします。

▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

ウォッシャーノズルの調整

⚠ **けがのおそれがあります**

ウォッシャー液の噴射方向を調整するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ウォッシャー液の上下の噴射方向を正しく調整してください。

▶ ウォッシャーノズル ① を矢印の方向に動かして噴射位置を調整します。

噴射位置はフロントウインドウの中央よりやや上の位置を目安としてください。

! 噴射方向を調整するときに、先のとがった物を使用しないでください。ウォッシャーノズルを損傷するおそれがあります。

パンクしたとき

⚠ **事故のおそれがあります**

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

タイヤ交換の前に

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ ステアリングを直進の位置にします。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 車から降ります。

▶ ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

❗ タイヤを交換するときは、エンジンを始動しないでください。

❗ 車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを **0** の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

パンクしたタイヤを交換する

⚠ **事故のおそれがあります**

- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行性能が大きく変化します。十分注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

❗ 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

❗ 応急用スペアタイヤを取り出すときや、タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

タイヤ交換の準備

▶ タイヤ交換に必要な準備を行ないます（▷252 ページ）。

▶ ラゲッジフロアボードの下から応急用スペアタイヤを取り出します。

▶ 輪止め、ジャッキ、ジャッキハンドル、ジャッキ用アダプタ、ホイールレンチを準備します（▷219、220 ページ）。

❗ 応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

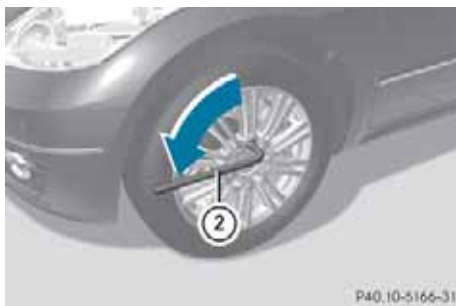
▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

ⓘ 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

ホイールカバーの取り外し（スチールホイール装備車）

▶ スチールホイール装備車は、矢印の位置に手を入れ、ホイールカバー① を取り外します。

! ホイールカバーを取り外すときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

▶ ホイールレンチ ② で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

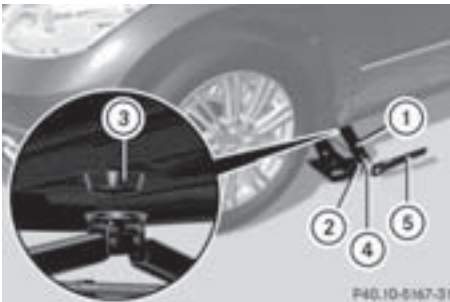
ジャッキアップ

⚠ けがのおそれがあります

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- 車の下で作業をするときは、必ずリフトなどで車を持ち上げてください。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。また、ジャッキが伸びていない状態では、車を支えることができないおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランクを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- 傾斜の急な斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。
- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

ジャッキサポート以外の場所にはジャッキを使用しないでください。ジャッキが外れてけがをしたり、車両を損傷するおそれがあります。

ジャッキは交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートで使用してください。また、ジャッキを使用する前に、ジャッキサポートに異物や汚れがないことを確認してください。

▶ ダイヤル部分 ② を手でまわしてジャッキを伸ばしながら、交換するタイヤに近いジャッキサポート ③ にジャッキ ① の先端をあてます。

このとき、ジャッキ ① の先端がジャッキサポート ③ に接してぐらつかない程度までダイヤル部分 ② をまわします。

▶ ジャッキ用アダプタ ④ をジャッキ ① に取り付け、ジャッキハンドル ⑤ を、"AUF UP" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

ℹ ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所に設けられています。

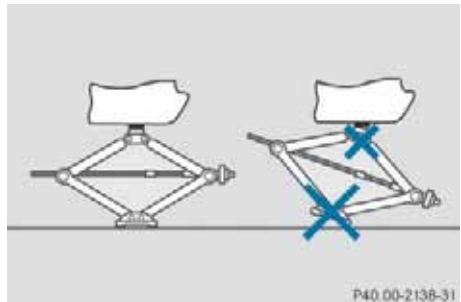
! ジャッキハンドル ⑤ は、"AUF UP" の文字が見える面が手前にくるように取り付けないと、ジャッキアップできません。

! ジャッキはこの車のタイヤ交換以外には使用しないでください。

! ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。

! ジャッキが正しくジャッキサポートに入っていることを確認してください。

! 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。

! ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ ジャッキハンドルを繰り返し操作し、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から約 3cm 以内にしてください。

▶ ホイールボルトを外して、ホイールを取り外します。

! ホイールやホイールボルトを外したときは、以下の点に注意してください。

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤの取り付け

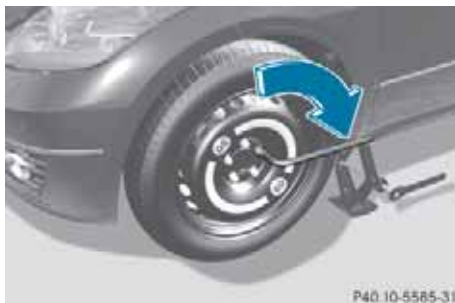
⚠ **事故のおそれがあります**

- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ穴が損傷したときは、走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 応急用スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルトを使用します。異なるホイールボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にホイールが外れるおそれがあります。
- ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に、砂や汚れなどがないことを確認します。

P40.10-5583-31

▶ ホイールハブのネジ穴とホイールの穴の位置が合うように応急用スペアタイヤを持ち上げます。

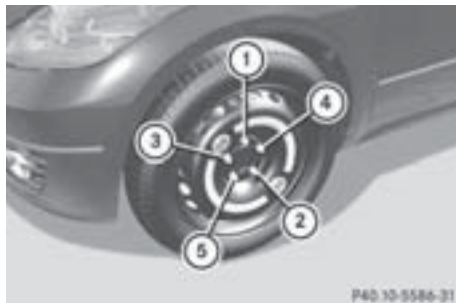
P40.10-5585-31

▶ 5 本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

ジャッキダウンする

▶ ジャッキハンドルを、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

! ジャッキハンドルは、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けないと、ジャッキダウンできません。

▶ ハンドルを繰り返し操作し、ジャッキを下げます。

P40.10-5586-31

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクは 13 kg-m（130Nm）です。

⚠ **事故のおそれがあります**

ホイールを交換した後は、ただちにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。締め付けトルクが 13kg-m（130Nm）に達していないと、ホイールがゆるむおそれがあります。

▶ ジャッキを縮め、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

ℹ 応急用スペアタイヤを装着して走行しているときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。

ホイールカバー * 装着時の注意

ホイールカバーをホイールに装着するときは、以下の注意事項を守ってください。バルブが損傷してタイヤから空気が抜けたり、事故を起こすおそれがあります。

ホイールカバーをホイールに装着するときは、バルブ ① がバルブホール ② を通るように装着してください。

さらに、バルブ ① がバルブホール ② の中心を通っていて、ホイールカバーに接触していないことを確認してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

環　境

バッテリーには有害物質が含まれています。環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

⚠ 爆発のおそれがあります

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の注意事項を守ってください。

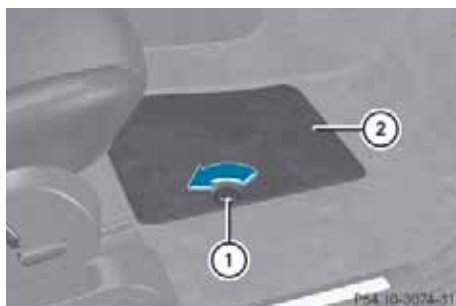
- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチを **0** の位置にして、キーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

バッテリーの点検や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。少なくとも 2 年ごとまたは 20,000km ごとに点検・交換を行なってください。

ⓘ 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを抜いてください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

ⓘ バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

バッテリーの位置

バッテリーは運転席足元のフロア下にあります。

▶ コインなどでノブ①を反時計回りにまわしてロックを外します。

▶ カバー②を取り外します。

▶ 内部にあるスポンジを取り外します。

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジン始動を行なわないでください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ **爆発のおそれがあります**

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

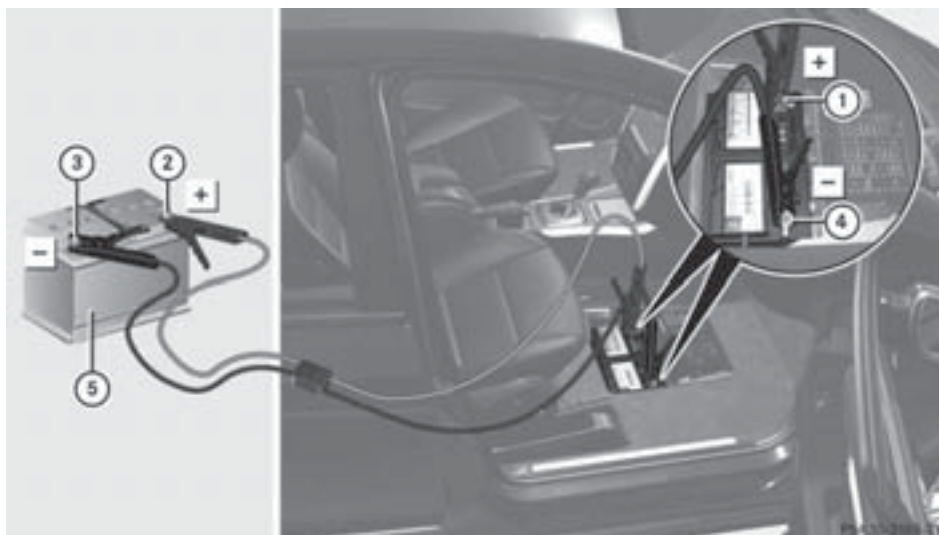
! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

! ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

ℹ バッテリーが凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め(約 50℃以下)、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

始動の方法

▶ バッテリー電圧が同じ (12V) で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認してください。

▶ パーキングブレーキを効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車の電気装備をすべて停止し、エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ 運転席ドアを開き、運転席足元フロア下のカバーを開きます（▷260 ページ)。

▶ 内部にあるスポンジを取り外します。

▶ 自車の⊕端子 ① のカバーを取り外します。

▶ 自車のバッテリーの⊕端子 ① に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリー ⑤ の⊕端子 ② に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子 ③ に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの⊖端子 ④ に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

▶ 自車の⊖端子 ④ から黒色ブースターケーブルを外したあと、救援車の⊖端子 ③ から黒色ブースターケーブルを外します。

▶ 自車の⊕端子 ① から赤色ブースターケーブルを外したあと、救援車の⊕端子 ② から赤色ブースターケーブルを外します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下の作業が必要になることがあります。

- オーディオの再設定
- パワーウインドウのリセット
- 施錠時のドアミラー格納機能のリセット

けん引

けん引時の注意

⚠ **事故のおそれがあります**

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンを始動できないときは、他車のバッテリーを電源とした始動を試みてください。

! やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従い、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に移送してください。

! けん引する距離が長くなるときは、必ずフロントをつり上げてください。

! フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを **0** の位置にしてください。ESP® が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! けん引される前に、バッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。エンジンスイッチを **2** の位置にすることができないため、セレクターレバーを **P** から動かせなくなります。また、エンジンが停止していると、ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。

セレクターレバーを **P** から動かせないときは、（▷244 ページ）をご覧ください。

! けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷119 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

! 押しがけは行なわないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

けん引フックの取り付け / 取り外し

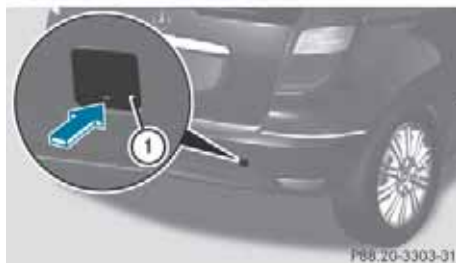
けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷219 ページ）からけん引フックを取り出します。

⚠ 火傷やけがのおそれがあります

作業を行なうときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。

フロントの取り付け部は、フロントバンパーの向かって左側にあります。

リアの取り付け部は、リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ カバー ① のマーク部を押して、カバーを取り外します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、停止するまで締め込みます。

けん引フックを取り外す

▶ けん引フックをゆるめて取り外します。

▶ けん引フックのカバーを取り付けます。

▶ けん引フックを車載工具に収納します。

けん引する

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

前輪をつり上げてけん引するとき

前輪をつり上げてけん引するときは、以下のことに注意してください。

! 必ずエンジンスイッチを **0** の位置にしてください。ESP® が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! 必ずセレクターレバーを **N** に入れてください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ 車速感応ドアロックを解除します (▷119 ページ)。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にして、エンジンスイッチにキーを差したままにしておきます。

前後輪をつり上げないでけん引するとき

前後輪をつり上げないでけん引するときは、以下のことに注意してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

エンジンがかかっていないときはステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。状況に合わせて、操作を行なってください。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引しているとき、進路変更などのために方向指示灯を点滅させるときは、コンビネーションスイッチを通常通り操作してください。方向指示灯の点滅に切り替わります。コンビネーションスイッチを中立の位置に戻すと、非常点滅灯の点滅に戻ります。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にします。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

▶ 車両を積載したあとに、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを **P** に入れます。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 車両を固定します。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをホイールにかけます。サスペンションやメンバー部分には固定ロープをかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ 火災のおそれがあります

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

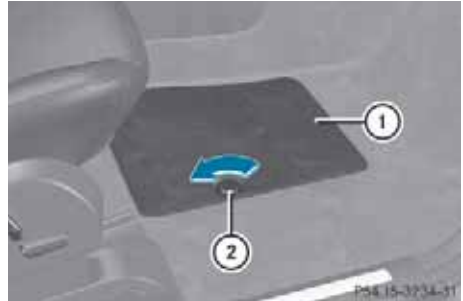
ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

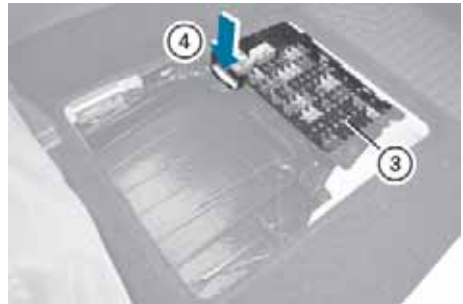
! 以下のようなときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

! 必ず指定された正しい容量のヒューズを使用してください。電気装備や電気回路などを損傷するおそれがあります。

ヒューズの位置

ヒューズボックスは運転席足元のフロア下にあります。

▶ コインなどでノブ ② を反時計回りにまわしてロックを外します。

▶ カバー ① を取り外します。

ヒューズボックス ③ の後方にヒューズ一覧表 ④（英文）があります。

ヒューズを交換する

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検して、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

! ヒューズボックスの中には、ほこりや湿気が入らないようにしてください。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス（運転席足元のフロア下）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	5A	ブレーキランプ
2	25A	リアデフォッガー
3	7.5A	イグニッションロック、メーターパネル
4	15A	イグニッションロック
5	7.5A	エアコンディショナー
6	15A	ホーン
7	25A	燃料ポンプ
8	25A	ルーフユニット
9	40A	ESP®
10	40A	エアコンディショナー送風ファン
11	30A	エンジンエレクトロニクス
12	5A	マルチファンクションステアリング
13	25A	パワーウインドウ（フロント）
14	25A	パワーウインドウ（フロント）
15	25A	ESP®
16	10A	診断ソケット、パークトロニック
17	5A	ランプスイッチ
18	—	未使用
19	5A	ESP®
20	7.5A	エアバッグシステム
21	30A	スターター
22	7.5A	メーターパネル
23	—	未使用
24	7.5A	パワーステアリング
25	7.5A	ブレーキランプ、ESP®
26	7.5A	トランスミッションコントロール

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
27	10A	トランスミッションコントロール
28	5A	コンパス、ランプスイッチ
29	30A	SAM
30	25A	トランスミッションコントロール、ESP®
31	5A	ランプスイッチ
32	–	未使用
33	15A	オーディオ
34	25A	パワーウインドウ（リア）
35	25A	パワーウインドウ（リア）
36	10A	パークトロニック
37	7.5A	エアバッグシステム
38	25A	ライター
39	25A	フロントワイパー
40	7.5A または 25A	パノラミックラメラールーフ
41	15A	オーディオ、リアワイパー
42	7.5A	グローブボックスランプ、バニティミラー照明、オプション
43	15A	エンジンエレクトロニクス
44	15A	エンジンエレクトロニクス
45	–	未使用
46	–	未使用
47	–	未使用
48	–	未使用
49	25A	シートヒーター
50	7.5A	オーディオ
51	–	未使用
52	–	未使用
53	30A	12V 電源ソケット
54	–	未使用
55	– または 10A	ヘッドランプ / コーナリングランプ（左側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
56	–	未使用
57	–	未使用
58	–	未使用
59	–	未使用
60	20A	助手席シート調整
61	20A	運転席シート調整
62	40A	ヘッドランプ / コーナリングランプ
63	7.5A または 25A	オプション
64	40A	オプション
65	80A	パワーステアリング
66	60A	SAM
67	50A	フロントシート調整、12V 電源ソケット
68	50A または 60A	エンジンファン
69	50A	ライター、エアバッグシステム、グローブボックスランプ、ルーフユニット、フロントワイパー、リアワイパー、バニティミラー照明
70	60A	エアコンディショナー、電話、ランプスイッチ、メーターパネル、ESP®、パワーステアリング、エアバッグシステム、バックランプ、スターター、エアコンディショナー送風ファン

（2009-07-30・169 006 01 99）

ℹ 仕様 / 装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

ℹ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

メルセデス・ベンツ純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

環 境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ⓘ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

車両の電子制御部品について

⚠ 事故のおそれがあります

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の使用に対する適合性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

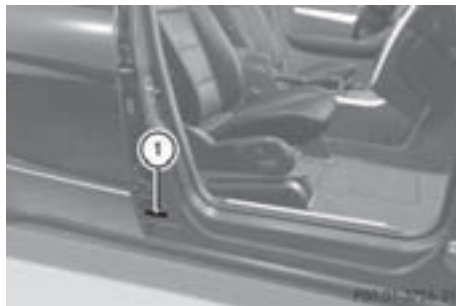
! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- ピラー付近
- サイドシル付近

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

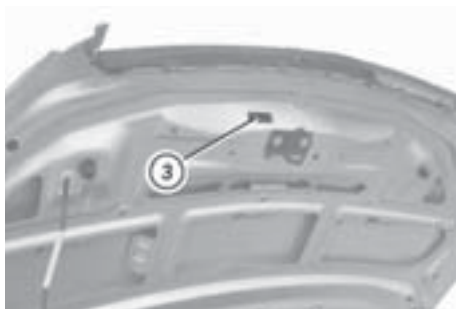
ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に車の車台番号およびカラーコードを記載したニューカープレート ① が貼付してあります。

車台番号

エンジンルーム内のフレームに車台番号 ② が打刻してあります。

オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを記載したプレート ③ が貼付してあります。

エンジン番号

エンジンブロック最下部にエンジン番号が打刻してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ず Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

⚠ **爆発のおそれがあります**

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ **健康を害するおそれがあります**

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 54 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 6 ℓ

! 軽油を給油しないでください。少量でも軽油を給油すると、燃料噴射システムやエンジンを損傷するおそれがあります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 燃料に添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

環　境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

エンジンオイル

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

エンジンオイル容量

車種	容量 （オイルフィルター交換時）
全車	約 5.0 ℓ

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください（▷185 ページ）。

⚠ 火災のおそれがあります

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37˚C
約 55%	− 45˚C

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

⚠ **事故のおそれがあります**

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー * 液のリザーブタンクは兼用です。

⚠ **火災のおそれがあります**

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12 V
容量	74 Ah

※ バッテリーの容量は、予告なく変更されることがあります。

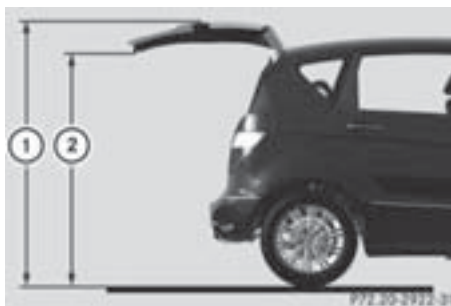
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ビークルデータ

積載荷物の制限重量

ルーフ	50 kg
ラゲッジルーム	100 kg

ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

テールゲートを開いたときの高さ

① テールゲートを開いたときの高さ（外側）
② テールゲートを開いたときの高さ（内側）

テールゲートをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	1972 ～ 1984 mm
②	1889 mm

タイヤ、積載荷物、オプション装備品やサスペンションの状態などにより、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷191 ページ）。

i 左右には必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

i 標準タイヤとウィンタータイヤなど、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
A 180	185 / 65R15	6.0J × 15	44mm
A 180 ELEGANCE	195 / 55R16	6.0J × 16	46mm

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
16 インチホイール	195 / 55R16	6.0J × 16	46mm
17 インチホイール	215 / 45R17	7.0J × 17	54mm
18 インチホイール	215 / 40R18	7.0J × 18	54mm

! 17 インチホイール装着車にスノーチェーンを装着するときは、純正スノーチェーンのみを装着し、緊急脱出用としてステアリングを直進にした状態でのみ使用してください。ステアリングをまわした状態で使用すると、車体とタイヤが接触して損傷するおそれがあります。

! タイヤサイズ 215/40R 18 の標準タイヤには、スノーチェーンを装着できません。

応急用スペアタイヤ

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

i 応急用スペアタイヤのタイヤ空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに黄色でペイントされています。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
全車	T 125 / 90R16 98M	3.50B × 16	32mm	4.2bar/ 60psi/420kpa

ウィンタータイヤ

i ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
全車	185 / 65R 15 M+S	6.0J × 15	44mm
	195 / 55R 16 M+S	6.0J × 16	46mm

対象モデル

A 180

"ESP®" は Daimler AG の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2010 年 12 月現在のものです。